三分二地頭職事、

右任亡父有泰應安二年六月十日讓狀、可領掌之狀如件、

康曆二年六月二日〇中略

本間太郎左衛門尉泰直申、佐渡國梅津保〇付谷平三浦川浦、澁川浦、地頭職事、預訴狀別書具如此子細、見狀就請文、其沙汰記、所詮貞治以來、度々雖被仰、不出帶證跡云々、不日沙汰付下地於泰直代、可被執進請取、更不可緩怠之狀、依仰執達如件、

永德元年十二月　　左衛門佐判

畠山播磨入道殿

〔本間系圖佐渡本〕佐渡國和泉保四分一號總領方言也同保內、田壹町屋敷一所事、任當知行旨、本間四郎左衛門尉末長、領掌不可有相違之狀如件、

應永廿九年十二月十二日　　判〇足利義持

〔倭名類聚抄五國郡〕佐渡國〇註略管三田三千九百六十町四段

〔拾芥抄中末本朝國郡〕佐渡中遠三郡（中略）田四千八百七十町

〔運歩色葉集諸國之郡名〕佐渡　三郡、田數三千八百七十町、

〔海東諸國記〕佐渡州　郡三、水田三千九百二十八町三段、

〔佐渡志一田土〕天正十七年己丑、上杉家コヽヲ併セ領セシヨリ、幾苅トイフヲモテ稱セシト見エテ、其年霜月、黑金尙信ガ波太郎熊野ノ祠官ニアタヘシ狀ヲ初トシテ、熊野祠ノ條悉クシカリ出セリ、百苅トイフハ、京升ニテ八斗四升ナリトイヘリ古文書、慶長三年戊戌、上杉家所領ヲ奧ノ會津ニ移サレテ、此國豐臣家ニマキラセシ後モ、租稅ノコトハ舊キニ依シトゾ見ユ、〇略中

同ジキ六年辛丑、關東ノ御料ニ併セラレテ、萬制度モ立タレド、イマダ撿地ナドイフ事ニモ及バズ、只、幾千幾百苅ヲ何石何斗ノ稱ニ改メタルマデニアリケム、其後元和三年丁巳、國中屋敷撿地アリ、近世マデモ此國ト隱岐トハ、田租ノミアリテ、圃ノ租稅ハナカリシトイフ說アリ由圖類說此近世トイヘルハ、イツノ頃ヲサスニヤ詳ナラズ、元和七年辛酉ノ收納ヲ記セルニ、米貳萬千三百五十八石四斗三升八合ノウチ、千五百拾石一斗六升ハ永引ト云モノニテ、殘ル貳萬八百四十八石貳斗七升八合ヲ定納トス、此外銀納アリシトイヘドモ、イクバクニヤ記セシモノナシ、後慶安ノコロ新田年々ニ開ケ、元祿改元ニ及デ收納ノ米貳萬四千三百貳拾九石五斗五合八勺ノ內、千貳百九拾七石貳升七合貳勺ハ永引殘ル貳萬三千三拾貳石四斗七升八合六勺、此外ニ山役米トイフモノ八拾八石貳斗貳升七合、及ビ地子ト云モノ貳千六拾壹石四斗九升四合八勺ノ內百拾八石四斗七升壹合五勺ハ永引ニテ、殘ル千九百四拾三石二升三合三勺ヲバ銀ニカヘテ納ムトイヘリ同キ六年癸酉、國司荻原重秀ウケタマハリテ一國撿地アリ、其事ニアヅカレルモノ甚多ク、內藤兵右衛門山田與次兵衛トイフモノコレヲ總ブ、翌七年甲戌、其功ヲ終ヘテ、田六千三百九拾三町四段五畝貳拾五步、圃三千四百拾三丁七段貳拾九步、總テ九千八百七町壹段六畝貳拾四步、糧額拾三萬三百五拾五石九斗八合トナレリ、委シクハ官ノ薄籍ニ載セラレタレバ、コヽニ出サズ、是ヨリ後開墾シタルヲバ皆新田ト唱フルナリ、今國中ノ田圃ノ廣狹左ノ如シ、

雜太郡〇中略

以上百壹ヶ村、田三千三拾壹町四段餘、圃千四百七拾九町六段餘、糧額六萬三千貳百六石三斗壹合、

加茂郡〇中略

以上百三ヶ村、田貳千五百四町餘、圃千三百拾町壹段餘、糧額四萬七千四百六拾七石壹斗貳升、

羽茂郡○中略

以上六拾ヶ村、田八百七拾八町九段餘、糧額貳萬千七百拾貳石七斗九升七合、

三郡貳百六拾四村、通計田六千四百拾四町四段餘、圖三千八百七拾九町八段餘、糧額拾三萬貳千三百八拾六石貳斗壹升八合、

〔佐渡志二戸口〕總テ國ノ盛衰ヲハカリ知ルハ、目ノアタリ民ノ聚散ヲ見ルニシクハナシ、古ヘノトキ、戸口ノ籍ヲ重ゼラレシモ、令義解恐ラクハコレガタメニゾ有ベキ、此邦ノ戸口、天正ヨリ前ハイカニヤアリケム、イヒモツダヘズ、越後ノ上杉地頭ヲホロボシテノチ、戸數ワヅカニ一萬ニミタズ、國ノウチ荒野ノミ多カリシトイヘリ、關東ノ政トナリシ初メ、金銀山ノ盛シナルニツキテ、國國ヨリ人多ク來リアツマリヌル、武德編年集成ソレヨリ元和ノ頃マデ戸數ハ知レズ、口數ハ既ニ二十萬ニ餘リキ、官庫文書寛永ノ末、正保ノ初メヨリシテ漸々減ジ、慶安明曆ニ至テ、益減ゼシヨシヲ語傳ヘタレド、簿籍皆燒失セタレバ、委シクハ知ガタシ、サレド今ヨリ考ルニ、當ニ相川市中ニ人ノ多カリシノミナラズ、鄉村ニモマタ家居多カリケルニヤ、農家ノ廢跡トテ官籍ニ載セラレシ所、今モ猶四百戸ニ餘レリ、コレヲ方言ニ伏セ棟ト唱ル也、寛保コノカタハ明ラカニ記セシ者アレバ、採テコヽニ出セリ、

寛保元年辛酉　戸壹萬九千百貳拾六　男四万八千百五拾七　女四万五千貳百三十七　○中略

口九萬三千三百九拾四

文化十二年乙亥　戸壹万九千五百拾六　男五万八百七拾五　女四万九千百八拾六

口拾万六拾壹

〔官中秘策四〕佐渡國　三郡○中略

一石高拾三万三百七拾三石餘

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調○中略

佐渡國御料　一高拾三万貳千五百六拾五石四斗九升壹合

〔延喜式二十主税六〕諸國出擧正税公廨雜稻○中略

佐渡國、正税三万八千束、公廨八万束、國分寺料一万束、同寺新造藥師佛燈分料五百束、文殊會料一千束、修理池溝料一万束、救急料三万束、俘囚料二千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕佐渡國　管三（中略）正三萬八千束、公八萬束、本額二十束、雜類十三萬三千五百束、

○按ズルニ、延喜式ニ擧グル所ノ雜稻合セテ五萬三千五百束ナリ、此ニ雜類十三萬三千五百束トアルニ合ハズ、蓋シ雜類十三萬三千五百本類ノ二十五萬千五百束トアルハ、實ハ拾七萬千五百束ノ誤ナラン、

〔延喜式二十四主計〕佐渡國行程上卅四日、下十七日、海路卅九日

調庸並輸布　中男作物布、鰒、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥○中略

佐渡國四種　黄連十五斤十兩、藍漆廿五斤、細辛卅八斤、蜀椒三斗、

〔延喜式三十九内膳〕年料○中略　佐渡國糧海藻一擔十二籠

〔毛吹草三〕佐渡

金銀　細辛　黄連　弦藻　小鰯　御松日蓮製裝カケノ松ト云、數珠ニ用ヒ之、

〔三代實錄十七清和〕貞觀十二年二月廿九日辛亥、佐渡國獻奇龜一、其爲形也、鳥嘴赤甲黑質也、

〔鈴鹿家記〕永享二年八月朔日、上杉殿ヨリ佐渡炭十枚、綿ツムギ廿タン、本所參、私、時政炭三枚給ル、

〔官中秘策四〕佐渡國　三郡○中略

出擧稻　國産貢獻　人口

一人數九万四百七拾六人　内四万六千八百六拾七人　男
四万三千六百九人　女
〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調〇中略　文化元甲子年
皆御料
一人數九万貳千四百拾人　高拾三万三百七拾三石餘　佐渡國
内四万六千九百拾七人　男
弘化三丙午年　四万五千四百九拾三人　女
諸國人數調〇中略
皆御料
一人數拾万貳千貳百六拾五人　高拾三万貳千五百六拾五石餘　佐渡國
内五万千貳百三拾壹人　男
五万千三拾四人　女

風俗

〔人國記〕佐渡國
佐渡國之風俗、越後ニ似テ、人ノ氣狹ク而伸ヤカ成事不ㇾ克而心愚也、意地強シトイヘドモ、善トシガタシ、

名所

〔類聚三代格五〕太政官符
應ㇾ置ㇾ弩師一員事
右得ㇾ佐渡國解�something、此國本夷狄之地、人心強暴、動忘ㇾ禮義、常好ㇾ殺傷、望請、准ㇾ出雲隱岐等國ㇾ置ㇾ弩師一員、謹請ㇾ官裁者、正三位行中納言兼民部卿藤原朝臣多緒宣、奉ㇾ勅、依ㇾ請、
元慶四年八月七日

雜載

〔日本鹿子十〕佐渡國中名所之部
越の湖（コシノウミ）　布勢海（モフノウミ）　うらみても何にかはせんあはでのみ越のみづうみ見るめなければ
雪の高濱　降積る雪の高濱はる〳〵と木かげも見えぬ越のうら風
葉持（ハモチ）の浦　屏風岩
〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒〇中略　佐渡國卅人〇中略

諸國器仗〇中略　佐渡國甲一領、横刀四口、弓十張、征箭十具、胡籙十具、
〔儀式十〕十二月大儺儀〇中略
事別天詔久、穢久惡伎疫鬼能、所々村々爾藏里隱布留乎波、千里之外四方之堺、東方陸奥、西方遠値嘉、南方土左、北方佐渡與里乎知能、所乎、奈牟多知疫鬼之住加登、定賜比行賜氏、〇下略

古事類苑

地部二十三

丹波國

名稱

丹波國ハ、タンバノクニト云ヒ、舊クハ、タニハノクニト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ山城、東北ハ近江、西ハ但馬、西南ハ播磨、西北ハ丹後、南ハ攝津、北ハ若狹ニ界ス、東西凡ソ十四里餘、南北凡ソ十二里、此國ハ、古ヘ國府ヲ桑田郡ニ置キ、桑田（クハタ）、船井（フナキ）、多紀（タキ）、氷上（ヒカミ）、天田（アマタ）、何鹿（イカルカ）ノ六郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、明治維新ノ後、桑田郡ヲ南北ノ二郡ニ分チ、京都府ヲシテ南桑田、北桑田、船井、天田、何鹿ノ五郡ヲ治シ、兵庫縣ヲシテ多紀、氷上ノ二郡ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄 五國郡〕丹波 太邇波

〔運歩色葉集 多〕丹波 六郡 丹州

〔饅頭屋本節用集 太天地〕丹波（タンバ）州

〔日本風土記一寄語島名〕丹渡（渡恐誤）波 丹白

〔和漢三才圖會 七十七 丹波〕山陰道八箇國之首、爲二王城附庸之國一、初用二鵆羽（タニハ）字一、後爲二丹波一、十一郡、割二五郡一爲二丹後一、

〔倭訓栞 中編十三 多〕たには 和名抄に丹波をよめり、谷端の義なるべし、四方に山々重なれり、今たんばと呼るは、文字によりて正意を失へるなるべし、はぬる字は、にとおさふるは和語の例なり、

〔諸國名義考 下〕丹波

名義は田庭なるべし、度會の外宮の豐受大神、此國にましまして、内宮の皇大御神の朝夕の大御食奉り給ふ故に、玄かおひし名なるべし、延暦儀式帳に、天照坐皇大神云々、大長谷天皇〇雄御夢爾誄覺賜久、吾高天原坐氏、見志眞岐賜志處爾志都眞利坐奴然吾一所耳不坐波甚苦加以大御饌毛安不聞食坐故爾丹波國比沼乃眞奈井爾坐我御饌都神等由氣大神乎我許欲止誄覺奉支爾時天皇驚悟賜氏卽從丹波國令行幸氏度會乃山田原乃下石根爾宮柱太知立高天原爾比疑高知氏、宮定齋住奉始支是以御饌殿造奉氏天照坐皇大神乃朝御饌夕大御饌乎、日別供奉云々、とあるにて、朝夕の大御饌を主り給ふ神の坐しゝ國なるが故に、田庭と號けゝむ庭とは平かに廣きをいふ、齋清めたる稻を忌庭之穗といふにても玄らる、〇略下

〔古事記開化〕此天皇娶丹波之大縣主名由碁理之女、名高材比賣、生子、〇略下

之大筒木眞若王、〇略中此王娶丹波之遠津臣之女、名高材比賣、生子、〇略下

〔古事記傳二十二〕旦波（タニハ）（中略）さて此名は多遲波なるを、後ノ世にタンバと唱つるは、字音に牽れて訛れるものなり、遲をンと撥るから、音便に波をも濁るなり、名義未思得ず、

〔籾井家日記一〕織田信長丹波國附屬明知光秀事

十兵衞ハ、丹波ハ信長ニモラヒ申トテ、万事ヲサシオキ東丹波ノハシノ桂川邊ニ討テ出候テ、東方ノ先鉾衆ト度々弓矢致シ候、〇略下

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

丹波笹山二階　極高三十五度四分半、經度西三十一分、從東都東海道自京師歷龜山一百五十里一十九町一十四間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

丹波　笹山　三五度〇四分三〇秒

龜山　三五度〇一分〇〇秒

位置

疆域

〔丹波志多紀郡一〕四疆東北ハ近江、東ハ山城、南ハ攝津、西南ハ播磨、西ハ播磨及但馬、北ハ丹後若狹ナリ、

〔日本地誌提要丹波三〕疆域　東ハ山城、東北ハ近江、西ハ但馬、西南ハ播磨、西北ハ丹後、南ハ攝津、北ハ若狹ニ至ル、東西凡壹拾四里壹拾八町、南北凡壹拾貳里、

地勢地味

〔易林本節用集下〕丹波　丹州　上管六郡、四方二日、王城附庸之國、穀米柴薪多、中上國也、

〔日本地誌提要丹波三〕形勢　山脈近江若狹ヨリ來リ、縱橫分布、地形高隆、南北二隣ノ諸水、多ク源ヲ玆ニ發ス、東北ハ樹稠ク谷邃シ、西南稍平曠ナリ、地質肥瘠一ナラズ、

道路

〔日本實測錄四街道〕從西京歷小野至鳥羽〇略中

丹波國桑田郡浮井村　二里一十九町三十九間　船井郡殿田村　二里二十八町三十二間　鳥羽村　從西京至鳥羽街道、通計一十二里一十三町四十六間、

從山城國朱雀歷龜岡及能勢至十日市〇略中

丹波國桑田郡王子村峠文呼老坂三十四度五十九分半、一里二十二町一十八間　龜岡旅籠町、三十五度一分、四町五十一間　同紺屋町　二十七町三十間　穴太村　二里二十四町九間　牧村、三十四度五十六分半、八町三十間至國界七丁　攝津國能勢郡徐野村〇略中

從山城國山崎歷愛宕山至高卒都婆〇略中

丹波國桑田郡馬路村三十五度三分、二十一町三十九間　千原村又呼高卒都婆　從山崎至高卒都婆街道、通計八里一十八町五間半、

從丹波國龜岡本龜歷笹山至清水寺

丹波國桑田郡龜岡紺屋町　九町五十一間　同河原町　三里一十二間至徐部町限八町九間　船井郡赤

熊村　三里一十二町二十七間（至埴生村二十一丁九間）多紀郡福住村　三里六町三十六間（至大芋川岸二里二十丁五十七間）笹山二階町　三十五度四分半、一里一十五町五間半（至東岡屋村一十九町）大野村　二里二十九町三十五間半（至廣野村一里二十六町二十七間）市原村　三十五度、二十六町四十七間（至國界三丁九間）播磨國加東郡清水寺（從龜岡至街道、通計一十六里一十九町一間、

從丹波國東岡屋歷福知山及出石至城崎

丹波國多紀郡東岡屋村　一里三町二十七間　宮田村　二里五町一十八間　氷上郡國料村、三十五度九分、一里一十二町三間半（至大多利村一六間半）　小多利村、三十五度一十二分、一里二十四間　岡本村　一里三町五十七間　下竹田村　四十五間　堀村蛇ヶ端　四町三十九間（至福知山京口二丁三十間）　福知山吳服町（歷柳町二丁目至寺町一間）　五町一十五間　同下紺屋町（至婆屋町高三十五度一十三間、北極分半、）　二町二十八間　同寺町　三十一町（至鑄物師町二丁四十二間）　荒河村狹間（歷下天津村至河守町關、）　二十五町二十四間　立原村　五町四十八間　野花村　七町一十八間　夷村　三十二町三間　一ノ宮村　一里三町三十三間　上佐佐木村（又呼小野原）　一里九町四十五間（至國界登尾峠一十丁一十二間○中略）　但馬國出石郡久畑村○中略

從丹波國大澤歷栢原及養父市場至大磯

丹波國多紀郡大澤村　一里一十六町二十四間　大山下村北野（歷木之部村至宮田村、三十町二十一丁二十七間、）　三十五町七間　追入村、三十五度七分、七町一十二間　同追分（至國料村三十一丁四十八間）　一里一十二町四十二間（至栢原新町一里一丁四十五間）　氷上郡栢原本町（至八幡社三丁六間）　二十一町三十三間　石負村（至黑江村一里一十三丁、又從黑江至兵主神社一十二間、）　二里四町　伊佐口村方町　四町四十八間　御油村（至國通寺一里一十五間）　一十四町一十二間　沼村（至東蘆田村高座神社九丁一十五間）　千原村（又呼高卒都婆）　二十町二十間　船井郡八木村八木町　一里一十八間　鳥羽村　一里三町五十九間半（至國部新町三十一丁一十四間半）　園部本町（至園部陣屋三丁）　一里三十三町四十八間（至須知村本町一里二十八丁一十二間）　須知村新町　一里二十一町三十九間（至須知村久保町限五丁二十一間）　橋爪村檜山　二里七町三十二間　下大久保村　一里五町三十間　天田郡菟原下村　一里五町九間　千束村　一里二十四町三十間　宮村岩崎　一里九町一十二間　土師村新町　七里二十一間　同大川河原（至大河向一丁三十六間）　三里三町六間（至觀音寺村一里一十丁四十一間、從觀音寺西新町一里二十六丁五十八間、）　何鹿郡綾部本町　二里九町五十七間　天田郡大原村　二里四町一十二間　船井郡粟野村

從丹波國檜山歷宮津及峯山至久美濱

丹波國船井郡橋爪村檜山　一里四町五十七間　粟野村　三里一十三町（至和知川岸三里一十一町六間）　何鹿郡山家中町　一里二十七町三間　安國寺村梅迫　三里一十九町五十四間（至國界一里一十六丁三十間）

丹後國加佐郡舞鶴（本田邊）新町○中略　播磨國加東郡清水寺

從攝津國瀨川歷有馬至坂本○中略

丹波國多紀郡立杭村　一里六町五十七間（至國界二十四丁一十三間）　播磨國加東郡清水寺

間　三十一町四十二間（至栗住野村一十二丁二十四間）　佐治新町（至佐地神社二十五丁十七間）　一里二十八町三十六間

遠坂村、三十五度一十七分半、一里二十六町

從丹波國栢原歷酒見及仁豐野至姬路

丹波國氷上郡栢原下町　三里七町三十三間（至佐野村一里二十四丁三十六間）　和田村　二里一十二町三十六間（至國界小野尻峠一里二丁三間）　播磨國多河郡中村町○略

從丹波國龜岡歷檜山及綾部至粟野

丹波國桑田郡龜岡河原村　一里一十六町三十三間（至宇津根村四丁二十七間、從宇津根至並河村一十六丁九間、）　千原村（又呼高都婆）　二十町二十間　船井郡八木村八木町　一里一十八間　鳥羽村　一里三町五十九間半（至國部新町三十一丁一十四間半）　園部本町（至園部陣屋三丁）　一里三十三町四十八間（至須知村本町一里二十八丁一十二間）　須知村新町　一里二十一町三十九間（至須知村久保町限五丁二十一間）　橋爪村檜山　二里七町三十二間　下大久保村　一里五町三十間　天田郡菟原下村　一里五町九間　千束村　一里二十四町三十間　宮村岩崎　一里九町一十二間　土師村新町　七里二十一間　同大川河原（至大河向一丁三十六間）　三里三町六間（至觀音寺村一里一十丁四十一間、從觀音寺西新町一里二十六丁五十八間、）　何鹿郡綾部本町　二里九町五十七間　天田郡大原村　二里四町一十二間　船井郡粟野村

從丹波國檜山歷宮津及峯山至久美濱

丹波國船井郡橋爪村檜山　一里四町五十七間　粟野村　三里一十三町（至和知川岸三里一十一町六間）　何鹿郡山家中町　一里二十七町三間　安國寺村梅迫　三里一十九町五十四間（至國界一里一十六丁三十間）

丹後國加佐郡舞鶴（本田邊）新町○中略

從攝津國瀨川歷有馬至坂本○中略

丹波國多紀郡立杭村　一里六町五十七間（至國界二十四丁一十三間）　播磨國加東郡清水寺

〔信長公記十五〕天正十年六月朔日、夜に入、丹波國龜山にて惟任日向守光秀企逆心、〇中略信長を討果し、天下主と可成調儀を究、龜山より中國へは三草越を仕候、老之山へ上り、右へ行道は山崎天神馬場攝津國皆道也、左へ下れば京へ出る道也、

宿驛

〔延喜式二十八兵部〕諸國驛傳馬〇中略

丹波國驛馬大枝、野口、小野、長柄、星角、佐治各八疋、日出、前濱各五疋、傳馬、桑田、多紀、氷上郡各五疋、

建置沿革

〔日本國郡沿革考三陰道〕丹波　古作旦波記古事上國、管六郡、八百八十村、

桑田　二百十五村　古府治亦仁紀桑田村、即此地、船井二百三村　何鹿七十一村　氷上百七十三村　多紀百十四村　天田百四村

〔日本地誌提要四十三丹波〕沿革　古へ國府ヲ桑田郡ニ置、遺址、今船井郡屋賀村ニアリ、鎌府ノ時、土肥實平守護ノ事ヲ行フ、建武中興、參議源忠顯ヲ國司ニ任ジ、雉井盛景守護代トナル、足利尊氏ノ反スルヤ、仁木頼章ヲシテ州内ヲ徇ヘシメ、頼章ノ子義尹ヲ以テ守護トナス、正平中、山名時氏吉野ニ歸順シテ本州ヲ略定ス、既ニシテ山陰諸州ヲ以テ畀キ、足利義詮ニ降リ、因テ守護ヲ領ス、時氏卒シテ第四子氏清職ヲ襲グ、元中八年、謀反シテ誅ニ伏ス、將軍義滿、細川頼元ヲ以テ守護トナシ、子孫ニ傳フ、五世政元ニ至リ、高國澄之澄元ヲ義子トシ、守護ヲ澄之ニ傳フ、永正四年、政元其下ニ弑セラレ、澄之代リ立ツ、澄元入テ亂ヲ討ジ、澄之ヲ殺ス、明年、高國將軍義稙ヲ奉ジテ兵ヲ擧ゲ、澄元ヲ走ラシ、其地ヲ併ス、大永中ニ至リ、八上城主波多野植通、多紀郡高國ノ令ヲ奉ゼズ、近郡ヲ鈔略シ、遂ニ自立シテ州主ト稱ス、傳ヘテ秀治ニ至ル、天正七年、織田信長、其將明智光秀ヲシテ來リ伐タシム、光秀秀治ヲ誘殺シ、悉ク州内ヲ平ラグ、信長光秀ヲ封ジ、龜山ニ治ス、十年、光秀誅死シ、豐臣氏義子秀勝ヲ封ジ、福知山ニ鎭セシメ、拾萬石前田玄以ヲ八上ニ封ズ、文祿中、秀勝卒シテ嗣ナシ、福知山ヲ小野木公郷ニ賜フ、三萬石關原役後、公郷ノ封ヲ沒シ、有馬豐氏ニ賜フ、後ニ朽木植昌玄

以ノ子茂勝喪心シテ收封セラレ、松平康重之ニ代リ、徙テ篠山ニ治ス、後ニ青山忠朝ル者龜山、岡部長盛、後松平信岑、園部、小出吉親、柏原織田信休、其餘、州内封ヲ受廢シテ京都府及豐岡縣ヨリ兼治ス、

〔先代舊事本紀十國造〕丹波國造

志賀高穴穗朝〇成務御世、尾張同祖建稻種命四世孫大倉岐命定賜國造、

〔續日本紀四元明〕和銅元年三月丙午、從五位上大神朝臣狛麻呂爲丹波守、

國府

〔倭名類聚抄五國郡〕丹波國國府在桑田郡、行程上一日、下半日、

〔伊呂波字類抄太國郡〕丹波國中略田府桑

郡

〔倭名類聚抄五國郡〕丹波國〇略註管六〇略註桑田久波太、船井不奈井、多紀氷上比加三、天田安萬、何鹿伊加留加

〔延喜式二十二民部〕丹波國、上、管桑田クハタ　多紀タキ　天田アマタ

〔皇國郡名志〕丹波國六郡

桑田クハタ　●本目　●鳥羽　龜山　●穴太　●板橋　城攝界　江若ヘモカヽルヽ

多紀タキ　●市原　●古市　●福住　●粟井　攝界

篠山　福知山　天田アマタ　●生野　●矢原　國中

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕丹波

六國史古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄諸書	郡名考	天保鄉帳	明治革帳	地誌提要	郡區編制
桑田	桑田	桑田	桑田	桑田	桑田	桑田	桑田	桑田
船井	船井	船井	船井	船井	船井	船井	船井	船井
多紀	多紀	多紀	多紀	多紀	多紀	多紀	多紀	多紀
氷上	氷上	氷上	氷上	氷上	氷上	氷上	氷上	氷上
何鹿	何鹿	何鹿	何鹿	何鹿	何鹿	何鹿	何鹿	何鹿
天田	天田	天田	天田	天田	天田	天田	天田	天田

船井フナイ　●園部　須知　●檜山　●水呑　下關　國中郡

氷上ヒカミ　●竹田　●小高　●追入　國中ヨリ栢原ヘ　●石貫　但播界ニ至　●遠坂

何鹿イカルカ　綾部ヘ　●物野邊　●梅迫　山家ヘ　丹後界

桑田郡

〔丹波志〕桑田郡

四疆、東北ハ近江國高島郡、東ハ山城國愛宕郡葛野郡、乙訓郡、南ハ攝津國島上郡、島下郡、能勢郡、皆山ヲ以テ境フ、西ハ船井郡山川或ハ岩或ハ樹ヲ準シテ堺フ、北ハ若狹國遠敷郡ニ山ヲ以テ疆フ、

						桑田（クハタ）	同（久佐多）
						同	同
						同	同
						同	同（國知元）
						同（クハタ）	同（タカタ）
						同	同（クハタ郡）
						同	同
						同（クハタ）	同（タカタ）
						南桑田	北桑田

						船井（フナヰ）	同（不佐井）
						同	同
						同	同（國知元）
						同（フナイ）	同（フナヰ）
						同	同
						同	同
						同	同
						同（フナヰ）	同（フナヰ）
						同	同

						何鹿（イカルカ）	同（伊加留加）
						同	同
						同	同（國知元）
						同（イカルカ）	同（イカルカ）
						同	同
						同	同
						同	同
						同（イカルガ）	同（イカルガ）
						同	同

						多紀（タキ）	同
						同	同
						多紀（多紀知元）	多喜（國）
						多紀（タキ）	同
						同	同
						同	同
						同	同
						同（タキ）	同
						同	同

						氷上（ヒカミ）	同（出雲三）
						同	同
						同（知元國）	同（知元國）
						同（ヒガミ）	同（ヒガミ）
						同	同（ヒガミ郡）
						同	同
						同	同
						同（ヒガミ）	同（ヒガミ）
						同	同

						天田（アマダ）	同（安井多）
						同	同
						同	同（知元國）
						同（アマタ）	同（アマタ）
						同	同
						同	同
						同	同
						同（アマダ）	同（アマダ）
						同	同

管六

同

六郡

同

同

同

同

同

七郡

船井郡

〔日本書紀（十七繼體）〕八年〇雄略十二月壬子、大伴金村大連議曰、〇中今足仲彦天皇〇仲哀五世孫倭彦王、在丹波國桑田郡、〇略下

〔續日本後紀（七仁明）〕承和五年二月庚寅、丹波國桑田郡容閑地三十町賜ㇾ諱、田邑〇文德

〔丹波志〕船井郡

四疆、東ハ幸田郡、南ハ攝津國能勢郡、西ハ多紀郡、天田郡、何鹿郡、北モ亦何鹿郡、皆山ヲ以テサカユ、但桑田郡川關以北、山科以南ノ間ハ然ラズ、樹ヲ植準シ境トス、是ヲ見分ノ松ト云、

〔三代實錄（二十六清和）〕貞觀十六年十月十九日甲戌、太政官奏、沙彌敎豐、俗名上毛野豐麻呂、沙彌善福、俗名水取貞江、於丹波船井郡奉ㇾ濫僧四十餘人、殺ㇾ勸學院使日奉全吉、支解其體、行ㇾ火燒ㇾ民屋二家、

多紀郡

〔丹波志〕多紀郡

此郡國中ノ高地ナリ、因テタタカ郡ト呼ベキヲ、通音ヲ以テタキ郡ト號ス、〇略松下五右衛門ノ話ナリ、又一說ニ、此郡ニ瀑布アリ、因テ號ス、〇略申

四疆、東ハ船井郡、南ハ攝津國能勢郡及有馬郡、南西ハ播磨國加東郡、西ハ播磨國多可郡及氷上郡、北ハ天田郡、東北モ船井郡、各山ヲ以テ境フ、但天田郡菟原ノ道境ハ、平地ニ岩在テ境トス、

〔東大寺正倉院文書十二（繼目裏書）〕山背國愛宕郡出雲鄕雲下里神龜三年史生從八位下間人宿禰男君戶主上毛野君族長谷年伍拾壹歲〇略中

從父妹出雲臣子足賣年參拾參歲　丁女　右人但波國多关郡草上鄕在〇略中

戶主出雲臣馬養年參拾肆歲〇略中

母出雲臣依賣年陸拾陸歲　耆女　頸黑子、丹波前國多貴郡、

〔續日本後紀（十四仁明）〕承和十一年八月癸卯、丹波國多紀郡人、齋院主典從七位上常澄宿禰成主、改ニ本居一

貫附左京一條二坊、

氷上郡

〔丹波志〕氷上郡

此郡國中ノ低地ナリ○略中

四疆、東ハ多紀郡、南及西ハ播磨國多可郡、西北ハ但馬國養父郡、北及東北ハ但馬國養父郡、北及東北ハ天田郡、各山ヲ以テ境フ、

〔日本書紀二十天武九〕十三年十二月己卯、丹波國氷上郡言、有二十二角蟹一、

天田郡

〔丹波志〕天田郡

四疆、東ハ船井郡、東北ハ何鹿郡、東南ハ多紀郡、氷上郡、西ハ但馬國出石郡、北ハ丹後國、

〔東大寺要錄八〕勅旨可有封庄章之中

金光明寺宛食封一千戸○略中

丹波國天田郡五十戸○略中

何鹿郡

奉二今月廿一日勅一、件封宛二金光明寺一、其收停期更待二後勅一者、

天平十九年九月廿六日

〔續日本紀二十稱德七〕天平神護二年七月己卯、散位從七位上昆解宮成得レ似二白鑞一者、以獻、言曰、是丹波國天田郡華浪山所レ出也、

〔丹波志〕何鹿郡

四疆、東北ハ若狹國大飯郡、東南ハ桑田郡及船井郡、西南ハ天田郡、西北ハ丹後國加佐郡、

〔三代實錄七清和〕貞觀五年六月三日甲午、以二丹波國何鹿郡佛南寺一爲二眞言院一、即付二國司一檢校、

〔細川大心院記〕五月○四永正年中旬ノ比、若狹國ヲ御立アリテ、丹波國何鹿郡高津ト云所ニ御陣ヲメサル、

郷

村里名邑

〔倭名類聚抄八丹波國〕桑田郡　小川乎加波　桑田久波多

山國　有頭○頭、高山寺本作レ頴横作　佐伯

船井郡　刑部　志麻　船井布奈井　出鹿　田原　徐戸　城崎　野口　須知　鼓打　木前

多紀郡　草上久加美　乃佐　宗部　眞繼　河内　神田　榛原　徐戸日置

氷上郡　前山佐木也　末　竹田　美和　春部加須倍　船城布奈木　佐沼　伊中　賀茂　氷上比加美　石生伊賀布　徐

戸

天田郡　六部　土師　宗部　雀部　和久　拜師　奄○奄、原作レ畜、據二高山寺本一改、我　川口　夜久　神戸

何鹿郡　賀美　拜師　八田　吉美　物部　吾雀　小幡　高殿　私部　栗村　高津　志麻

文井　後○高山寺本作レ漢部　徐戸　三方

〔千載和歌集十賀〕白川院の御時、承保元年、大嘗會主基方稻舂神○田○郷○をよめる、

前中納言匡房

ちはやぶる神田のさとのいねなれば月日とともに久しかるべし

〔細川勝元記〕丹波ノ守護代內藤備前守、此由ヲ聞テ、兼テ思ヒ儲シ事ナレバ、國○但馬境夜○久○郷○迄打出シテ、回天ノ方ヲ出シ、爰ヲ先途ト防ギ戰フ、

〔郡名一覽〕御料私領一丹波國　丹州　四方二日　六郡

高貳拾九万三千四百四拾五石五斗四升七合四才

九百貳ケ村

●笹山　東海道百廿七里餘　木曾路百四十九里　百二十八里　●龜山　百四十二里

●福智山　百四十二里

○園部　百三十一里　○綾部　百四十里　百三十六里

○山家　百三十九里　○柏原　百三十六里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要〕丹波　六郡八百八十村
御料私領
高三十二万四千百三十六石二斗六升八合六勺七才
桑田町二百十五村　船井郡二百三村　何鹿郡七十一村　氷上郡百七十三村　多紀郡百十四村　天田郡百四村
〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名
丹波　桑田郡、細川村、弓槻村、並河村、中地村、火太村、笑路村、神地村、何鹿郡、天田郡、土師村、船井郡、大朴村、槇生村、氷上郡、野上野村、歌道谷村、荒川村、朝坂村、石負村、氷間下村、栗住野村、擧田村、
〔日本書紀六垂仁〕八十七年、昔丹波國桑田村有人名曰甕襲、〇下略
〔千載和歌集十賀〕平治元年、大嘗會主基方稻舂歌、丹波國雲田村をよめる、　刑部卿範兼
あめつちのきはめも知らぬ雲田の村のいねをこそつめ
〔新古今和歌集七賀〕仁安元年、大嘗會主基方稻舂歌、丹波國長田村をよめる、　權中納言兼光
神代よりけふのためとやつかほになが田のいねのえなひ初けん
〔吾妻鏡十三〕建久三年十二月十四日壬子、丹波國篠村領、〇中略　先日被奉讓黄門室家將軍家御妹也云々
〔新撰長祿寬正記〕同年三〇寬正十月朔日、土一揆ノ大將蓮田、終ニ遁ルヽ處ナクシテ、淀ニテ誅ラレタリ殘黨ドモ丹波國須智村ニテ皆被誅、
〔兩縣指掌多紀郡〕一篠山城町半以東は、元黒岡村の土地なり、古老の傳、城下上川原元澤田村の土地なり、〇中略
篠山町〇中略
總町筋千貳百九間壹尺五寸　總町數貳拾町九間壹尺五寸
〔信長公記十五〕天正十年五月廿六日、惟任日向守〇光秀中國へ爲出陣坂本を打立、丹波龜山之居城に至參著、次日廿七日に龜山より愛宕山へ佛詣、一宿致參籠、〇中略五月廿八日、丹波國龜山へ歸城、
〔丹州三家物語〕細川父子丹後國入來之事
丹波福知山の住人細川兵部大夫藤孝子息與一郎忠興丹後入國の由來をくはしく尋るに、〇下略
〔東大寺要錄六〕諸國諸庄田地〇長德四年注文定中略
新發田〇中略
丹波國　多紀郡後河庄田廿八町三段二百五十六歩　氷上郡布佐庄
〔當宮緣事抄〕左辨官下　石清水八幡宮幷宿院極樂寺
應永停止宮寺幷極樂寺庄園領家預所下司公文等、或號有先祖讓狀、或稱相傳文書、致異論企掠領、兼又有由緒雖令傳領子孫斷絕處々付本所事、〇中略
極樂寺領〇中略　丹波國　賀美庄〇中略　保元三年十二月三日
〔神護寺文書〕寄進　神護寺領事
在丹波國宇都庄壹處者
右件庄者、相傳之所領也、而殊爲興隆佛法、限永代所寄進彼寺領也、〇中略　大史小槻宿禰在判〇下略
壽永三年〇元曆元年　四月八日　前右兵衞佐源朝臣花押
〔賀茂注進雜記下神領〕同〇壽永三年〇元曆元年　四月廿四日壬辰賀茂社領四十二ヶ所、任院廳御下文、可止武家狼藉之由、有其沙汰云々、
下諸國　可早任院廳御下文、停止方々狼藉、備進神事用途、賀茂別雷社御領庄園事、〇中略
丹波國　由良庄〇中略　私市庄〇中略
右肆拾貳箇所神領、任院廳御下文、停止方々狼藉武士等濫吹、如元可備進神事用途、若不恐神威、不

用院宣、慥不處重科之狀如件、以下、

壽永三年四月廿四日

〔神護寺文書〕院廳下　丹波國吉富庄官等

可早以當庄爲神護寺領事

右件庄內、於宇都鄉者、依爲源氏舊領、前兵衞佐賴朝朝臣申請所奉寄彼寺也、至于庄者、有別御願、同所被施入也者、以件鄉幷庄可爲神護寺領之狀、所仰如件、庄官等宜承知勿違失、故下、

元暦元年五月十九日　　主典代織部正兼皇后宮大屬大江朝臣花押下略

〔吾妻鏡六〕文治二年三月二日庚辰、今日故前宰相光能卿後室比丘尼阿光、去月進使者於關東、相傳家領丹波國栗村庄、爲武士被成妨由訴申之、仍早可停止濫吹之趣被仰云云、

〔龜山院御凶事記〕嘉元三年九月廿三日丁卯、依可分進故院御書早旦著直衣、烏帽相具御書御手筒□□□存日予預置也參御所略女院御方自餘御書等、兼有御封、以檀紙被立文、悉盛筥蓋略、一通銘曰新院御方

播磨國多可庄　丹波國栗村東西庄略

右庄々可讓進也、輕徵之至、頗雖有其憚、爲顯志不顧恐者也、

嘉元三年七月廿六日　　御判

〔吾妻鏡六〕文治二年三月八日丙戌、源藏人大夫賴兼愁申、丹波國五箇庄事、二品賴朝可令執申京都給之由、及御沙汰、是入道源三位卿賴政家領也、治承四年、有之之後、屋島前內府知行之、今度沒官領內、被付賴兼、而可爲仙洞御領之由有仰歟、廿六日甲辰、以紀伊權守有經爲御使、被充申丹波國篠村庄、於松尾延朗上人、本是三位中將重衡卿所領也、後爲義經之勸賞地也、而豫州奉寄附上人、上人雖辭、依不等閑、領納之後、爲令富懷民戶止、乃貢勸百姓令唱彌陀寶號、隨其數反出返抄用所濟云云、

豫州逐電以後、可返上由被申之處、本自豫州者、傳領之主也、爲本主有寄奉志由被仰遣畢云云、

〔吾妻鏡十四〕建久五年十月廿五日壬午、於勝長壽院、有如法經十種供養、是故鎌田兵衞尉正清息女所修也、且爲奉訪故左典廐義朝御菩提、且爲加亡夫追福、一千日之間、於當寺屈淨侶令行如說法華三昧云云、略彼女性父左兵衞門正清者故大僕卿功士也、遂於一所終其身、仍今將軍家賴朝殊令憐愍給之間、雖被尋遺孤無男子、適此女子參上、以尾張國志濃幾丹波國田名部兩庄地頭職、令恩補給訖云云、

〔古文書類纂上知狀〕可早停止守護所使入部丹波國上林庄事

右任度々下知狀、停止彼使入部、謀反殺害輩出來之時者、爲庄家之沙汰可召渡守護所之狀、依鎌倉殿仰下知如件、

寬喜元年四月十日

武藏守平花押
相模守平花押
神主賴康花押

〔松尾神社文書一〕

讓與　丹波國雀部庄事

右件庄者、親父賴親神主起請云、當神領者、入功力所申達也、雖非總官、依賴親之讓可知行也者、相賴法師依父讓多年無他妨領掌畢、仍相副公驗幷起請、永所讓與男樑谷禰宜相久也、但於年貢者、任賴親之起請、可進上社家狀如件、

建久八年二月廿五日

沙彌證阿相賴也花押

〔古文書類纂上處分狀〕後深草天皇建長二年關白藤原道家處分狀

總處分　條々事

一寺院略中　東福寺略中　院領略中

丹波國賀舍庄略中　尙侍殿略中　家領　女院方略中

丹波國賀舍庄○略　中

建長二年十一月　日

〔當宮緣事抄〕當宮神官久弘忠康法師相論丹波國栢原庄所職等事、如此神領下職之類、非聖斷之限、愚老在判

可存知之旨御意色所候也、仍執達如件、

弘安九年三月十二日　　皇后宮大進賴藤

八幡別當法印御房

〔東寺百合文書ヰ二十八之三十八〕丹波國葛野庄寶莊嚴院寺用事、院宣幷申狀副具書謹下預候畢、近年當庄下司季正押妨所務、打止本所年貢公事之間、被申下違勅院宣、被經御沙汰、最中候、仍爲得御意、院宣幷武家奉書案進覽之候、爰如申狀者、寺用之足以外加增參差候歟、所詮御沙汰落居候者、任先例可令勤仕候、以此趣可被仰含寺用方之雜掌候哉、恐惶謹言、

貞和二年十月十九日　　實信請文

〔安國寺文書乾〕寄進　丹州安國寺本號光福寺　同國春日部庄内中山村事

右爲當寺興隆所寄附也者、早守先例可被致沙汰之狀如件、

貞和二年十二月廿八日　　正二位源朝臣○足利尊氏

〔嘉吉記〕竹下ノ合戰ニ貞範○赤松圓心次男無比類忠戰ナレバ、建武二年十二月十二日、貞範ニ播磨國幷丹波國ノ内春日部ノ庄ヲ下シ賜フ御教書ヲ給ケリ、

〔六波羅御下知〕感神院領丹波國波々伯部保下司氏澄代良盛與雜掌親圓相論下司職名田畠幷刃傷狼藉等事、○略　中

右近將監平朝臣判

前上野介平朝臣判

藩封　田數　石高

〔慶應元年武鑑〕青山左京大夫忠敏略　四品元治元千五月叙○中　六万石　里餘

居城丹波多記郡笹山江戸ヨリ東海道百廿七里餘、木曾路百四十五

前田主膳正居、慶長十三、松平周防守康重、元和二、松平丹波守康長、同五、松平伊豆守信吉、同山城守忠國、慶安二、松平若狹守康信、同駿河守典信、同紀伊守信岑、寛延元、青山因播守忠朝、以後領之、從四位侍從

〔慶應元年武鑑〕松平豐前守信義　五万石　居城丹波桑田郡龜山江戸ヨリ百廿八里

當城信長時代、明智日向守光秀居、後前田德善院支松平伊賀守忠晴、同伊賀守忠昭、貞享元、久世出雲守重將監成重寬永十一、菅沼織部正定昭、慶安元、松平右近將監平朝臣定、昭、慶長十四、岡部内膳正長盛、元和七

〔海東諸國記〕丹波州　郡五、水田一千八百四十六町九段、
〔日本鹿子十一〕丹波國六郡、中上國四方二日、知行高二十八万五千七十石、
〔官中秘策四〕丹波國　六郡○中略
一石高貳拾九万三千四百四拾五石餘
〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調○中略
丹波國御私領　一高三拾貳万四千百三拾六石貳斗六升八合六勺七才
〔延喜式二十主税六〕諸國出擧正税公廨雜稻○中略
丹波國正税廿三万束、公廨廿五万束、國分寺料四万束、修理驛家料二万束、造院料一万束、
一千束修理池溝料三万束、救急料四万束、修
〔倭名類聚抄五國郡〕丹波國、○略註　管六（中略）正公本類六十六萬四千束、雜類十八萬四千束、
〔延喜式十内藏〕諸國年料供進○中　曝黒葛百斤（中略）丹波國廿斤○中略　交易○絲一千五百九十四絢、七百五十絢、丹波國
〔延喜式二十民部三〕年料春米○中略　丹波國内藏廿石、大炊五百石、糯廿六石、○中略
年料租春米○中略　丹波國一千石○中略
年料別貢雜物○中略　丹波國墨二百廷、紙麻七十斤、漆二斗七升、柏一百廿俵、以二五十把一爲レ俵、把別五十枚、掃墨一石、斐紙麻一百斤、○中略
諸國貢蘇番次○中略　丹波國十一壺三口各大一升、小一升、○中略
交易雜物○中略　丹波國白絹十二疋、赤絹五百五十疋、絲七百五十絢、油三石、鹿革十張、栗十石、大豆廿石、栗子廿石、胡麻子五石、栗子廿石、曝黒葛廿斤、刈安草五百圍、隔二三年一進醬大豆五石、

右十箇國爲二第四番一辰年○中略
〔延喜式二十主計四〕丹波○中略　右廿五國中絲○中略
丹波○中略　右廿九國輸絹○中略

丹波國行程上一日、下半日、
調、兩面五疋、小許春縑一疋、一窠綾七疋、二窠綾七窠綾各五疋、白絹十疋、絲帛十疋、帛二百廿疋、自餘
輸絹綿、庸、韓櫃卅二合、塗レ漆著レ蠟五合、白木卅七合、自餘輸米、　中男作物、黄蘗四百斤、紙、黒葛、漆、胡麻油、蜀椒、平
栗子、搗栗子、
〔延喜式三十大膳三〕諸國貢進菓子○中略　丹波國廿葛煎六升、廿栗子二棒、搗栗二石一斗、平栗子、椎子、菱子二棒、
〔延喜式三十典藥七〕諸國進年料雜藥○中略
丹波國卅三種　芎藭、石韋、栝樓、石南草、升麻、夜干各十斤、黄連三斤二兩、前胡、藁本、秦皮各五斤、柴胡、
十二斤、王不留行十九斤、獨活卅四斤、茹苺五斤、草薢六斤、白朮十二斤三兩二分、藍漆十五斤八兩、漏
蘆十三斤、人參三斤、龍膽、商陸各七斤、玄參四斤、黄蘗廿四斤、白芷、蛇牀各九斤、石解廿七斤、厚朴廿斤、
芎藥恒山各八斤、連翹四斤八兩、地骨皮五兩、槿子五斗五升署預二斗二升二合、麥門冬一斗、桃人六
升、車前子二斗五升五合、兔絲子二升一合、麻子三斗五升、鬼箭一斗三升三合、吳茱萸二斗二升、蜀椒
二升、鹿角一具、白殭蠶二兩、
〔延喜式三十内膳九〕年料○中略
丹波國生鮭三捧六隻、三度、鮨年魚二壺、鹽塗年魚二擔入二折櫃一、
〔毛吹草三〕丹波
前胡　桔梗　茯苓　柴胡　款冬　似人參（ニタリニンジン）　苅安　椿灰　辛灰　ミサヽキノ灰　蠟　松茸
又旅　獨活　大納言小豆　林檎　木瓜實　梨　鮎　山椒魚　鹿皮　疊表　龜山花落米　山
國椙丸太是チ椙ニ出ス故ニサガ丸太トモ云、　杉皮　筆柿　弓削山弓絃葉正月用之　和智糸　綿　煎茶　胡桃
父打栗　野々村多葉粉　箸木　鞘木　雀部矢根　鑓　刀ノミガキ口カザノ名人ト云　關　太布　前垂
蚊帳蚤相物也　笊籬　佐伯砥　柏原墨ニギリ墨ト云　葉茶壺　山椒　同皮

人口

〔宮中秘策四〕丹波國　六郡〇中略

一人數貳拾七万六千三百三拾六人　文化元甲子年

〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調〇中略

御料私領

一人數貳拾八万貳千四百九拾三〇三一讀　男

内拾四万三千六百貳拾人　男

拾三万貳千七百五人　女

高貳拾九万三千四百四拾五石餘　丹波國

弘化三丙午年

内拾四万六千七百八人　男

拾三万五千七百八拾三人　女

諸國人數調〇略

御料私領

一人數貳拾八万九百四拾七人

内拾四万三千八百九拾壹人　男

拾三万七千五拾六人　女

高三拾貳万四千三拾六石餘　丹波國

風俗

〔人國記〕丹波國

丹波國之風俗ハ、人ノ氣質弱而々格々ニシテ、十人ハ十様ニ而、我ガ身ヲ自滿シ、人ヲ誹リ、人之譽レ有ヲ可ㇾ譽トハセズ、而餘之人之夫ヨリ譽レ多キニタクラベテ是ヲ誹ルノ類ニテ、悉皆女人ノ風俗ニ不ㇾ異、下劣モ從テ己ガ日夜勤ル處ノ耕作ノ道ハ第二ニ而、商賣ヲ本トスル事、偏ニ身之榮花ヲセン事ヲ常ニタクミ、都而勇寡ヲ而諂強ク、昨日味方ニ有シ人モ今日ハ敵トナリ、亦前ニナリ替リ渡世スル類之風俗、最哀レ成形儀、不及是非ドモ也、雖然自然ニ能キ人出生セバ、氣ノ柔ナル意地ヨリ、成立風儀ナレバ、雙ブ方ナキ程ノ人モ出來ベシ、天下亂レテ是國ヲオサメバ、五日之内ニ可從ナリ、

〔改正人國記下丹波〕按ニ、當國ハ四方山々ニテ、皆谷間ノ人家ナリ、寒雪モ、北國ほどはなけれども尤烈シ、山谷の内の民なれば偏屈にせばかるべき事なれども、本書に說ごとく懦弱なる所以は、此國城州に隣て、都に近が故、上邦の風俗を見に馴て、自氣の惰出て、木強の質を失へり、婦人の風俗一入取しめなくして、疎末なる所なり、

名所

雜載

名稱

〔西北紀行上〕凡此國は京にちかくして、大江の坂の山一つへだゝりぬれど、民俗人家すべて畿内には大にかはりて、いぶせくいやし、

〔日本鹿子十二〕同國〇丹波中名所

大江山　京より未のかた也、山陰道へ下れば此山を越る也、京より行程五り餘也、西の幷に追分とて宿有、それまで七り也、あなうの里といふあり、三十三所の觀音立給ふ、追分より十八町西也、〇略〇中

生野　大江山より北、丹後さかいなり、〇略〇中

子年山　櫻山〇略〇中　村雲山〇略〇中　雲田村〇略〇中

坂田山　朝倉山　笛吹松　入佐山

〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒〇略〇中　丹波國

諸國器仗〇略〇中　丹波國甲四領、横刀六口、弓十張、征箭十具、胡籙十具、

丹後國

丹波國ハ、タンゴノクニト云ヒ、舊クハ、タニハノミチノシリト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ若狹、西ハ但馬、南ハ丹波ニ界シ、北ハ海ニ面ス、東西凡ソ十三里餘、南北凡ソ十一里餘ナリ、此國ハ元明天皇ノ和銅六年、丹波國ノ五郡ヲ割テ置ク所ニシテ、國府ヲ加佐郡ニ置キ、加佐（カサ）、與謝（ヨサ）、丹波竹野（タカノ）、熊野（クマノ）ノ五郡ヲ管シ、延喜ノ制、中國ニ列ス、後世丹波郡ヲ中郡ト改ム、明治維新ノ後、京都府ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕丹後　太邇波乃美知乃之利

位置

〔饅頭屋本節用集太天地〕丹後（タンゴ）丹州

〔日本風土記一寄語島名〕丹後丹哥

〔諸國名義考下〕丹後

さて、丹波を前（メヂカク）といはでたゞに此國を丹後といへる事、前後の例にたがへり、

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

丹後宮津、魚屋町　極高三十五度三十二分、經度西三十一分半、從東都同上（東海道）自一百六十八里

三十四町半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

丹後　宮津　三五度三二分〇〇秒

田邊　三五度一六分三〇秒

東西里差

山城　京　〇度〇〇分〇〇秒略〇中

疆域

〔日本地誌提要四十丹後四〕疆域　東ハ若狹、西ハ但馬、南ハ丹波、北ハ海ニ至ル、東西凡壹拾三里餘、南北

凡壹拾壹里餘、

島嶼

〔日本實測錄九島嶼〕丹後國熊野郡　遠測　二島　カテ岩　女夫岩　モロコシ　八頭　福島　三

島　愛宕島　沖島　出島　角島

竹野郡　實測　三島周廻四町二十八間、遠測　大島　愛宕島　福島　小島　赤島　屏風岩

犬ケ島　髮櫛島　大チ島　千疊岩　舟クリ岩

與謝郡　實測　青島從東岬至西岬八町一十三間、遠測　辨天島蒲入村トキ島　菩薩岩　辨天島

天橋　蓬萊岩　鈴島

地勢

加佐郡　實測　戶島、周廻二十二町一十二間、乙島、周廻八町五十八間、アシヤ島、周廻七町、

桂島周廻一十一町三十一間、毛島從南岬至北岬三十一町、遠測　蛇島　烏島　沖カツラ島　高島

片島　馬立島　沖島　小島

〔易林本節用集下〕丹後（タン）丹州

〔日本地誌提要四十丹後四〕形勢　東西二隅相抱テ兩灣ヲナシ、山脈丹波ヨリ來リ、州内ニ散布シテ、

西北ニ走リ、但馬ヲ界ス、地勢北スルニ隨テ漸ク卑ク、諸水皆北流ス、港市ノ地、頗ル繁富、景勝亦

多シ、地味磽薄、居民農暇、蠶織ヲ業トス、

道路

〔日本實測錄四街道〕從丹波國檜山歷宮津及峯山至久美濱〇略中

丹後國加佐郡舞鶴本田邊新町至本町二丁四十八間、北極高三十五度二十六分半、又手前及安久川至水無月社一十四丁六間、三町五十一

間　舞鶴西町　二十四町一十八間至下二丁五福井村一十七間　上福井村　一里一十三町五十七間　桑

飼下村　三里六町三十三間　河守町關　九町二十七間　天田内村至外宮二丁　二十七町三

十三間　與謝郡宮村又呼本伊勢、至内宮三丁四丁三十一間、從内宮至天岩戶四丁　二里九町五十七間至普甲峠一里三丁二十一間　小

田村岩洞　一里二十九町六間至宮津松原町一里十六間　宮津本町　六町三十三間　宮津川本町

一里一十九町五十四間至須津村六丁三十六間　弓木村至中野村籠神社一里二十三丁三間　二里三十五町三十六間　中

郡峯山白銀町至下町二丁三十三間、從下町至竹野村四里一十六丁二十六間、　一里四町五十一間　二箇村

一里三十町九間　熊野郡佐野村　二里二十三町五十一間　坂井村　三十五町三十九間

久美濱村　從檜山至街道、通計三十一里二十二町九間、

〔日本實測錄一沿海〕從赤間關沿海至鞠山〇本敦賀中略

丹後國熊野郡蒲井村至旭湊一十五町五十七間　三里二十六町三間至大向村瀨戶口二十三町二十間　久美濱村至神谷神社三町四

十七　二里七町四十九間半　湊宮村濱至北浦徑測五町二十間　一十四町五十六間　湊宮村、三十五度三

宿驛

十八分、三里二十三町一十七間半（至湊宮村瀬戸口七町四間、從瀬戸口至北浦一十六町三十七間半、從北浦至夕日濱一里一十六町廿五間半、）竹野郡淺茂川村　八町二十八間　小濱村（至網野村汎測一十五町、）二里一十三町一十三間（至小濱村北極高三十五度四十分、）二里三十五度四十四分、（至若宮嶋四町五十六間、）三里三十四町三十三間半（至竹野村川口二十町三十六間、）袖志村（至經ケ嶋一十四町五間、）一里三町五十八間　與謝郡蒲入村（至ヘタノ濱一十七町七間半、）一里一十町二十一間　本庄濱村（至溝尻一十五町二十五間半、）二里三十二町一十三間半　龜島村立石（至鷲ケ嶋二十八町三十九間、）三里一十三町六間半（至日出村三十三町四十間半、）日置濱村、三十五度三十分半、二十八町一十三間半　江尻村（至橋立二十七町、）（至文殊門前十間、）九町　中野村（至成相寺二十九町、）三里二十三町一十六間（至岩滝村一里六町七間、從岩滝村至文殊門前、）一里二十九町四十五間、宮津魚屋町、三十五度三十二分（歷本町及大手前二十四町、）（至大膳橋外二十二間半、）二十二町六間（至大膳橋外七町五十八間、）波路村（至上司町、）（徑測二十三町二十三間、）一里三十町四十間（至片島嶋一里一十七間半、）田井村（至元田井徑測五町三十四間、）一里一十七町（歷黒崎一十二町五十三間、）同小濱（至島陰村、）（徑測一十八間、）一十六町五十五間半（至島陰村九町四間、）島陰村越濱（至小田村一十一間、）二里一十三町五十一間半（至無雙ケ嶋二十二町八町三十一間、）（從無雙ケ嶋至小田村一里六町四十一間半、）上司町、三十五度三十二分半、一里二十七町五十八間　加佐郡由良村大川口（至由良村宿所、）三十五度三十分半、（從宿所川上二十三間、）二里一十二町一十八間半（至上福井村四里九町三十五間半、）田邊西町　二里一十二町一十八間半（至水無月社前、）（至長濱村、）三里一十九町二十二間（至北吸村二十三町二十四間、）平村三十五度三十分半、二里二十七町一間　千歳村六間、村至田井村徑測、二里一十六町三十八間、）八町四十二間（至洲崎三町一十四間、）二里二十三町七間半（至博奕岬一十九町、）小橋村（至野原岬一十八間、）一里三町四間　田井村、

〔延喜式二十八兵部〕諸國驛傳馬（略○中宿驛）

丹後國驛馬（勾金五疋）

建置沿革

〔日本國郡沿革考（三山陰道）〕丹後　和同六年四月割丹波國五郡置中國管五郡三百八十八村（百三十七村延喜式等作丹後古府中三十三村今名未詳在何時、）熊野五（九十二村延喜式作餘社、）與佐（百三十七村延喜式等作丹後古府中三十三村今名未詳在何時、）加佐（百三十七村延喜式等作丹後古府中三十三村今名未詳在何時、）謝（略紀作餘社、）雄（略紀作餘社、）治、天武紀作詞沙、）三村　竹野七十三村

〔日本地誌提要（四十四丹後）〕浴革　和銅中、丹波五郡ヲ割テ本州ヲ置キ、國府ヲ與謝郡ニ設ク、（今ノ府中驛）足利尊氏ノ反スル、一色範光ヲ以テ守護ニ補ス、正平中、山名時氏歸順シ、本州ヲ定メ、再ビ畔テ足利義詮ニ降リ、因テ守護トナル、子師義、孫滿幸、職ヲ襲グ、滿幸叔父氏清ト共ニ叛シテ誅死ス、將軍義滿復守護ヲ範光ノ孫滿範ニ授ケ、田邊ニ治ス、應仁ノ亂、孫義直、山名持豐ニ黨ス、文明ノ初、細川勝元ノ黨若狹守護武田信賢、將軍義政ノ命ヲ以テ、本州守護ヲ兼ネ、一色氏ト兵ヲ交ル連年、終ニ入ル能ハズ、義直ノ玄孫義道殘虐、天正六年、織田信長、細川藤孝ヲ本州ニ封ジ、義道ヲ伐シム、義道敗死シ、子義俊弓木城（與佐郡）ニ居リ、猶三郡ヲ領ス、（與佐熊野）九年、藤孝ノ子忠興、義俊ヲ誘殺シ、全州ヲ併セ、一色氏亡ブ、（一色氏十世、凡二百四十餘年、）慶長五年、德川氏、忠興ヲ豐前ニ徙シ、京極高知ヲ封ズ、元和八年、高知卒ス、遺命シテ地ヲ三子ニ分ツ、嫡子高廣ヲ宮津ニ、（七萬石）二子高三ヲ田邊ニ、（三萬五千石）義子高通ヲ峯山（壹萬三千石）ニ封ズ、寬文六年、高廣ノ子高國、罪有テ國除シ、後封ヲ易ル者數氏、寶曆中、松平資昌封ヲ受ク、高三ノ孫高盛、豐岡（但馬）ニ轉ジ、牧野親成之ニ代ル、獨高通ノ後世襲シ、凡テ三藩、王政革新、田邊ヲ改テ舞鶴ト云ヒ、別ニ久美濱縣ヲ置ク、既ニシテ藩ヲ廢シテ縣トナシ、又更ニ豐岡縣ニ合併ス、

〔續日本紀六元明〕和銅六年四月乙未割丹波國五郡（上一本有加佐與佐）置丹後國、

〔續日本紀考證三元明〕五郡（丹波竹野熊野十字、）

〔先代舊事本紀十國造〕丹後國造

諸良朝○元明御世、和銅六年、割丹波國置丹後國、

〔續日本紀十聖武〕神龜四年十二月丁亥、先是遣使七道巡檢國司之狀迹、○略中其犯法尤甚者、丹後守從五位下羽林連兄麻呂處流、

〔倭名類聚抄五國郡〕丹後國國府在加佐郡、行程上七日、下四日、

〔倭名類聚抄五國郡〕丹後國○略註管五○註加佐與謝丹波竹野多加熊野久萬乃

〔延喜式二十民部〕丹後國中、管加佐タカノ竹野熊野○中略丹波ニハ右爲近國

〔易林本節用集下〕丹後州中、管五郡○中略加佐、與謝府、丹後、○後當片野作竹熊野、

〔郡名考〕官用ヒル今ノ郡名　丹後　五郡　與佐　加佐　中　熊野　竹野

〔皇國郡名志〕丹後國五郡

加佐●由良●川尻●中山●市場●松尾●クラミ
●田邊●白●丹波若狹界ヨリ東海ニ向
與謝●佛谷●加悅●岩瀧●引木△水ノ江△浦島〔天ノ橋立〕
●宮津●栗田●座頭コロビ●經岬●但界ヨリ東北ノ海ニ貫
丹波△峯山●長岡△御坂
國中
竹野●夕日△夕日ケ浦浦島社
西北ノ海邊小郡
熊野●久美●佐野

丹波郡一ニ曰ニ中郡一

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕丹波

六國史	古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄	諸書	郡名考	天保鄉帳	明治治革帳	地誌提要	郡區編制
加佐	加佐	加佐	加佐	加佐	加佐	加佐	加佐	加佐	加佐	加佐
與謝	與謝	與謝	與謝	與謝	與謝	與謝	與謝	與謝	與謝	與謝
與佐	與佐	與佐	與佐	與佐	與佐	與佐	與佐	與佐	與佐	與佐
丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
熊野	熊野	熊野	熊野	熊野	熊野	熊野	熊野	熊野	熊野	熊野
竹野	竹野	竹野	竹野	竹野	竹野	竹野	竹野	竹野	竹野	竹野

加佐郡

〔東大寺奴婢帳〕丹後國司解　申進上奴婢事

合賤肆人　奴二　婢二　價稻肆仟束口別一千束

奴津麻呂年貳拾漆　印左○口脣下黑子　加佐○郡主戸外正八位上椋橋部乙理之奴　價稻壹仟束○中略

婢袁太須伎女年貳拾　印右○高頬黑子　加佐○郡戸主漆君三使之婢　價稻壹仟束○中略

天平勝寶元年十二月十九日○署名○略

〔日本書紀二十天武〕九年九月丙戌、神官奏曰、爲新嘗卜國郡也、○中略次須岐也丹波國訶沙郡並食、卜

〔類聚國史八十三改理〕大同二年正月辛丑、免丹後國加佐郡百姓租調、以水災殊甚、

國郡	餘社紀	余社紀	訶沙紀	伽佐	加佐	賀佐國加佐知元	丹波知中國元	與謝知與佐國元	丹波	與謝	與佐	與謝	與佐	與謝
加佐			伽佐	加佐	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
與謝			加佐	同	與佐國元	同	同	與佐	同	同	同	同	同	同
丹波			與謝	與佐	同	丹波中國元	同	同	丹波	同	同	同	同	同
竹野			竹野	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
熊野			熊野	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
管五														
同														
五郡														

與謝郡

〔東大寺正倉院文書二十九〕但馬國正税帳〇天平九年

賚太政官遞送疫病者給粥料符來使單壹拾日將從五日

丹後國與射郡大領外從八位上海直忍立、將從一人、合二人、經二日、日別給米三升五合、酒一升、

〔日本書紀十雄略四〕二十二年七月、丹波國〇餘社郡管川人、水江浦島子乘レ舟而釣、〇略下

〔日本書紀十顯宗五〕穴穂天皇〇安三年十月、帳内日下部連使主〇註與二其子吾田彦一、吾田彦使主之子也竊奉二天皇與一レ億計王一、避レ難於丹波國余社郡一、〇略下

〔續日本紀三十七桓武〕延暦二年三月庚寅、丹後國丹波郡人正六位上丹波直眞養任二國造一

〔丹州三家物語〕細川父子丹後國入來之事

一色殿は代々丹後の國主として、一色五郎近年は宮津八幡山に居城たりしが、天正三年、父左京大夫卒去の後國中の諸士、五郎殿を背き、我々にして曾以不レ敬時節なれば、本意にはあらねども、流に棹さす心地して、光秀〇明智が計ひにぞ任らる、中郡竹野郡熊野郡は一色殿、與佐郡加佐郡は細川とさだめ、〇略下

丹波郡

中郡

〔東大寺奴婢帳〕丹後國司解　申進上奴婢事

合賤肆人奴二婢二　價稻肆仟束日別一千〇中略

婢眞玉女年貳拾陸印目間黒子　價稻壹仟束〇中略

奴倉人年貳拾陸印左頬黒子　價稻壹仟束〇中略

天平勝寶元年十二月十九日〇署名略

竹野郡

熊野郡

〔倭名類聚抄八丹後國〕加佐郡　志樂〇高山寺本註二之良久一

託〇高山寺本註二之多加一有道〇高山寺本註二安里知一

與佐郡〇中略

一山田郷　貳拾七町三拾四歩内〇略

〔郡名一覽〕一丹後國　丹州　南北一日半　五郡

高拾四万五千八百貳拾壹石壹斗八升二合

●宮津　百四十九里三町　●田邊　百四十五里　三百九拾貳ヶ村

〈久美濱　百三十九里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要〕丹後　五郡、三百八十八村、

御料私領

高十四万七千六百十四石八斗四合四勺六才

村里名邑

丹波郡　大野　新沼〇沼、高山寺本作レ治、丹波　周枳　三重　神戸　口枳

竹野郡　木津〇高山寺本註二岐部一　納野　鳥取　小野　間人　竹野

熊野郡　田村　佐濃　川上　海部　久美

〔續續修東大寺正倉院文書四十六〕造寺司牒三綱所

合奉充封東仟戸〇略　丹後國伍拾戸郷〇竹野郡網野郷〇中略

以前寺家雜用料、永配二件封一、當年所輸之物爲レ始奉レ充、如レ件、今以レ狀牒、牒至准レ狀、故牒、

天平勝寶四年十月廿五日〇署名略

〔丹後國田數目錄帳〕注進丹後國諸庄郷保總田數帳目錄

加佐郡〇中略

一田邊郷　百九拾九町五段貳歩　細川讀州〇中略

一有道郷　五拾貳町六反百壹歩〇中略

與佐郡〇中略

一山田郷　貳拾七町三拾四歩内〇略

〔郡名一覽〕一丹後國　丹州　南北一日半　五郡

高拾四万五千八百貳拾壹石壹斗八升二合　三百九拾貳ヶ村

●宮津　百四十九里三町　●田邊　百四十五里　○峯山百五十里餘

〈久美濱　百三十九里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要〕丹後　五郡、三百八十八村、

御料私領

高十四万七千六百十四石八斗四合四勺六才

與佐郡九十二村　加佐郡百三十七村　中郡三十三村　熊野郡五十三村　竹野郡七十三村

〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名

丹後　與射郡弓木村蒲入村波路村島陰村中郡新治村熊野郡品田村多紀郡安口村八上村不來坂村追入村加佐郡田邊大丹生村、

〔釋日本紀五述義〕丹後國風土記曰與謝郡郡家東北隅方有速石里此里之海有長大石前長二千二百廿九丈廣或所九丈以下或所十丈以上廿丈以下先名天梯立後名久志濱然云者國生大神伊射奈藝命天爲通行而梯作立故云天梯立神御寢坐間仍伏仍怪久志備坐故云久志備濱此中間云久志自此東海云與謝海西海云阿蘇海是二面海雜魚具善住但蛤乏少、

〔釋日本紀十二述義〕丹後國風土記曰與謝郡日量里此里有筒川村此人夫日下部首等先祖名云筒川嶼子者也、

〔元元集七〕丹後國風土記曰比沼山頂有井其名云眞井今既成沼此井天女八人降來浴水于時有老夫婦其名曰和奈佐老夫和奈佐老婦此老等至此井而竊取藏天女一人衣裳卽有衣裳者皆飛上但無衣裳女娘一人卽身隱水而獨懷愧居爰老夫謂天女曰吾無兒請天女娘汝爲兒天女答曰妾獨留人間何敢不從請許衣裳老夫曰天女娘何存欺心天女云凡天人之志以信爲本何多疑心不許衣裳老夫答曰多疑無信率土之常故以此心爲不許耳遂許卽相副而往宅卽相住十餘歲爰天女善爲釀酒飲一盃吉萬病悉除之其一杯之直財積車送之于時其家豐土形富故云土形里此自中間至于今時便云比沼里後老夫婦等謂天女曰汝非吾兒暫借住耳宜早出去於是天女仰天哭慟俯地哀吟卽謂老夫等曰妾非以私意來老夫等所願何發厭惡之心忽存出去之痛老夫增發瞋願去天女流淚徵退門外謂鄉人曰久沈人間不得還天復無親故不知由所居吾何々哉拭淚嗟嘆仰天歌曰阿麻能波良布理佐兼美禮婆加須美多智伊弊治麻士比天由久弊志良受母遂退去而至荒鹽村卽謂村人

等云思老夫老婦之意我心無異荒鹽者仍云比沼里荒鹽村亦至丹波里哭木村據槻木哭故云哭木村復至竹野郡船木里奈具村卽謂村人等云此處我心成奈具志久古事平善者乃留居此村斯所謂竹野郡奈具社坐豐宇賀能賣命也、

〔三代實錄七清和〕貞觀五年十一月十七日丙午先是丹後國言細羅國人五十四人來著竹野郡松原村問其來由言語不通文書無解、

〔丹州三家物語〕國中之地侍進退之事附細川丹後國主と成事

加佐郡には頭立たる城持八人略有けるが藤孝細川家臣石寺治右衞門を先田部尾安の何がしが許へつかはして宮津より西北四郡治めぬる條加佐郡の各はや〳〵宮津へ出て禮會可有哉と申つかはしたりければ略中田部より舟に乘宮津をさして漕行ける、

〔細川大心院記〕大心院殿元政ハ高津ニ陣ヲメサレバ澄之ハ牧ト云所ニ宿陣ス澄元ハ丹後國田邊ト云所ニ陣ヲ取ラル、

〔田邊府志一〕八田村地頭之事

今此處田邊といへる町地はいにしへは八田村といひて野村民家の居せしところなり略中長岡藤孝此處に城郭を築き市街をひらき田邊と名づけ給へるを稽見るに昔日田邊小太夫といひて此處の地頭たりしが圓隆寺を信敬ありて諸堂も建立ありしとなりこのゆへに其芳名を久しくつたへめでたき人なれば處の名とせられたりと見へたり、

〔丹州三家物語〕細川父子丹後國入來之事

細川父子藤孝忠興の人々天正九年の三月宮津に至り八幡山へ入城せられけるが兼て河守邊より奥宮津までの地侍百姓等細川に隨ひけり、

〔丹後國宮津志〕宮津城　古來宮津城ノ名アリト云ヘドモ今ノ地ニ非ズ上宮津ニ城跡アリ八幡

山ニモ城跡アリ、今ノ宮津ノ城地往昔ハ田邊領ニシテ、平田民家ノミナリ、寛永二年乙丑、京極高廣始テ城ヲ築キテ城下屋敷ヲ經營シ、町家ヲ割リ渡シ、人ヲ田邊ヨリ移サシム、故ニ今ニ至テ田邊引越ノ者ト、宮津土著ノ者ト、新古ノ差別アリ、〇略中

宮津城下東西三十二町卅八間、南北十二町十六間、東ハ若狹海道、西ハ但馬海道、南ハ京海道、北ハ與謝ノ入海也、地形東南西ハ環テ山ナリ、北一方ハ海上ヲ受タリ、

〔丹州三家物語〕國中の城々を割て當國に六城立る事

永祿元龜の比より、當國殊に騷しく成て、既に天正の比は丹後一州を地侍共三十六人として分領し、〇略中天正九年、細川父子此國に來りしより、同十年に丹州五郡悉手に入ければ、〇略中在々所々のかきあげ共悉破却て、宮津田部は根城にて、其外四ケ所に城を立、宮津は忠興居城とす、田部は藤孝隱居城、峯山は細川玄蕃久美の城には松井佐渡、中山には有田四郎右衞門、河手は國侍上京德壽軒が居城なり、

〔兎林政頼記〕兩京兆談合有テ、畠山修理大夫奉公衆御供申、同〇永正八年八月十六日、將軍京都ヲ御取ノキ、丹後國上吉ト云所ニゾ御座有ケル、

〔當宮緣事抄〕左辨官下　石清水八幡宮幷宿院極樂寺

應永停止宮寺幷極樂寺庄園領家預所下司公文等、或號有先祖讓狀、或稱相傳文書、致異論企掠領、兼又有由緒雖令傳領、子孫斷絕處々付本所事、

宮寺領〇略中　丹後國　佐野庄　杉板別宮　黑戸庄〇略中　極樂寺領〇略中　丹後國　平庄〇略中

大史小槻宿禰在判下略〇

保元三年十二月三日

〔法然上人行狀畫圖十九〕丹後志樂の庄に彌勒寺といふ山寺の一和尚なりける僧の、むかしは天台山の學徒、のちには遁世して、上人〇法然の弟子となりて、一向に念佛して、五條の坊門富小路に

莊保

藩封

すみけるが〇略下

〔吾妻鏡十五〕建久六年八月六日戊午、丹後國志樂庄幷伊稱保領家雜掌解到來、地頭後藤左衞門尉基清、致濫妨狼藉之由云云、

〔吾妻鏡三十二〕嘉禎四年〇曆仁元年十月十一日壬子、丹後國曾我部庄者、依爲後白河院法華堂領、不被補地頭、

〔古文書類纂上處分狀〕後深草天皇建長二年關白藤原道家處分狀

總處分　條々事〇略中

一家地文書庄園事〇略中　前攝政〇略中　新御領〇略中　丹後國丹波庄〇略中

建長二年十一月　日

〔明德記下播州〇山名滿幸ハ丹波ニ足ヲモタメズ、丹後國ニ馳付テ、當國ノ木津細陰ノ庄〇庄、寬永版作城、ニ愚老在二御判一立籠テ、討手ノ下向ヲ相待ベシト評定シ給シカ共、〇略下

〔丹後國田數目錄〕注進丹後國諸庄鄉保總田數帳目錄

加佐郡〇略中

一池内保　拾九町貳段內〇略中　一氣多保十二町五段內〇略中

與佐郡

一味〇佐保拾四町五反三拾六步　御厩御領所〇略中　一豐富保　拾壹町四反三百貳拾四步〇略中

一永〇久保　拾三町七段百五十六步　片岡與五郎　一波見保　拾壹町貳百四拾八步　成相寺　一細工所保　三拾四町壹反六拾七步〇略下

〔慶應元年武鑑〕松平伯耆守宗秀（雁間、從四位侍從、文久二戌六月任）七万石　居城丹後與佐郡宮津江戸ヨリ百四十九里餘

一色左京大夫居、天正十八、細川兵部大輔藤孝、同越中守忠興、慶長五、京極丹後守高知同丹後守高廣、寬永九、永井右近大夫尚征、同信濃守尚長、延寶九、阿部對馬守正森元祿十、奧平大膳大夫昌春中

津ニ替、享保二、青山大膳亮幸秀、同大膳亮幸道、寶暦八ヨリ松平富之助資昌、以後領ノ之、

〔慶應元年武鑑〕牧野河内守誠成　三万五千石　居城丹後加佐郡田邊江戸ヨリ百四十五里　天正十一、細川領、慶長九、京極修理大夫高三、同飛驒守高仲、寛文八、牧野佐渡守親成、以後代々領ノ之、

京極主膳正高富　一万千百四十四石餘　在所丹後中郡峯山江戸ヨリ百五十里餘　當所元和八ヨリ、京極氏高通、以後代々領ノ之、○節略

〔倭名類聚抄五國郡〕丹後國○註略　管五　田四千七百五十六町百五十五歩　〔伊呂波字類抄國郡〕丹後國（中略）本田五千五百三十七丁

〔海東諸國記〕丹後州　産深重青銅、郡六、水田五千餘町、

〔丹後國田數目錄〕注進丹後國諸庄鄉保總田數帳目錄　人皇九十一代伏見院御宇戊子年也　合　正應元年八月日

總都合田數四千六百六拾七町四段九拾三歩也○節略

〔日本鹿子十一〕丹後國五郡中上國、南北一日半、知行高十二万三千百五十石、

〔官中秘策四〕丹後國　五郡○中略

一石高拾四万五千八百廿壹石餘

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調○中略

丹後國御私領　一高拾四万七千六百拾四石八斗四合四勺六才

〔延喜式二十主税六〕諸國出舉正税公廨雜稻○中略

丹後國正税公廨各十七万束、國分寺料二万束、文殊會料一千束、大學寮料八百束、修理池溝料一万束、救急料六万束、

〔倭名類聚抄五國郡〕丹後國○註略　管五（中略）本額四十三萬千八百束

〔延喜式内藏寮〕諸國年料供進○中略　檜（中略）丹後（中略）伊豫國各二合

〔延喜式二十三民部〕年料春米○中略　丹後國大炊五百石○中略

年料別納租穀○中略　丹後國九百八石○中略

諸國貢蘇番次○中略　丹後國八壺二口各大一升、○中略　右十箇國爲第四番辰戌年○中略

交易雜物○中略　丹後國絹二百五十疋、白絹十二疋、鹿革十張、櫓二合、小鰯腊十二籠、

〔延喜式二十主計四〕丹後○中略　右廿五國中絲○中略

丹後○中略　右廿九國輸絹

丹後國行程、上七日、下四日、

調兩面五疋、二窠綾五疋、三窠綾七窠綾、薔薇綾各三疋、小鸂鶒綾一疋、白絹十疋、緋帛、縹帛各廿疋、自餘輸絹綿、庸、白木韓櫃廿合、自餘輸綿米、中男作物、紙、黒葛、漆、胡麻油、椎子、鳥賊、雜魚腊、海藻、

〔延喜式三大膳三〕諸國貢進菓子○中略　丹後國甘葛煎一斗

〔延喜式三典藥七〕諸國進年料雜藥○中略

丹後國廿四種　黄連卅八斤十四兩二分、白朮四斤十一兩、藍漆五斤八兩、昌蒲四斤、黄蘗廿斤、龍膽一斗三升、苦參、木斛各十斤、白芷十斤、伏苓七斤三兩、升麻二斤八兩、蛇脱皮二兩、槐子一斗一升、署預一斗、麥門冬大一斗三升五合、桃人一斗五升、車前子一斗六升、亭歷子二升三合、吳茱萸、蜀椒各一斗七升、乾棗一斗、細辛十五斤、甘葛煎三升、白殭蠶二兩、

〔延喜式三十内膳九〕年料○中略　丹後國生鮭三捧十二隻、三度、氷頭一壺、背腸一斗五升、三度、小鯛腊一石二斗、

〔毛吹草三〕丹後

蒲黄　胡麻　葛籠　撰糸　紬（單物ニ用之）　切門文珠貝（松海喰トモ云）　伊禰浦鰤　鰯　老海鼠　海鼠

目指　沖島隼　久美海松　内堅苔　河守矢根

國産貢獻

田數石高

出舉稻

人口

〔三代實錄五十光孝〕仁和三年六月二日甲辰、勅諡國宰、採取正倉舊樣絹、每國賜一疋、依舊樣作、

〔官中秘策四〕丹後國　五郡○中略　一人數十三万四千四百七拾六人　内六万八千六百九拾八人　男　六万五千七百七拾八人　女

〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調○中略　文化元甲子年　御料私領　一人數拾四万七千四百三人　内七万四千八百五人　男　七万弐千五百九拾八人　女

弘化三丙午年　諸國人數調○中略　御料私領　一人數拾五万四千三百八人　内七万八千弐百壹人　男　七万六千百七人　女

風俗

〔人國記〕丹後國

丹後國ノ風俗、上下男女共ニ千人萬人之内ニ過テモ、一人モ好人稀也、氣質不レ直而氣弱ク、勇氣寡ク實寡フ而、我邪智有テ、聊モ取リテ可レ用樣ナク、唯隼鷹ノミヨシ、人ハ氣質直ナレバ勇氣ナク、勇氣アレバ邪智有、亦愚智也、實アレバ氣不レ叶、兎角擧テ難レ用國也、是レ根本水土ノ不レ然所以也、

名所

〔日本鹿子十一同國後○丹中〕名所之部

與謝海　吹井浦　郡の名與謝といふあり、此郡のうちに入海あり、是を與佐の入海といへば、與佐の海といふは、此郡のうちの浦をさのごとくよびはべると見えたり○中略

内外濱○中略　與佐ノ大山○中略

天橋立　神代九世にあたりて出來る間、九世戸とも云也、文珠の御座所と丹後の府との中間也、東西遠サ一里也、南北は海也、橋立の東よりに三町ばかり舟渡あり、北より南へ是を入海といふ、橋立の磯邊は村々有、文珠堂のあたりはみな松原なり、○略

成相　府中の西一里あまりなり、よさの海を東に見て眺望無雙、

梶島　枯木島　水口　水口といふは、うら島が住し所なり、　浦島　古事不レ及二注言一

〔延喜式二十兵部八〕諸國健兒○中略　丹後國卅人○略

諸國器仗○中略　丹後國甲三領、横刀四口、弓十具、胡籙十具、

雜載

名稱

但馬國

但馬國ハ、タヂマノクニト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ丹波丹後、西ハ因幡、南ハ播磨ニ界シ、北ハ海ニ至ル、東西凡ソ十五里、南北凡ソ十二里、此國ハ古ヘ國府ヲ氣多郡ニ置キ、朝來(アサコヤ)養父(ヤブ)出石(イヅシ)、氣多(ケタ)、氣(キノ)崎(サキ)美含(ミクミ)二方(フタカタ)、七美(シツミ)ノ八郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、明治維新ノ後、氣多、美含ノ二郡ヲ城崎郡ニ併セ、又二方、七美ノ二郡ヲ合セテ美方郡ト爲シ、兵庫縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕但馬太知萬

〔運歩色葉集〕但馬八郡　但州但馬

〔日本風土記一寄語島名〕但馬達什摩

〔倭訓栞前編十四〕たぢま　但馬と書り、田道間守が住し國なる事、垂仁紀に見えたり、但馬の字は演繁露に見えたり、

〔古事記中應神〕於是天之日矛、聞其妻遁、乃追渡來、將到難波之間、其渡之神塞以不レ入、故更還、泊多遲摩國、

〔古事記傳三十四〕多遲摩は但馬なり、名義未考得ず、天日矛の子孫の世々の名、多遲摩某とあるを以て見れば、彼人々の名に因れる國名か

位置

ども云べけれど、
然にはあらじ、

〔日本書紀六垂仁〕三年三月新羅王子天日槍來歸焉將來物○中略幷七物則藏于但馬國常爲神物也、

〔但馬考一制度〕國名

此國ノ名古書ニ載ルトコロ、其文字同ジカラズ、舊事紀ニ但遲麻トシ、古事記ニ多遲麻トシ、日本紀ニ田道間トス、タヾタヂマト云ノミゾ、古來定リタル本名ニシテ、其ヲ、

〔諸國名義考下〕但馬

和名抄に但馬太知萬國府在二氣多郡一、名義は總國風土記に、但馬國者、往昔黑田大連所レ領行レ也、山路多而通行在レ于馬、故名二達馬一也、今謂二但馬一則其訛也とあり、又は田路端ハノ前後の中間の意にて、田路間にてはあらざるか、こはこゝろみに云のみ、又思ふに橘の婆を麻にかよはして、奈を略きたるならむ、新羅國の王子天日矛この皇國にきたり、この國に留り子孫つゞきしこと、國史に見えたり、代々但馬某と號たる中に、田路間守ぞ田路間の始にて、その四代以前より但馬某と號しは、後を前にめぐらして、國史には云るされたるなるべし、そのよしは、古事記、玉垣宮段に、天皇以二三宅連等之祖名多遲麻毛理遣常世國一、令レ求二登岐士玖能迦玖能木實一、故多遲摩毛理、遂到二其國一採二其實一云々、是今橘者也云々、○中略とあるなどを思へば、田路間守は橘守にてはあらざるか、姓氏錄左京諸蕃新羅の部に、橘守三宅連同祖天日槍命之後也とあり、されど古事記傳には、橘は多遲麻花なるべしとあり、かゝれば我推量はうらうへの違ひなり、

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

但馬豐岡、中町極高三十五度三十三分、經度西五十二分、從東都同上東海道自二京師一至二歷二笹山及福知山一一百七十二里一十七町

〔日本經緯度實測〕北極出地

但馬　豐岡　三五度三三分○○秒

東西里差

山城　京　○度○○分○○秒○中略

出石　三五度二○分○○秒○中略

但馬　豐岡　西○度五四分○七秒

〔日本地誌提要四十但馬五〕疆域　東ハ丹波、丹後、西ハ因幡、南ハ播磨、北ハ海ニ至ル、東西凡壹拾五里餘、南北凡壹拾貳里、

〔日本實測錄九島嶼〕但馬國二方郡　遠測　大振島　小振島居組村　赤島居組村　白島　赤島諸寄村　幸島　仙コリ島　小振島諸寄村　キモン崎岩　黑島　シヤウノゲ島　大島　立ケ島　美含郡　實測　鹿島小島、周廻六町四十九間、遠測　トボシ岩　辨天島下濱村　白石　ヒスケサキ島　臼浦島　大島　辨天島訓谷村　鍋タキ島　小島　松山島　鰯島　鹿島　冠島　カゴ島

城崎郡　實測　津居山島從北岬至二東岬一二十六町　小島從北岬至二南岬一七町三十間、菊屋島從北岬至二南岬一八町四十八間、遠測　辨天島　三ツ子　メヲト島

〔易林本節用集下〕但馬但州上、管八郡、東西二日、田厚宏、粟稗繁多而柴木繞饒也、中上國也、

〔日本地誌提要四十但馬五〕形勢　山脈丹波播磨ヨリ因幡ニ連リ、西方一帶、山谷險隘ニシテ平地少ナシ、其東邊河流縈紆シテ灌溉ヲ資リ、民業農商相半シ、風俗淳朴、古風ヲ存ス、土地陰濕、

〔日本實測錄四街道〕從丹波國東岡屋歷福知山及出石至城崎○中略

但馬國出石郡久畑村　一里三十五町一十八間　小谷村　一十六町六間　出合村至唐川村一十七町三十一

疆域

島嶼

地勢

道路

間、從唐川至坂井村、三里二十丁二十四間、　二十三町一十五間　口矢根村　三十三町四十五間　寺坂村　二十四町四十七間至出石新町一間　出石上魚屋町丁四十宗鏡寺三八間　二町二十四間　同八木町歷出石城大手前至柳町、十五丁五十間　四町三十七間至鐵炮丁橋二丁二間　同河原町至柳町四丁六間、從柳町歷來地峠至養父市場村三里一十二丁四間半　一十九町九間　宮內村至伊豆志座神社一丁四十七丁　二里一町四間半　城崎郡大磯村　九町五十四間至豐岡京口町一丁四十五間　豐岡中町、三十五度三十三分、二里三十四町四間至六地藏橋八丁三間　湯島村、又呼城崎、三十五度三十四分、二里一十八町四十三間、

從丹波國大澤歷栢原及養父市場至大磯〇略　中

但馬國朝來郡粟鹿（アハヂ）村至粟鹿神社（アハヂ）　二十四町五十間　矢名瀨村、三十二町五間半　養父郡堀畑（ヤブ）村　一十七町一十八間　養父市場村追分　三町一十二間　養父市場村、三十五度二十三分半、一里二十五町五十四間至八木川岸一八里一町　下小田村　一里一十六町五十七間　氣多（キタ）郡宵田村　五十一丁六間　上小田村　五町三十三間　下小田村　一里一十六町五十七間　氣多郡宵田村　三十三町三間　手（テ）町一十五間　江原村至稱布村一丁三十二間、從稱布村二里二十六丁、從稱布至高柳村二里二十六丁、歷水上至上石村二里九丁一間、　三十三町三間　手（テ）邊（ベン）至宮內二十二間半　一十四町二十七間　上石（アグイシ）村　一十一町四十二間　城崎（キサキ）郡佐野村至雷神社六丁二十一間　一里一町四十五間至九日上ノ町一十六丁三間　大磯村　從大澤至大磯、街道、通計二十里一十五町五十間、

從但馬國和田山歷生野至仁豐野

但馬國朝來郡和田山村　一里一十町二十四間半　竹田中町　一里二十町三間　山口村　一里二十三町　生野銀山廻　一十三町三十三間至國界三丁　播磨國神西郡眞弓村〇略　中

從但馬國堀畑歷村岡至入江

但馬國養父郡堀畑村　二里五町至大屋川岸三十三丁七間、從大屋川岸至廣谷村二丁四十五間、　高柳村　二十四町一十八間　上八木村　三里一十八町二十四間半十丁三十間半　七味郡福岡村至八幡社二丁四十五間　一里三十

町三十間　村岡至伊津岐社四丁四十二間　一里六町　入江村　從堀畑至入江街道、通計九里一十二町一十二間半、

〔日本實測錄一沿海〕從赤間關沿海至鞠山〇本敦賀中略

但馬國二方郡居組村七坂峠至丸山岬五町四十間　一十八町三十二間　居組村至居組岬三町四十八間　二町一間　同穴見至穴見岬八町一十四間　一里一十四町一十九間半　諸崎村雪ノ浦至燈明堂二町八間　二十町一十七間　蘆屋村至古城岬三町二十間　八町　濱坂村濱、至濱坂村宿所三町二十六間　三十五度三十七分、四里四町一十三間至赤崎村三尾五十四間　美含（ミクミ）郡餘部（アマルベ）村、三十五度三十八分半、一十九町三十八間　鎧村至大崎七町三間、又至竢（ヒトイチ）ケ岬三町六間、　三十四町三十六間半　下濱村　合土川至海岸三町五十九間　二十四町二十七間　一日市（ヒトイチ）村　二十五町二十三間至一日市村東浦一町一十一間半　沖浦村歷丹生崎一十二町一間　一十五町五十四間　上ケ（カノ）村至浦上岬一十一町四十三間半　一里四町三十六間半　訓谷（クンダニ）村、三十五度三十八分半、二里一十七町三十三間半至濱安木村一十八町一十二間半、從濱安木至竹野村鹿島崎一十八町一十五町四十七間、　竹野（タカノ）村　二里三町五十一間半　城崎郡瀨戸村至チマチ岬一十二町三十八間一十　九町五十二間半　小島村豐岡川口至湯ノ島村三十一町五十間、　二町一間　氣比村沿豐岡川二十六町二至戶島村一里二十九間半、　一十八町三十七間　田結（タヒ）村至ステケ岬一十九町三十四間　一里九間至國界二十二町一十二間半、

〔延喜式二十八兵部〕諸國驛傳馬〇略　中

但馬國驛馬、粟鹿郡々養各八疋、面沼射添各八疋、山前五疋、春野五疋、傳馬、朝來養父二方、各五疋、

〔日本國郡沿革考三山陰道〕但馬　古作多遲摩、古事記ニ　或但遲麻國造記ニ　上國、管八郡、六百二十三村、

朝來九十村　養父百村　二方五十四村　七味七十五村　氣多七十村　城崎

七十九村　美含七十二村　出石八十村　孫清彥所レ獻小刀名出石ト則地名所レ出云、　日本紀、垂仁八十八年、天日槍曾

〔日本地誌提要四十五但馬〕沿革　古ヘ國府ヲ氣多郡ニ置今ノ府市場村　承久ノ亂、州人太田昌明鎌倉ニ屬

宿驛

建置沿革

ス、因テ守護ヲ領シ、相傳ル數世ニシテ守延ニ至ル、元弘中、北條高時、皇子聖尊ヲ本州ニ幽ス、既ニシテ王師興ル、守延聖尊ヲ奉ジテ京師ニ入リ戰死ス、後州豪或ハ官軍ニ屬シ、或ハ足利氏ニ屬シテ擾亂數年、正平八年、山名時氏吉野ニ歸順シ、山陰ヲ略シ、圖州ヲ取ル、十九年、畔テ足利義詮ニ降リ、伯耆ニ居リ、第五子時義ヲ本州ニ封ジ、出石郡此隅山ニ治ス、後時義嫡宗ヲ承ケ、最驕蹇、元中六年卒シ、子時熙封ヲ襲グ、將軍義滿其之ヲ伐シム、時熙削髮出亡シ、氏清代テ守護トナル、八年、氏清誅死ス、義滿、時熙ノ無罪ヲ憫ミ、之ヲ復封ス、子持豐ニ至リ、赤松氏ノ亂ヲ討ジ、功ヲ以テ播磨美作備前三州ヲ加封ス、應仁元年、持豐細川勝元ト難ヲ京師ニ構ヘ、接戰凡七年、文明五年卒シ、其孫政豐嗣ギ、黨援皆散ジ、僅ニ本州ヲ保ツ、後三世祐豐ニ至テ、日ニ益徵弱、天正二年、徙テ出石ニ治ス（初メ有子山ト云）五年、豐臣秀吉西伐シ、八木城ヲ拔キ、朝來養父二郡ヲ取ル、八年、再ビ來攻メ出石陷リ、祐豐降ヲ乞ヒ山名氏亡ブ（山名氏七世、凡二百二十八年）豐臣氏、其弟秀長ヲ封ジ出石ニ鎭シ、宮部繼潤ヲシテ豐岡ヲ守ラシム、既ニシテ秀長ヲ大和ニ徙シ、前野長泰ニ出石ヲ賜フ、文祿中、事ニ坐シテ除封シ、小出秀政之ニ代リ、五萬石子吉政嗣ギ、德川氏ニ至テ封故ノ如シ、後六世英及（ツグ）、元祿中天シテ嗣絕エ、松平忠德ヲ封ズ、寶永ノ初、仙石政明之ニ代ル、繼潤豐岡ニ在ル三年ニシテ因幡ニ轉ジ、杉原長房之ニ代ル、後二世重元嗣ナクシテ收封セラレ、寬文中、京極高盛之ニ代ル、凡テ二藩、王政革新、村岡藩ヲ建テ、山名義濟（名）三藩トナシ、別ニ生野縣ヲ置ク、既ニシテ藩ヲ改テ縣ト爲シ、又皆廢シテ豐岡縣ヲ更置ス、

〔先代舊事本紀十國造〕但遲麻國造

志賀高穴穗朝御世、出雲國造同祖遷狛一奴命孫美尼布命定賜國造、

二方國造

志賀高穴穗朝御世、出雲國造同祖遷狛一奴命孫美尼布命定賜國造、

國府　郡

〔續日本紀六元明〕靈龜元年五月壬寅從五位上阿倍朝臣安麻呂爲但馬守、

〔吾妻鏡二十五〕承久三年八月十日辛酉、法橋昌明者幕下將軍（源朝）之時有功者也、今度逆亂雖有勅喚、其意如巖、曾不參洛、關東、此事既達二品禪尼之聽、昌明雖參洛、未申子細、但馬國守護職、幷庄園等成下文、去月遣訖、于時昌明、不辨之以前、同月廿三日狀、註申功事、其狀今日到來鎌倉、二品禪尼披覽之、殊所令感歎也、

〔倭名類聚抄五國郡〕但馬國（國府在氣多郡、行程上七日、下四日、）

〔伊呂波字類抄太國郡〕但馬國（中略）氣多（クタ）

〔日本後紀十桓武〕延曆二十三年正月壬寅、遷但馬國治於氣多郡高田鄉、

〔倭名類聚抄五國郡〕但馬國（略）註管八（略）朝來（アサコ）古安佐　養父（ヤフ）夜不出石（イツシ）伊豆志　氣多（クタ）　城崎（キサキ）岐乃　美含（ミクミ）美具　二方（フタカタ）

布太　加太　七美（シツミ）志美

〔延喜式二十民部〕但馬國、上、管朝來（アサコ）　養父（ヤフ）　出石（イツシ）　氣多（クタ）　城埼（キサキ）　美含（ミクミ）　二方（フタカタ）　七美（シツミ）

〔皇國郡名志〕但馬國八郡

朝來（アサコ）　〈竹田　●和田山　●ヤナセ　●白井　丹擯界

養父（ヤフ）　〔尾崎〕　●高柳　●網場　●タカタ　國中ヨリ擯界ニ至

出石（イツシ）　●岩サキ　〈山下　〔出石〕　●大谷　●久畑　丹波丹後界

城崎（キサキ）　〈豐岡　●森津　〈湯島　〈温泉　丹後界

美含（ミクミ）　●氣比　●余部　●矢田　●矢坂　北海郡

二方（フタカタ）　●湯村　●諸崎　因界西北海邊

七美（シツミ）　●大久保　〈扁岡　〈村岡　〈百姓町

●和田

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國葛郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕但馬

六國史古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄	諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
	城崎（キノサキ）	城崎（和名抄作朱城乃佐木）	同	同（國元）	城埼（キノサキ）	城崎	同	同（キノサキ）	同
	出石（イヅシ）	同（伊豆志）	同	同（國元知）	同（イヅシ）	同	同	同（イヅシ）	同
	美含（ミクミ）	同（美具美）	同	同（國元知）	同（ミクミ）	同	同	同（ミクミ）	同
	二方（フタカタ）	同（有本加多）	同	同（國元知）	同（フタカタ）	同	同	同（フタカタ）	同
	氣多（ケタ）	同	同	同（國元知）	同（ケタ）	同	同	同（ケタ）	同
	七美（シツミ）	同（志ツ美）	同	七美（國） 七味（知）	七味（シツミ）	同	同	同（シツミ）	七美
	養父（ヤフ）	同（波不）	同	同（國元知）	同（ヤフ）	同	同	同（ヤフ）	同

朝來郡　養父郡　出石郡　氣多郡　城崎郡

〔東大寺正倉院文書　二十九〕但馬國正稅帳（天平九年）

（朝來郡押坂神戸租代卅九束九把（中略）養父郡養父神戸租代百卅五束五把　出石郡出石神戸租代四百卅五束六把、

〔東大寺要錄　八〕勅旨（可レ有二封庄章之中一）

金光明寺宛食封一千戸（中略）氣多郡五十戸、朝來郡五十戸、（中略）

但馬國百戸（氣多郡五十戸、朝來郡五十戸、）

奉二今月廿一日勅一、件封宛金光明寺、其收停期更待二後勅一者、

天平十九年九月廿六日

〔類聚國史　四十（後宮）〕嵯峨天皇弘仁四年正月丁丑、制令二伊勢國壹志郡、尾張國愛智郡、常陸國信太郡、但馬國養父郡一貢上郡司子妹年十六已上廿已下、容貌端正、堪レ爲二采女一者各一人一、

〔應仁廣記　三〕諸國亂逆事

同年（應仁二年）三月廿日、細川方ノ長九郎左衞門、幷丹波ノ內藤孫四郎、疋田夜久ノ輩人數ヲ催シ、山名家ノ領地、但馬國朝來郡へ亂入、一品粟鹿磯邊ナンドニ充滿タリ、（中略）朝來郡ハ播磨丹波ニ境居タレバ、郡中ノ者共、動者敵ヲ可二引入一ノ由聞ヘシ程ニ、守護代大田垣土佐守ガ計ラヒトシテ、嬌子新左衞門宗朝ニ一手柄サスベシト、但州へ差下ス、

〔續日本後紀　十二（仁明）〕承和九年十月乙亥、但馬國氣多郡山神、雷神、戶神、蜀椒神、城埼郡海神等五前並預二官社一、

〔半陶藁一〕但州西光寺化緣疏并序

但州路木崎郡西光敎寺、乃般舟三昧古道場也、

〔三代實錄二十七清和〕貞觀十七年十月八日丁巳、但馬國言、管二方郡百姓等遙望海中、有物形似小鳥、長可十丈、前後之端有物、透出高可五六尺、疑是船之舳艫也、中央有隨風搖動之物、疑是帆席也、〇中略其數三也、〇中略疑是他國船也、〇下略

〔三代實錄三十七陽成〕元慶四年六月十七日己亥、但馬國七美郡山里人家有嬰兒女、中庭匍匐、

〔日本靈異記上〕嬰兒驚所擒以後國得逢父緣第九

飛鳥川原板葺宮御宇天皇〇皇極之代、癸卯年春三月頃、但馬國七美郡山里人家有嬰兒女、中庭匍匐、驚擒騰空指東而翥、

〔倭名類聚抄八但馬國〕朝來郡　山口也末久知　桑市久波伊知　伊田賀都加都　東河土加　朝來阿佐古　粟鹿安波　礒部以曾　養父糸井伊土井　石禾伊波　佐養父輕部〇高山寺本註加流倍　大屋三加太　遠屋養者也木　淺間安佐末　遠佐

出石郡　小坂乎佐加　安美出石以之都之　室野無呂乃　埴野波爾乃　高橋多加波之　資母

氣多郡　太多三方三加太　樂前佐々久萬　高田多多多　城崎郡　新田爾布多　城崎木乃左木　三江美衣　奈佐田多布　美含郡　佐須竹野多乃　香住加須美　善含三久美　長井奈井　加徐戸　二方郡　久斗土　二方布多加多　田公多木美　大庭於保無波　八太波多　陽口　刀岐　熊野　温泉由　七美郡　兎束土加　七美之都美　小代乎之呂　射添伊布　驛家

〔法隆寺伽藍緣起并流記資財帳〕合食封貳佰戸永年者在二四國一〇中略

但馬國朝來郡〇枚田鄉〇五十戸〇中略

右天平十年歲次戊寅四月十二日、納賜平城宮御宇天皇〇聖武者、

〔東大寺正倉院文書東南院肆櫃附錄九〕但馬國司解　申進上奴婢事

合進上奴婢伍人〇中略

奴池麻呂〇中略　右出石郡少坂鄉戸主外從七位下宗賀部乳主之奴

奴糟麻呂〇中略　右同郡穴見鄉戸主大生直山方之奴

奴藤麻呂〇中略　右同郡穴見鄉戸主土師部美波賀志之奴

婢田吉女〇中略　右朝來郡桑市鄉戸主赤染部大野之婢

婢小當女〇中略　右二方郡波大鄉戸主采女直眞島戸采女直玉手女之婢〇中略

天平勝寶二年正月八日〇署名略

〔今昔物語二十六〕於但馬國鷲巢取若子語第一

今昔但馬國七美郡川山ノ鄉ニ住ム者有ケリ

〔但馬國大田文〕太田文郎左衛門尉政頼弘安八年之注進

朝來郡〇中　牧田鄉〇中　東河鄉〇中

養父郡〇中　安美鄉〇中　大惠本鄉〇中

氣多郡〇中　高生鄉〇中　日置鄉〇中

狹治鄉〇中　八代鄉〇中　下賀陽鄉〇中

出石郡〇中　出石鄉〇中　神戸鄉〇中

城崎郡〇中　田結鄉〇中

美含郡〇中　竹野鄉〇下

高田鄉〇中　氣多鄉〇中　上鄉〇中　下鄉〇中

小堤鄉〇中　下里鄉〇中　安美鄉〇中

村里名邑

〔但馬考（三地理）〕朝來郡　山口郷

此郷ハ國ノ南境ナリ、上古浪華平城ノ都ヨリ當國ノ往來、ミナ播磨路ヲ通リシユヘ、此郷ヲ但馬ノ入口トスルナリ、延暦年中、都ヲ平安城ニ遷サレテモ、中古マデハカクアリシト見ユ、順徳院ノ八雲抄ニ、二見浦ヲ播磨トシ、但馬ノ温泉ヘ向フ道ナリト記サセ玉ヒシモコレユヘ也、

〔郡名一覽〕（御料私領）一但馬國　但州　東西二日　八郡　高拾三万六百七拾三石貳斗三升五合

●出石　百四十九里　○豊岡　百五十三里　又村岡（百六十四里）　八生野　百七十里餘

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要〕但馬　八郡、六百二十三村、（御料私領）高十四万四千三百十三石八升四合三才

朝來郡九十村　養父郡百村　二方郡五十四村　七味郡七十三村

氣多郡七十五村　城崎郡七十九村　美含郡七十二村　出石郡八十村

〔地勢提要（坤）〕郡邑島嶼奇名

但馬　出石郡、南尾村、水石村、水上村、養父郡、鐵屋米地村、網場村、八尾村、宿南村、九鹿村、万久里村、米里村、土田村、城崎村、藥々浦村、田結村、大磯村、來日村、簸儀村、津居山島、竹野郡、間人村、久僧村、朝來郡新井村、粟鹿村、早田村、末歳村、氣多郡、竹貫村、八社宮村、美含郡、餘部村、訓谷村、田久日村、加佐郡、蛇島、

〔當宮緣事抄〕左辨宮下　石清水八幡宮幷宿院極樂寺

應永停止宮寺幷極樂寺庄園領家預所下司領、兼又有由緒雖令傳領子孫斷絶處々付本所事、

宮寺領（略）中　但馬國　菅庄（略）中

落封

保元三年十二月三日

〔源平盛衰記（三）〕左右大將事

重盛ノ左ニ御座ケルヲ辭申テ右ニウツシ、實定郷ヲ擧申テ奉レ成二左大將一、イツシカ同（治承元）年五月八日、御悦申アリ、今日佐藤兵衞近宗ヲ左衞門尉ニ成レケル上、但馬國キノ崎ト云大庄ヲ賜ハル、

大史小槻宿禰（在判）下略

〔吾妻鏡（四）〕建久五年閏八月十二日己巳、以二但馬國多々良岐庄一、始爲二地頭補任之地一、可レ被レ付二熊野鳥居禪尼一云云、是依二所望一也、九月廿三日庚戌、但馬國多々良岐庄者、源宰相領所也、而熊野鳥居禪尼故左典厩女房者、強所望彼邊事、異他之間、被二遣地頭補任御下文一、但於二有限領家乃貢課役等一者、不レ可レ有二懈怠之由一、今日被二遣御消息一云云、

壽永三年四月五日

〔南禪寺文書〕但馬國池寺庄（略）中

右所々任二代々勅附（附箋似借）知行不一レ可二相違一者、院宣如レ此、執達如レ件、

建武三年十一月廿七日　參議（花押）

南禪寺長老清拙上人禪室

〔但馬國大田文〕養父郡（略）中　大惠保　十四丁

城崎郡（略）中　相博保　三十九丁四反二百四分　地頭蛭河左衞門尉（略）中　得次保　十四丁

五反六十分　地頭西條十郎太郎

〔慶應元年武鑑（柳間朝散大夫）〕仙石讃岐守久利（略）中　三万石　居城但馬出石郡出石（江戸ヨリ）百四十九里

始羽柴美濃守、秀長、後前野但馬守長康、文祿四、小出大和守吉政、慶長五、同右京大夫吉英、同十八、小出信濃守吉親、元和五再城主、小出大和守益英、同播磨守英長、同久千代、元祿十、松平伊賀守忠德、寶永三、仙石越前守政明、以後領之、

〔慶應元年武鑑〕京極飛驒守高篤〇略　一萬五千石　在所但馬城崎豐岡江戸ヨリ百五十三里

〔倭名類聚抄五國郡〕但馬國〇略　管八（中略）縣十七　公各三十四萬東、本東、雜縣六萬東、

〔延喜式十內藏〕諸國年料供進〇略　交易〇略　六百五十疋（中略）但馬二百疋〇中略

〔延喜式二十民部〕凡諸國所進兵庫寮修理甲料馬革者、〇中略　但馬十一張〇中略　並以驛傳牧等死馬皮、熟而送之、若不足者、賈備滿數、其直充正稅、

年料春米〇中略　但馬國大炊五百石〇中略

年料別納租穀〇略　但馬國二千九百石〇中略

年料別貢雜物〇略　但馬國筆八十管、紙一張、〇中略　右十箇國爲第四番辰戌年〇中略

諸國貢蘇番次〇略　但馬國十一壺三口各小一升、八合、〇中略

交易雜物〇略　但馬國絹七百卅七疋、絲一千斤、鮨皮一百五十斤、醬大豆五石、

〔延喜式二十主計〕但馬〇略　右十二國並上絲〇略

但馬國行程上七日、下四日、

調、九點羅二疋、一窠綾十三疋、二窠綾九疋、三窠綾三疋、薔薇綾四疋、白絹十疋、緋帛卅疋、縹帛十五疋、皂帛五疋、帛三百卅疋、自餘輸絹、庸、韓櫃十合、塗漆著鎌五合、白木五合、自餘輸絹、中男作物、黃蠟二百斤、紙、漆、胡麻油、橿椒油、搗栗子、煮鹽年魚、雜腊、鮨皮、海藻、

〔延喜式三十三大膳〕諸國貢進菓子〇略　但馬國搗栗子七斗、甘葛煎、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥〇略

國產貢獻

但馬國正稅公廨各卅四万束、國分寺料二万束、文殊會料二千束、修理池溝料二万束、救急料一万八千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕但馬國〇略　管八（中略）縣十七　公各三十四萬束、本東、雜縣六萬束、

〔延喜式十內藏〕諸國年料供進〇略　交易〇略　六百五十疋（中略）但馬二百疋〇中略

〔延喜式二十民部〕凡諸國所進兵庫寮修理甲料馬革者、〇中略　但馬十一張〇中略　並以驛傳牧等死馬皮、熟而送之、若不足者、賈備滿數、其直充正稅、

年料春米〇中略　但馬國大炊五百石〇中略

年料別納租穀〇略　但馬國二千九百石〇中略

年料別貢雜物〇略　但馬國筆八十管、紙一張、〇中略　右十箇國爲第四番辰戌年〇中略

諸國貢蘇番次〇略　但馬國十一壺三口各小一升、八合、〇中略

交易雜物〇略　但馬國絹七百卅七疋、絲一千斤、鮨皮一百五十斤、醬大豆五石、

〔延喜式二十主計〕但馬〇略　右十二國並上絲〇略

但馬國行程上七日、下四日、

調、九點羅二疋、一窠綾十三疋、二窠綾九疋、三窠綾三疋、薔薇綾四疋、白絹十疋、緋帛卅疋、縹帛十五疋、皂帛五疋、帛三百卅疋、自餘輸絹、庸、韓櫃十合、塗漆著鎌五合、白木五合、自餘輸絹、中男作物、黃蠟二百斤、紙、漆、胡麻油、橿椒油、搗栗子、煮鹽年魚、雜腊、鮨皮、海藻、

〔延喜式三十三大膳〕諸國貢進菓子〇略　但馬國搗栗子七斗、甘葛煎、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥〇略

田數
石高

出擧稻

〔倭名類聚抄五國郡〕但馬國〇略　管八　田七千五百五十町八段五步

〔拾芥抄中本朝國郡〕但馬上近　八郡（中略）田七千七百四十三町

〔伊呂波字類抄太國郡〕但馬國（中略）本田八千八百四十一丁

〔海東諸國記〕但馬州　郡八、水田七千一百四十町、

〔但馬考一制度〕墾田　今ノ見數

朝來郡　二万三百八十八石五斗二升一合　養父郡　二万六百七十五石二斗七升五合

出石郡　二万四千七百三十五石九斗七升五合　城崎郡　一万九千八百九十九石三斗八升

九合　氣多郡　一万七千五百四十九石一斗七升七合　美含郡　一万千九十四石六斗八升五合　二方郡　七千九百二十六石七斗三升五合　七美郡　六千七百石

通計拾貳萬八千九百六十九石七斗五升七合

〔日本鹿子十一〕但馬國八郡、中上國、東西二日、知行高十二万三千九百六十石、

〔官中秘策四〕但馬國　八郡〇略

一石高拾三万六百七拾三石餘

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調〇略

但馬國御私領　一高拾四万四千三百拾三石八升四合三才

〔延喜式主二十六稅〕諸國出擧正稅公廨雜稻〇略

但馬國廿一種　黃連十八斤三兩、白芷三斤五兩、前胡、杜仲、細辛各一斤十兩、獨活、藍漆、滑石各五斤、白朮、棗本各二斤十兩、石斛十斤九兩、升麻六斤十兩、當歸十斤、梹子四斗、署預、蜀椒、柏子人各一斗桃人一斗五升、麥門冬八升、牡荊子三升、白殭蠶二兩、

〔延喜式（三十九）内膳〕年料○中略　但馬國〔稈海藻四擔十六籠、生鮭三擔十二隻、鰤年魚二缶、山薑一斗五升三度、

〔毛吹草三〕但馬

小人參　芍藥　黃連　白朮　粒半夏　茜　干蕨　同繩　箒　糸綿　苧　柳籠履　温石　銀　鷹　車牛　朝倉山椒　出石絹　諸礒砥

〔三代實錄五十光孝〕仁和三年六月二日甲辰、伊賀○中略　但馬○中略　土佐等十九國貢絹、麁惡特甚、不如昔日、勅譴國宰、採取正倉舊樣絹、每國賜二正、依舊樣作、

人口

〔官中秘策四〕但馬國　八郡○中略

一人數拾五万六千六百拾三人　内　八万七万五千貳百四拾六人　男　女

〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調○中略　文化元甲子年　御料私領

一人數拾六万七千五百四拾九人　内　八万七千貳百五拾三人　男　八万貳百九拾七（七恐六誤）人　女　弘化三丙午年　御料私領

諸國人數調○中略

一人數拾七万三千五百七拾三人　内　八万九千八百七拾壹人　男　八万四千四百九拾貳人　女

〔人國記〕但馬國

但馬國ノ風俗ハ、丹後丹波ヨリハマサレリ、根性ニ實儀有、取分出石氣多城崎二方ノ郡ハ、賴母敷意地有、朝來養父郡之者ハ、意地キタナク盜人多シ、兩丹ノ風俗之中分ニシテ、善ニモ惡ニモ從フ風儀也、

〔但馬考一制度〕風土

土地ノ風ハ土地ニアラズ、人ノ風ニヨリテコレヲ治ム、其文物ノ盛ナル思ヒヤリヌベシ、鎌倉ヨリコノカタハ、守護地頭ト稱スルモ、武冕ノ人ニアラザルハナシ、且其守護ナル別ニ風聲ヲ樹ルニタラズ、百年以來、出石豐岡ノ大藩巍然トシテ文獻ノ域トナル、コレ最明寺殿ノシラザルコトナリ、大抵人オホキ處ハ、風俗都カニシテ情ハ輕薄也、人少キ地ハ風俗鄙クシテ情スナホナリ、タヾ言ヒノミゾ、ニワカニウツシガタシト見ユ、柴ノ折レヲ、但馬ニテハ木ナグセト云、ワケモナイトイフヲ、ヅガモナイト云ナド、男重寶記ニカキヲケリ、

〔日本鹿子十一〕同國○但馬

中名所之部

朝來山○歌略、下同、　二見浦　雪の白濱　諸寄川　五師の里　出石の宮

〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒○略　但馬國五十人○中略

諸國器仗○中略　但馬國甲三領、橫刀八口、弓廿張、征箭廿具、胡籙廿具、

名所雜載

因幡國

因幡國ハ、イナバノクニト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ但馬、西ハ伯耆、南ハ播磨美作ニ界シ、北ハ海ニ至ル、東西凡ソ十二里餘、南北亦之ト相若ク、此國ハ、古ヘ國府ヲ法美郡ニ置キ、巨濃（ヲノ）、法美（ハラミ）八上（ヤカミ）、智頭（チヅ）、邑美（オフミ）、高草（タカクサ）、氣多（ケタ）ノ七郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、後ニ巨濃郡廢シテ岩井郡トナリ、又別ニ八東ノ一郡ヲ增ス、蓋シ八上郡ヲ分割セシナラン、明治維新ノ後、岩井、法美、邑美ノ

三郡ヲ合セテ岩美郡ト爲シ、八上、八東、智頭ノ三郡ヲ併セテ八頭郡ト爲シ、高草、氣多ノ二郡ヲ併セテ氣高郡ト爲シ、新ニ鳥取市ヲ設ケ、鳥取縣ヲシテ之ヲ治セシム、

名稱

〔倭名類聚抄五國郡〕因幡以奈

〔運歩色葉集伊〕因幡八郡　因伯因幡伯耆

〔日本風土記一寄語島名〕因幡矣奴白

〔倭訓栞前編伊三〕いなば　因幡の國は古事記に稻羽に作れり、法美郡郷名にも稻羽見ゆ、

〔古事記上〕故此大國主神之兄弟八十神坐、然皆國者避於大國主神、所以避者、其八十神各有欲婚稻羽之八上比賣之心、共行稻羽時、於大穴牟遲神負帒、爲從者率往、

〔古事記傳十〕稻羽は因幡國なり、彼國法美郡に稻羽伊波奈郷あれば、是より出たる國名なるべし、名義は稻葉よりは出けむ、

位置

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

因幡鳥取故鑄物師町　極高三十五度三十分、經度西一度三十分從東都東海道自西國街道播州下手野村歷下德久村辻堂村知須宿一百九十六里三十一町三十五間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

因幡　鳥取　三五度三〇分〇〇秒

東西里差

山城　京　〇度〇〇分〇〇秒略中

浦留村　三五度三五分〇〇秒略中

因幡　鳥取　西一度三〇分〇〇秒

疆域

〔因幡民談二〕因幡國郡郷村里廣狹路程等事

一當國ハ略中國ノ方位、東ハ但馬、西ハ伯耆、東南ハ播磨、南西ハ美作、北ノ方ハ大洋也、

〔日本地誌提要四十六〕疆域　東ハ但馬、西ハ伯耆、南ハ播磨、美作、北ハ海ニ至ル、東西凡壹拾貳里

餘、南北凡壹拾貳里壹拾八町餘、

〔因幡誌一〕國立位並ニ土界　京ヲ去ル事、北へ六十三里ナリ、國ノ接壤ハ、但馬ノ西、伯耆ノ東ニ隣テ、東南ハ播磨、南西ハ美作、北ハ大海也、其土界東ヨリ巽ニ並テ、巨濃、法美ノ東ノ三郡アリ、巨濃ノ海畔嵐嶺ノ峯通ヨリ奥ハ鳥籠尾嶺、矢倉嶺、蒲生嶺、牛ガ峯ニ至テ、但馬二方郡ノ界トス、其並ニ法美ニ扇山、無二通路一八東ニ豹山アリ、同國七美郡ノ界ナリ、又戶倉嶺、山ノ名四箇山、又大通嶺、小通嶺アリ、小通リ或ハ若杉峠、山ノ名池田山、戶倉大通ハ播磨國宍粟郡ノ界也、小通ヨリ南ハ美作國ノ界ニ又云沖ノ山、屬二智頭八東兩郡一、テ、智頭郡ニ入坂嶺アリ、號二駒還山一、小通リ以下其並ニ白坪嶺、或ハ云右手嶺草原嶺、黒尾嶺アリ、或ハ云、眞桑峠、屬二郷以上爲二同國勝北郡界一、又物見嶺、物見坂アリ、或ハ屬二檮堂鋪峠一佐治郷ニ大株香嶺、或ハ云、險所峠、大杉越八本嶺、以上爲二同國東北條郡界一、又田角嶺アリ、同國西條郡界、其西三角ニ峠タル高山ヲ三國山ト號ス、因作伯ノ三州ニ跨タル大山也、是ヨリ西ハ氣多郡ノ域ニ、佐谷嶺、滑石坂、河上越西坂或ハ云境尾、等ノ險アリ、各伯耆國河村郡ノ界ナリ、國ノ地形ハ大抵四方ニシテ八上郡ヲ中位トス、其接壤邑美、高草二郡ハ、巨濃氣多ノ間ニ並テ、其ニ北ニ亘テ大海ニ至ル、行程諸書ニ南北二日トアリテ、東西ヲ注サズ、今其里數ヲ度ルニ、東ハ播磨境戶倉嶺ヨリ、西ハ伯耆境西坂嶺マデ、百三十六里百十四歩、南ハ美作境人坂嶺ヨリ、北ハ但馬境嵐嶺ニ至テ、百十里百十九歩、是古ノ法ニ據モノナリ、人國記所謂當國ハ海近シテ山深シト、凡三方列岳聳、山脈險ク繞テ、一方ハ荒磯ナリ、地利尤天府四塞ト謂ベシ、

島嶼

〔日本實測錄九島嶼〕因幡國氣多郡　遠測　烏帽子島

高草郡　遠測　沖島　平島　赤島　辨天島

岩井郡　遠測　大島　松島　宮島　丑振島　天神島　ヒク島　四十八鼻

地勢地味

〔易林本節用集下〕因幡州上、管七郡、南北二日、北海近山深、而海藻絹布多、中々國也、

〔信長公記十四〕天正九年六月廿五日羽柴筑前守秀吉中國へ出勢、打立人數二萬餘騎備前美作打

こし、但馬口より因幡國中へ亂入、橘川式部少輔楯籠とつとり之城、四方離れて嶮しき山城也因幡の國は北より西は滄海漫々たり、とつとりと西之方海手との眞中廿五町程隔西より東南町際へ付て流る、大河有、此川舟渡し也、とつとりへ廿町程隔川際につなぎの出城有又海之口にも取繼要害有、藝州よりの味方可引入行として二ヶ所拵置たり、とつとり之東に七八町程隔て並程之高山有、羽柴筑前守彼山へ取上り是より見下、

氣候

道路

路程等事

一國中田土磽瘠ノ地多シテ京畿膏腴ノ類ニアラズ、故ニ米穀稼穡ユタカナラズ、租稅ノ免高カラズ、〇下略

〔因幡民談ニ〕因幡國郡鄉村里廣狹路程等事

一國ノ風氣畿內中國トハ少替リタル事モアリ、四時共ニ京畿中國ヨリ雨シゲクシテ、冬ハ十月十一月ノ比ヨリ雪フリ、十二月明ル正月二月比マデ消ヤラズ、サレドモ京畿餘州ヨリ甚寒スルコトハスクナク、冬ノ內アタヽカ也、然ニヨリテ東北國ナドノゴトク甚シク、氷ツラヽナドノ結ブコト少ナシ、雪ノ深キコト古今都鄙ノ不同アリ、昔ハイカナル所モ五尺七尺山中ナドハ程モナク降ケルトイヘドモ、近年四五年コノカタ、里邊城下ナドハ每年大概二尺三尺ノ內外ナリ、又山中深山ノ間ハ七尺八尺一丈モフル所多シ、ツヒニ雨氣ガチナル故ニ、耕作日損ハ少クシテ、雨シゲキ年ハ田畠必ミノルコトナシ、年ニヨリ洪水ノ患アルコトアリ、大キナル惡風ナドハ吹コト希也、地震ハ昔ヨリ大ニユルコト更ニナシ、只每年春ヨリ夏ノ初ニ至テアタタカナル南風吹テ、跡ニ雨フルコト度々ニテ、此節殊ニ天氣ナシ、

〔日本實測錄四街道〕從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田〇中略

因幡國知頭郡駒歸村　二里三十五町三間　知頭宿三十五度一十六分半、三里二町三間　用ケ瀨村、三十五度二十分半、一里三十一町五十七間　八上郡曳田村至八上姬神社一十三丁二十四間　八町五十一間　谷一ッ木村川原、三十五度二十四分、二里三十四町九間　邑美郡鳥取瓦町歷川外大工町至御弓町一字神社一至御弓町一丁三間、三町四十三間半　同新品治町至元鑄物師町三丁三間、北極高三十五度三十分、從元鑄物師町至御弓町一丁一十三丁一十五間、二十四町一十五間　高草郡德尾村至野見宿禰神社二丁三十三間、二里五十七間　湯村又呼吉岡一屋町一十四間　氣多郡志加奴村山根町、三十五度二十八分、一里一町五十一間至志加奴神社一至志加奴大工町限三丁三十六間　鷲峯村來日至志加奴神社一三丁五十一間、二里三十三町四十二間至國界一二十四丁一

十八間　伯耆國河村郡門前村〇中略
從因幡國知頭歷馬桑至野介代
因幡國知頭郡知頭宿　一里三十町九間　野原村、三十五度一十三分、二里一十三町一十五間
至國界一里二丁六間、　美作國勝北郡馬桑村〇中略
從因幡國岡田歷犬狹峠至本郷
因幡國久米郡岡田村　二十一町三十九間　市場村至中河原村八丁一十八間　一里二十九町二十四間
湯關村　三里八町五十九間半　至國界一里九丁四十七間、　美作國大庭郡下長田村
〔日本實測錄一沿海〕從赤間關沿海至鞠山〇本敦賀〇中略
因幡國氣多郡蘆崎村、三十五度一分歷長尾峠至姫路村船磯一十九町五十三間、　五里一十四町四十間歷長尾峠至船磯一里五町六間半、從船磯至鷲峯川口、一里二十三町三十八間、　小川口至邑美郡鳥取一里二十三町三十八間、　高草郡加路村千代川口歷小川口至邑美郡鳥取一里二十三町三十八間、從小川口至湖山地傍三十三町二十七間半、
二里六町二十間　岩井郡岩戸村至岩戸岬三町二十八間　一里一町三十一間半　濱大谷村至網代岬五町六間
一里七町五十七間半　本浦富村三十五度三十五分、至田後村ケ下シ二十四間　二十九町一十三間至牧谷村一町　小羽尾村至大羽尾村岬一十四町一十四間半　二十五町二十五間至國界二十四間
七坂峠　但馬國二方郡居組村

〔延喜式二十兵部〕諸國驛傳馬〇中略
因幡國驛馬山崎、佐尉、敷見、柏尾各八疋、傳馬巨濃、高草、氣多郡各五疋、
〔續日本紀九元正〕養老七年八月辛亥、加置因幡國驛
〔日本後紀十七平城〕大同三年六月壬申、省因幡國八上郡莫男驛、智頭郡道俣驛馬各二匹、
〔日本國郡沿革考三山陰道〕因幡　古作稻羽、古事記　或稻葉、國造記　上國管八郡、延喜式等七郡、拾芥抄或爲八郡、　五百五十三村、

宿驛
建置沿革

岩井五十村　延喜式等不載、拾芥抄或說作石井、蓋中世析二法美郡所一置、
法美古府治　八東八十八村　延喜式等不載、蓋中世析二八上郡一所レ置、拾芥抄作二八東一、
八上六十村　知頭九十八村　延喜式等作二智頭一、
巨濃延喜式等載、後廢、未レ詳二在何時一、
邑美三十五村　高草八十村　氣多八十二村
〔日本地誌提要四十因幡〕沿革　古へ國府ヲ法美郡ニ置、今稻葉郷宮下村、建武中與伯耆守名和長年ヲシテ守護ヲ兼シム、延元元年、王事ニ死ス、與國元年、足利尊氏、山名時氏ヲ以テ本州及伯耆ノ守護トス、正平八年、時氏歸順シ、尋テ復足利義詮ニ降リ、守護タル故ノ如ク、三子氏冬ニ傳フ、嘉吉三年、氏冬ノ孫熙貴、赤松ノ亂ニ死シテ嗣無シ、宗家持豐ノ三子勝豐後ヲ承ケ、布施城ニ治ス、高草郡天文中、其曾孫誠通、鳥取ニ築テ之ニ移ル、既ニシテ宗家祐豐持豐ノ玄孫ノト隙ヲ生ジ、兵ヲ交テ敗死ス、子幼ナルヲ以テ、家臣和ヲ祐豐ニ納ル、祐豐弟豐定ヲ遣テ國ヲ監セシメ、布施城ニ居ル、豐定卒シテ子豐數代立ツ、永祿中、家臣武田高信、誠通ノ二子ヲ弑シテ、鳥取城ニ據テ叛ク、豐數之ヲ伐ツ、克タズ、元龜二年、豐數卒シ、弟豐國立ツ、天正二年、尼子勝久ニ合シテ高信ヲ誅ス、既ニシテ毛利氏來リ攻メ、豐國終ニ毛利氏ニ屬ス、八年、豐臣秀吉來テ鳥取ヲ圍ム、豐國出テ秀吉ニ投ズ、遺臣、毛利氏ノ將吉川經家ヲ奉ジテ城守ス、九年、秀吉之ヲ陷レ、悉ク本州ヲ定メ、明年、宮部繼潤ヲ鳥取ニ、五萬石、明年封ヲ加ヘ、六萬五千石ト、亀井茲矩ヲ鹿野ニ、壹拾萬石ト、山崎家盛ヲ若櫻ニ、八萬五千石、封ズ、慶長五年、德川氏繼潤ノ子定行ヲ陸奥ニ、六萬石ト、鳥取ニ、池田長吉ヲ鳥取ニ、三千石、封ズ、元和三年、鳥取池田長幸、若櫻山崎家治、本州及伯耆ニ封ジ、三拾貳萬石、鳥取ニ治ス、寛永中、備前ニ徙リ、其從弟光仲代テ封ヲ二州ニ受ケ、子孫仲澄清定ヲ分封シ、凡ソ三藩、王政革新、支封二藩ヲ稱シテ、鹿奴舊鹿野、若櫻ト云、既ニシテ改テ縣トナシ、又之ヲ廢シテ鳥取ニ併ス、

〔先代舊事本紀十國造〕稻葉國造

國府

志賀高穴穗朝（成務）御世、彦坐王兒彦多都彦命定賜國造、

〔續日本紀十三（聖武）〕天平十年八月乙亥、從五位下當麻眞人鏡麻呂爲因幡守、

〔倭名類聚抄五（國郡）〕因幡國（國府在法美郡、行程上十一日、下六日、）

〔因幡民談二〕因幡國郡鄉村里廣狹路程等事

一當國ノ府、古書ニ法美郡ニアリトアリ、今ソノ所ノコヽリ、國府トナヅケテ舊名傳レリ、ソノ所ノ曠平ニシテ、マコトニ昔ノ國衙ノ地トミヘ、國ノ一宮モ此所ニアリ、國分寺ノアトモ近邊ニアリ、在名ヲモ因幡ノ鄉ト云、コノ所ニ町屋ト云村モアリ、是昔ノ官市ノ跡ニテアル歟、丁ト云村アリ、廳ノ字ニテ上古政皇家ヨリ出シ時ノ官ノ廳ノ跡ナル歟、（下略）

〔倭名類聚抄五（國郡）〕因幡國（略）（註）管七（略）（註）巨濃（古乃）法美（波不國府、）八上（夜加）智頭（知）邑美（於不美）高草（多加久佐）氣多

郡

〔延喜式二十（民部）〕因幡國、上、管巨濃（コノ）法美（ハフミ）八上（ヤカミ）智頭（チツ）邑美（オフミ）高草（タカクサ）氣多（ケタ）

〔拾芥抄（中末本朝國郡）〕因幡、上近、七郡、法味（府、）邑美、八束、（○東恐誤）八上、智頭、高草、氣多、或本八郡、巨濃、石井、除二八束一、

〔和漢三才圖會（因幡）七十七〕巨濃　法美（府）　八上　知頭　邑美　高草　氣多

按拾芥抄除二巨濃一加二八束一、或除二八束一加二巨濃石井一爲二八郡一、（今無二巨濃一有二石井八束一爲二八郡一、八郡之東字俗作レ東、）

〔郡名考〕官用ヒル今ノ郡名

因幡　八郡

岩井　法美（ホウミ）　八束（ヤカミ）　八上（ヤカミ）林本濁無　知頭（チツ）　邑美（ヲフミ）　高草（タカクサ）　氣多（ケタ）

〔因幡民談二〕因幡國郡鄉村里廣狹路程等事

一當國郡名古書ニヲイテ明ニコレヲ記シヲケリ、然ルニ今國中ニ言傳ルハ、樣々ニ言チガヘ、文字ヲモ書チガヘ、古書ノ趣ニ違フコトヲホシ、巨濃郡ヲバ今岩井郡ト云、八上ノ一郡ヲ二郡トナシ、八上八束ト云、邑美郡ヲ上美郡ト云、巨濃郡ヲ岩井ト云ハ、郡ノ內本庄河崎邊ヲ岩井ノ庄トミヘタリ、其邊ニ岩井ノ水ト云所モアリ、古キ感狀等ニモ、此邊ノ軍ニ岩井表ノ合戰トアリ、シカレバコノ邊ヲ岩井ト云コト紛ナシ、然ルニ近代イツノ程ニカ此郡ノ總名トシ、終ニ巨濃ノ名ヲバウシナヘリ、ソレニ近キ比ハ郡ノ內殊ニ湯村ヲサシテ岩井トノミ云ヤウニミヘタリ、誤ノ內ノ誤也、八上ヲ分二郡トナスコト昔ノ法トハミヘズ、イツノ比ヨリ分來ト云コト明ニ考ガタシ、郡ノ內新興寺ニツタハル古キ記文ノ內ニ八東川ト云コトアリ、シカレバソノ比ヨリ若櫻口ヲバ八東トハ云トミヘタリ、然ドモ郡ノ名トスルコト古書ニテ未ミズ、上美郡是ハ國民邊鄙ノ語音ニテアフミト云、ソノ語音ヲウケ、文字ニウツシ、如此カキ違ユルトミヘタリ、又拾芥抄ノ說ニ、因幡國八郡、巨濃、石井、除八束（田八千六町）トアリ、和名抄ノ趣ニハ違タル事ヲヽシ、法美ヲ法味トシ、巨濃ヲバ不レ入、八束ヲ加タリ、八束ヲ八束ト書ルコト東字イカナルギ共會通シガタシ、八東トハ八上郡國中ニテ大ナル郡故二ツニ分、一郡ハ本名ヲ用、一郡ハ八上ノ東郡トノギニテ、カク名ルトミヘタリ、シカレバ東字必定東ノ字ノ誤書トミヘタリ、又或本ノ義ヲ擧八郡トシ、巨濃石井ヲ入、八束ヲ除ケリ、巨濃石井ハ一郡ナルヲ、二郡ノ如ク用入タルコト、大ナル差誤也、田ノ數モ和名抄トハ少不同アリ、此拾芥抄說錯亂謬妄信ズルニ足ズ、シカルニ寬文年江都政事府ヨリ當國郡名古代ノ誤ヲ正シ、岩井ヲ石井トシ、上美ヲ邑美トシ、八東ヲ八束トナスベキ由下知セラルルニヨリ國中今是ヲ用ラル、考フルニ拾芥抄ノ說ヲ用ラルヽトミヘタリ、八束ノ字別有二一義一歟、難心得事也、又當國ニテ土民ノ傳說ニ、高草郡昔ハ野方ノ郡ト云ケルニ、圓融院御宇松上神靈天台座主某當國ニ下リ現人神トナリ、松上山ニ栖事々布祟ヲナサレシカバ、郡中ニ栖者ナ

ク、草ノミ生茂ケル故高草郡ト云トイヘリ、サレド圓融以前ノ書ニ高草ノ名記シアレバ、慥ニ附會ノ說トミヘタリ、訛謬用ニタラズ、但此郡ノ鄉名ドモ皆野ノ字ヲツケテ呼べバ、サモアラン カ、〇略下

〔皇國郡名志〕因幡國舊七郡今八郡

法美（ホフミ）●サクラ谷●百谷●山根●上地●上地但界
智頭（チヅ）●駒歸●鷹野　作界
高草（タカクサ）●吉岡●尾崎●毋里　國中ヨリ北海ニ向
加留●
八東（ヤトウ）●福井●安井●若櫻●吉川●德丸●若櫻●吉川
討●落折●德丸但播界
舊有ニ巨濃郡ヽ今省ノ之而加ニ八東岩井二郡ヽ

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕因幡

六國史古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄	諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
巨濃	同	古乃 同 石井	石井知 岩井國元	岩井	同	同	同	同	同
法美	同	波不美	法咏	法美 國知元	同	同	同	同	同
邑美	同	於不美	上美國 邑美知元	邑美	同	同	同	同	同

八上（ヤカミ）●河上●舟岡●德谷町●袋原
●鹿野●水谷　國中ヨリ作伯界ニ至ル
邑美（スウミ）●安國　島取●吉川　國中ヨリ北海ニ向
氣多（ケタ）●田原●シヲホウ●青屋●青屋町
岩井（イハイ）●鹿野●伯界
〈湯町●細川●浦住　但界海ニ向

巨濃郡　石井郡

高草（タカクサ）	氣多（ケタ）	八上（ヤカミ）		高草（タカクサ）	知頭（チヅ）	管七			
同 多加久佐	同	同 波加美		同	同 知豆	同			
同	同	同	八東 刊本脫佐二八東一	同	同	八郡			
高草 竹草	同	同	同	同	同				
高草（タカクサ）	同	同	同	同	知頭（チヅ）				
同	同	同	同	同	智頭				
同	同	同	同	同	同				
同（タカクサ）	同（ケタ）	同（ハツトウ）	同（ヤガミ）	同	同				
同	同	同	同	同	同				

〔因幡誌郡鄉〕巨濃郡今謂石井郡

一當郡ハ一國ノ東ニ屬テ、但馬國二方郡ニ隣レリ、南ハ法美ニ並ンデ、其界ニ十王嶺アリ、是大草鄉雨龍谷ノ境ナリ、其以下宇倍山ノ峯通リヨリ榎嶺ニ至テ、鹽見谷ヲ境ニテ、海濱ハ湯山村ヲ域リテ、西ハ邑美郡ナリ、但馬國ノ界ハ、洗井鳥越ニ牛ケ峯アリ、蒲生ニ蒲生嶺長谷ニ櫓嶺田ノ河内ニ鳥籠尾嶺、陸上ニ嵐嶺等、皆境ノ高山ニテ北ハ大洋ナリ、

〔三代實錄六清和〕貞觀四年七月廿八日乙未、因幡國巨濃郡人中宮大屬正六位上物部門起、貫附右京職、

法美郡

〔因幡誌三郡鄉〕法美郡

一當郡ハ邑美ノ東ニ隣テ、其詰リハ但馬國二方郡ノ界ナル扇ケ山ヲ域トス、南ハ八上八東ニ並テ、北ハ巨濃郡ナリ、

〔續日本後紀十仁明〕嘉祥元年七月甲申、因幡國法美郡无位宇倍神奉授從五位下、即預官社、以國府西有失火、隨風飛至、府舍將燔、國司祈請、登時風輟火滅、靈驗明白也、

〔因幡誌四郡鄉〕八上郡

一凡ソ當郡ハ一國ノ中央ニ在テ、數郡ノ中ニ狹マレタル郡ナリ、

八上郡

〔東大寺要錄八〕勅旨可レ有二封庄章之中一

金光明寺宛食封一千戸略中

因幡國八上郡五十戸略中

奉今月廿一日勅偁、件封宛二金光明寺一、其收停期更待二後勅一者

天平十九年九月廿六日

八東郡

〔續日本紀三十光仁三〕寶龜五年二月壬辰、因幡國八上郡員外少領從八位上國造寶頭賜二姓因幡國造一、

〔因幡誌五郡鄉〕八東郡東西八里南北一里半

一當郡ハ元八上郡ヲ分タル郡ノ名ナリ、故ニ古書ニ載ル處、因幡國七郡ノ内八東ト云フ郡ナシ、八上ハ往昔國中ノ大郡ニテ十二鄉ヲ統タリ、然ルニ中古是ヲ割テ二郡トス、倭名鈔所レ謂八上郡條下ニ、若櫻、丹比、刑部、日理、日下部、私部、土師、大江、散岐、佐井、石田、曳田、以上十二鄉是ナリ、而シテ其東ノ方、若櫻以下私部以上ノ六鄉ヲ八東郡トス、云意ハ八上ノ東郡ト云フ義ナリトゾ、又西ノ方土師以下六鄉ハ、舊ノ名八上郡ト云ヘリ、是何レノ世ノ制度ニテ是ヲ分ケ侍リシニヤ、郡中ノ古刹、新奥寺ノ什物安元三年ノ筆記ニ、八東川ト云フ文出タレバ、其比既ニ二郡タリシト見ユ、

智頭郡

〔因幡誌六郡鄉〕智頭郡

一當郡ハ八東ノ西、八上ノ南ニ在テ、東南ハ美作國ニ隣レリ、其ノ西隅氣多郡ニツヾキテ、國中一二ノ大郡也、然レ共其地山深シテ平地少ナキ故、田租ノ高モ少シ、

〔日本後紀十七平城〕大同三年六月壬申、省因幡國八上郡莫男驛、智頭郡道俣驛馬各二匹、

邑美郡

〔因幡誌七郡鄉〕邑美郡

一當郡ハ巨濃郡南西ニ隣リテ、其界摩尼山ヲ詰リトス、谷筋長ヨリ坤ニ開ケテ、北ハ梵字坂ヲ界トス、其麓ニ覺寺村アリ、海邊ハ濱坂旁爾東濱ヲ域リトス、東南法美郡ノ美和鄉越智谷ヲ域リテ、其以下長砂大路蜘山吉方村アリ、東ハ鳥取鄉小西谷ヲ域リトス、南ハ八上郡ニ接壤テ、其界ニ八坂國安村アリ、西ハ高草郡ニ並ビテ、千代川ヲ界トス、河上ハ國安流下ハ加露ノ港ニ至レリ、凡ソ數郡ニ挾レタル小キ郡ナリ、ザレドモ鳥取山下三方打開ケテ、大半平地ニ屬シ、山川海陸ノ便リ最モヨシ、天正年中以降、鳥取鄉ヲ國ノ本府トスルモ、天然ノ理ナルベシ、

高草郡

〔因幡誌八郡鄉〕高草郡

一當郡ハ邑美郡ト千代川ヲ隔テ西ニアリ、其西ハ氣多郡ニツヾキ、南ハ八上郡ニ隣テ、北ハ加露湊ヲ域トス、郡中平地多キユヘ、田租ノ高モ國中第一ノ郡ナリ、

〔東大寺正倉院文書東南院肆櫃一〕因幡國司牒　郡田者

東大寺三綱務所　墾田券文壹紙　部下高草郡田　者

牒、得寺去三月十四日牒偁、得彼部高草郡國造難磐之妻子解狀云、上件墾田永賣寺家、欲足損物者、三綱依解狀、檢領已訖、仍注事狀便付廻使僧慶淨、以牒、

天平神護元年四月廿八日

大國師法師玄蕤

氣多郡

〔因幡誌九郡鄉〕氣多郡

一當郡ハ高草郡ノ西ニ隻ビテ、伯耆國ノ東ニ隣ヲナセリ、南ニ鷲峯山アリ、其西ノ谷ヲ河内ト云フ、土俗ニ鹿奴河内ト稱スル是ナリ、

〔續續修東大寺正倉院文書四十五帙五〕雜物請用帳

四百八十五斤二兩一分一朱租交易○中略、

二百卌二斤十四兩二分五朱、因幡國氣多郡封、○中略、

六百八十屯○綿封調庸租交易

二百七十八屯因幡國氣多郡調、○中略

百廿六斤因幡國氣多郡租交易、已上寶字三年料

〔倭名類聚抄八因幡國〕巨濃郡　蒲生　大野　宇治　日野　罵城度木　廣田

法美郡　大草於保也　石井　高野　津井都乃井　稻羽伊奈波止利　服部波止利　廣西比呂世

八上郡　若櫻　丹比　刑部　曰理　曰部私部　土師　大江　散岐　佐井　石田　曳田

知頭郡　美成　佐沼　土師　日部　三田

邑美郡　美和　古市　品治　鳥取　邑美

高草郡　神戸　委文之土　味野安知乃　古海布留美　能美　布勢　野坂乃佐加　刑部於無左加倍

氣多郡　大原　坂本　口沼○口沼、高山寺本作日治、勝見　大坂　日置　勝部

〔今昔物語十七〕養二造地藏佛師一活二人語第廿五

今昔、因幡ノ國高草ノ郡野坂ノ鄉ニ一ノ寺有リ、名ヲバ國隆寺ト云フ、

〔郡名一覽〕因幡國　因州　南北二日　八郡　五百三拾五ケ村

高拾七万七百貳拾八石貳斗八升九合

村里名邑　莊

●鳥取　百八十里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要皆私領〕因幡　八郡、五百五十三村、

高十七万七千八百四十四石六斗二升四合

岩井郡五十村　法美郡六十村　八東郡八十八村　八上郡六十村

知頭郡九十八村　邑美郡三十五村　高草郡八十村　氣多郡八十二村

〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名

因幡　智頭郡、用瀨（モヂセ）、樟原（クニキハラ）村、高草郡、古海（フルミ）村、氣多郡、末用（スエモチ）村、河村郡、布河（フツワ）村、田後（タシリ）村、岩井郡、陸上（クガミ）村、

〔安西軍策五〕因州鳥取合戰事

同年二〇年天正九月二十二日、山中鹿助、○略中三千五百餘騎、毛利入道淨意ガ籠タル鳥執ノ城ヘ押寄、

天王ノ尾マデ迫上ル、

〔豐鑑一長濱眞砂〕秀吉○略中其より因幡國にうち越、山名禪高のふまへし鳥取の城をかこまんとし

給ふ、○年天正八天正月

〔東大寺要錄六〕一諸國諸庄田地長德四年注文定

新發田○中略　因幡國　高庭庄田十二町一段百八十六歩

〔石清水文書一〕伏見天皇綸旨

當宮領因幡國宇治庄内、安元久元兩名事、如此事、社家可ニ相計一之由、先々被ニ仰下一候歟、任ニ道理一可ニ令成敗一之旨、天氣所ニ候也一仍執達如ニ件、

永仁元年十二月廿三日　　右大辨俊光

藩封

八幡撿校法印御房

〔明德記下〕滿幸○山ハ因州青屋庄○庄一ト云所ヘ主從二十三騎ニテ著給ヒケルトカヤ、

〔慶應元年武鑑〕松平因幡守慶德（大廊下、從四位上中將文久元酉十一月任）三拾二万五千石（因幡伯耆）領之　居城因州邑美郡鳥取江戸ヨリ海陸百八十里、鳥取ヨリ大坂迄舟路五十里、

田數石高

輝元領、天正九、宮部善祥坊、慶長五、池田三左衛門尉鄕政、同舍弟備中守長吉、同備中守長幸、元和三、松平相模守光仲、以後代々領之、松平朝散大夫柳間主稅　三万石　在所因州新田　江戸ヨリ百八十里

松平内匠頭德風　一万五千石　在所因州新田　江戸ヨリ百六十里○節略

〔倭名類聚抄五國郡〕因幡國○註管七田七千九百十四町八段二百八歩

〔海東諸國記〕因幡州　郡七、水田八千一百二十六町、

出擧稻

〔拾芥抄中末本朝國郡〕因幡（上近）七郡（中略）田八千十六町

〔日本鹿子十一〕因幡國七郡中々國、南北二日、知行高十三万千六百四十石、

國産貢獻

〔官中秘策四〕因幡國　七郡○中略

一石高拾七万貳拾八石餘

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調○中略

因幡國　苫私領　一高拾七万七千八百四拾四石六斗三升四合

〔延喜式二十主稅〕六諸國出擧正稅公廨雜稻○中略

因幡國正稅公廨各卅万束、國分寺料三万束、文殊會料二千束、修理池溝料三万束、救急料四万二千八百七十八束、俘囚料六千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕因幡國○註管七（中略）正公各三十萬束、本穎七十一萬八百七十八束、八百七十一萬八百七十束、雜穎十一萬八百七十八束、

〔延喜式內藏十五諸國年料供進○中略〕交易○六百五十疋（中略）因幡（中略）上野七疋、（中略）因幡（中略）國各五十疋○中略

櫨子（中略）因幡（中略）土佐廿六箇國

人口

各合四

〔延喜式二十三民部〕年料春米○中略　因幡國大炊四百石○中略

年料別納租穀○中略　因幡國二千五百斛○中略

年料別貢雜物○中略　因幡國筆八十管、紙、麻十斤、○中略

諸國貢蘇番次○中略　因幡國十一壺、三口各大一升、小一升、○中略

交易雜物○中略　因幡國絹二百疋、白絹十二疋、席三百五十枚、荒苧廿五合、櫨子四合、飴皮八百廿五斤、醬大豆廿六石、隔二三年一進、醬大豆五石、鹿皮十張、

〔延喜式二十主計〕四因幡○中略　右廿五國、中絲○中略

因幡○中略　右廿九國、輸絹○中略

因幡國行程上十二日、下六日、

調白絹十疋、緋帛卅疋、縹帛黃帛各十疋、橡帛十二疋、皂帛十五疋、帛二百疋、自餘輸絹、庸白木韓櫃八合、自餘輸綿、中男作物紙、席、紅花、胡麻油、黑葛、漆、海石榴油、平栗子、火乾年魚、鮨皮、雜腊海藻、

〔延喜式三十三諸國貢進菓子○中略　因幡國甘葛煎一斗、平栗子五斗、椎子二擔、梨子二擔、柑子干顆、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥○中略

因幡國廿種　前胡、伏苓、續斷、藍漆各二斤、獨活、白朮、當歸各十斤、牛膝二斤四兩、桑梁香、僕奈各一斤、蓳蕷十斤四兩、桑螵蛸十斤四兩、槌子一石、署預四斗、桃人一斗、蜀椒四升、甘葛煎三升、白殭蠶二兩、

〔延喜式三十九內膳〕年料○中略　因幡國稗海藻十二籠、生鮭三捧十二、

〔毛吹草三〕因幡　隻三度山薑一斗五升三度、

蠟　鞘木　木地山木地　海索麪藻也　鯨白干　ツノ字　家奧椙原　引田鼻紙　細川梅

一人數拾貳万五千八拾五人　内六万六千九百九人　男　内六万八千七百七拾六人　女

〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調〇中略　文化元甲子年

皆私領

一人數拾貳万八千六百四拾三人

内六万八千三百貳拾人　男　内六万五千九百拾四人　男

弘化三丙午年　六万三百拾四人　女　六万千八百八拾三人　女

諸國人數調〇中略

皆私領

一人數拾貳万七千七百九拾七人

高拾七万七千九百拾八石餘　因幡國

高拾七万七千八百四拾四石餘　因幡國

風俗

〔人國記〕因幡國

因幡國ノ人上地頭邑美之三郡ハ實ニ而シカモ勇有テ約ヲ不ㇾ變形儀也高草氣多法美巨濃之郡之風儀ハ如形佞ニテ邪智多フ而丹波ノ風俗ニ似タリ武士ハ名利利欲ニカヽハリテ德之ツク方ニ從フ風俗也一國之内ニ如斯風儀之替ル事寔ニ天性自然ノ理トハ云ナガラ氣質之稟ル所之正不正ニ因テ如斯成事可ㇾ見也

名所

〔日本鹿子十一〕同國〇因幡中名所之部

因幡山　美濃國ニ同名あり當國現在稻葉の里といふあり

雜載

〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒〇中略　因幡國五十人

諸國器仗〇中略　因幡國甲三領横刀七口弓廿張征箭廿具胡籙廿具

〔續日本紀二文武〕大寶二年三月壬申因幡伯耆隱岐三國蝗損ㇾ禾稼

古事類苑

地部二十四

伯耆國

名稱

伯耆國ハ、ハウキノクニト云ヒ、舊クハ、ハヽキノクニト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ因幡、西ハ出雲、南ハ備中、備後美作ニ界シ、北ハ海ニ至ル、東西凡ソ十七里、南北凡ソ八里アリ、此國ハ、古ヘ國府ヲ久米郡ニ置キ、河村、久米、八橋ノ三郡ヲ併セテ東伯郡トシ、汗入、會見、日野ノ六郡ヲ管シ、延喜ノ制上國ニ列ス、明治維新ノ後、河村、久米、八橋汗入會見ノ二郡ヲ西伯郡トシ、鳥取縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕伯耆　波々岐

〔運歩色葉集葉〕伯耆　伯州

〔日本風土記一寄語島名〕伯耆　花計

〔倭訓栞中編二十波〕は、き略〇中　伯耆國のかなも同じ、和名抄に見えたり、古事記に冊尊を葬於出雲國與伯耆國堺比婆之山と見えたれば、母君の國也といへり、或伯耆國に川村之郡波々伎神社あり、

〔古事記上神代〕故其所ニ神避之伊邪那美神者、葬出雲國與伯伎國堺比婆之山也、

〔古事記傳五〕伯伎は和名抄に伯耆波々伎神名帳に彼國川村郡に波々伎神社もあり名義ㇾ詳ならず、若(シクハ)箒(ホキ)より出たる由など有にや、或ハ此伊邪那美ノ命の事によりて、母君(ハヽキミ)國なるべしと云るはいかゞ、

位置

〔諸國名義考下〕伯耆　和名抄に伯耆（波々岐、國府在二久米郡一）名義考（得ず、○中略）或書に引る風土記には、手摩乳足摩乳娘稻田姫、八頭之蛇欲呑之、故遁入山中、于時母遲來、姫曰母來云々、故號二母來國一、後改爲二伯耆國一云々ともあり、

〔地勢提要乾〕各國經緯度（附里程）　伯耆湊村橋津、極高三十五度二十九分半、經度西一度五十一分、從東都同上（東海道自二西國街道播州下毛野村歷二下總久村辻堂村知須宿一百二十二里一町四十一間、鳥取歷二倉吉一）

〔日本經緯度實測〕北極出地　伯耆　赤崎村　三五度三〇分三〇秒

東西里差　橋津村　三五度二九分三〇秒　伯耆　米子　西二度二一分〇〇秒

疆域

山城　京　○度○○分○○秒（○中略）

〔名所方角抄〕伯耆國（○略）備中の北也

〔日本地誌提要四十七伯耆〕疆域　東ハ因幡、西ハ出雲、南ハ備後備中美作、北ハ海ニ至ル、東西凡壹拾七里、南北凡八里、

島嶼

〔日本實測錄九島嶼〕伯耆國河村郡　遠測　烏ケ島

地勢

〔易林本節用集下〕伯耆（伯州）上、管六郡、南北二日半、山深土厚、正穀衣帛二輪轉、中々國也、

〔日本地誌提要四十七伯耆〕形勢　大山中央ニ挺立シテ、支脈左右ニ蜿蜒シ、州ノ西北一隅斗出シテ出雲ノ東隅ニ對シ、中海ヲ擁ス、西北平坦、稍沃饒ニ屬ス、

道路

〔日本實測錄四街道〕從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田（○略）街道、通計五十六里一十三丁三十二間、（○中略）

伯耆國河村郡門前村　三里二十八町一十二間（至倉吉田町三里二十四丁二十九間半）久米郡倉吉橫町（至上井村二十七丁一十二間、從上井歷長瀬村至湊村一里三十二丁六間、從湊歷南谷村至東鄉湖傍一十九丁二十四間、從南谷至東鄉湖傍一里六丁一十七間、

町一十五間　岡田村　一十四町一十二間（國府村丁至國分寺五十六間）

八橋郡上伊勢村　一里二十二町二十三里四町三十二間　大山（至大山寺九丁一十五間）三里二十七間　四日市村豐田日野川岸（從伯耆國日野郡板井原宿　一里三十五町三間　根雨宿　二里四町三十九間　二部宿　一里二十四町　溝口村　三里六町二十一間（至馬場村二里三十三間）會見郡四日市村豐田日野川岸　三町四十六間　車尾村日野川岸　二十五町五十一

陰田村　二十七町九間（至國界七丁一十五間）出雲

〔日本實測錄沿海〕從赤間關沿海至鞠山（○本敦賀中略）

伯耆國會見郡米子祇園前（至陰田村一十二間）一

一十町三十四間　霞津村（至和田村徑測一十九町三十七間）

二里一十六町四十七間半　海池村（沿日ノ尾村二十七町）

四里四十五間半（至甲川口二里二町四十七間半）八橋郡赤崎村、三十五度三十分半、五里一十七町三十一間

（至八橋二十七町四十二間半、從八橋至天神川口四里九町六間半）河村郡湊村（又呼二湊村宿一、至湊橋津）濱、三十五度二十九分半、三里二十一町（至國界二里五町五十四間半）因幡國氣多郡蘆崎村

〔延喜式二十八兵部〕諸國驛傳馬（○略）

伯耆國驛馬（笏賀、松奈相見各五疋）、傳馬（河村、久米、汗入、會見各五疋）、

〔日本國郡沿革考三山陰道〕伯耆　古作伯岐（國造紀）上國管六郡、七百五十四村、

河村（百四村）　久米（百十九村古府治）　八橋（百七村錄作二八幡一郡、疑誤、）　汗入（七十四村）　會見（百七十三村伯耆風土記作二相見一）

宿驛

建置沿革

日野百七十七村

〔日本地誌提要伯耆十七〕沿革　古ヘ國府ヲ久米郡ニ置、今ノ國府村ナリ元弘三年、後醍醐天皇隱岐ヨリ本州ニ潛幸ス、州人名和長年、船上山ニ奉迎シ、勤王ノ師ヲ興ス、因テ州守ニ任ジ、守護ニ補ス、延元元年、長年京師ニ戰死シ、嗣顯興職ヲ襲ギ、尋テ征西將軍懷良親王ニ從テ西海ニ赴ク、與國元年、足利尊氏、山名時氏ヲ以テ守護トス、正平中、時氏吉野ニ歸順シテ、丹波、丹後、但馬、因幡、出雲、隱岐六州ヲ併セ、再ビ足利義詮ニ降リ、諸子ヲ分封シ、本州ヲ長子師義ニ與フ、師義卒シテ、其子氏之嗣ギ、河村郡松崎ニ治ス、元中七年、其弟滿幸之ヲ將軍義滿ニ譖シ、擊テ之ヲ走ラス、義滿因テ滿幸ヲ以テ守護トナス、滿幸尋テ誅セラレ、義滿氏之ヲ復封シ、久米郡倉吉ニ居リ、子孫ニ傳フ、七世澄之ニ至リ、國勢日ニ衰ヘ、大永四年、尼子經久ニ滅サル、經久終ニ羽衣石河村郡ノ南條宗勝、岩倉久米ノ小鴨氏等ヲ逐ヒ、全州ヲ併ス、永祿中、毛利元就本州ヲ略定シ、宗勝等ヲ納レ、杉原盛重ヲ泉山ニ置キ、州內ヲ鎭セシム、天正八年、豐臣秀吉西伐シ、宗勝ノ子元續ヲ誘降ス、十年、元就ノ孫輝元、秀吉ト講和シテ、本州及備中ノ半ヲ割テ之ヲ納ル、明年、秀吉元續ヲ清兄弟ニ羽衣石、岩倉二城ヲ分チ與フ、十九年、秀吉本州ノ半ヲ吉川廣家ニ賜フ、關原役畢リ、德川氏、廣家及南條氏ノ封ヲ收メ、中村一忠ヲ全州ニ封ジ、米子城ニ治ス、慶長十四年、一忠卒シ、嗣ナクシテ國除ス、明年、加藤貞泰ヲ米子ニ六石萬關一政ヲ黑坂ニ日野郡五萬石封ズ、元和中、貞泰大洲伊勢ニ轉ジ、一政事ニ坐シテ封除シ、池田光政ニ全州ヲ賜フ、寬永九年、光政備前ニ徙リ、從弟光仲之ニ代リ世襲、王政革新廢シテ鳥取縣ヨリ兼治ス、

〔先代舊事本紀十國造〕伯岐國造

志賀高穴穗朝○成御世、牟邪志國造同祖兄多毛比命兒大八木足尼定ニ賜國造一、

〔續日本紀四元明〕和銅二年十一月甲寅、從五位下金上元爲ニ伯耆守一、

國府　郡

〔續日本紀八元正〕養老三年七月庚子、始置按察使○中略出雲國守從五位下息長眞人臣足管ニ伯耆一右見二國一、

〔太平記十二〕安鎭國家法事附諸大將恩將事

諸軍勢ノ恩賞ハ、暫ク延引スト雖モ、先大功ノ輩ノ抽賞ヲ可レ被レ行トテ、○中略名和伯耆守長年ニ因幡伯耆兩國ヲゾ被レ行ケル、

〔倭名類聚抄五國郡〕伯耆國　國府在ニ久米郡一、行程上十三日、下七日、

〔倭名類聚抄五國郡〕伯耆國○註略　管六○註河村加波無眞久米國府八橋夜志汗入安世利會見安不比乃日野乃

〔延喜式二十民部二〕伯耆國、上、管會見日野○中略久米八橋汗入右爲ニ中國一

〔易林本節用集下〕伯耆、伯州上、管六郡、○中略河村、久米、八幡、汗入、會見、日野、

〔皇國郡名志〕伯耆國六郡

河村●穴鴨●木地山●本泉●長瀨　作因界東海ニ向

八橋●今西●八橋野●赤塚　作界ヨリ海ニ貫

會見●二部●山市場●舟上●雲界●外江　北ノ海ニ出崎

日野●生山町●多里●黒坂●溝口●根尾●坂屋原　作備中後雲ノ四國ニカ、ル

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕伯耆

六國史古書	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	郡名考	天保鄕帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制

河村郡　〔續日本後紀六仁明〕承和四年二月戊戌、伯耆國川村郡无位伯耆神、大山神、國坂神、〇略中並奉レ授二從五位下一、

久米郡　〔三代實錄十八清和〕貞觀十二年十月廿五日癸卯、伯耆國飢疫、死者衆、優復河村、久米、會見、日野四郡百姓一年、

八橋郡　〔續日本後紀十仁明〕承和八年九月甲子、伯耆國八橋郡人陰陽博士正六位下春苑宿禰玉成母曾禰連

會見（アヒミ）	同 安不美	同	同	同	同	同	同	同
日野（ヒノ）	同	同	同	同	同	同	同	同
汗入（アセリ）	同 安世利	同	同	同	同	同	同	同
八橋（ヤハシ）	同 波波恵	同	同	同	同	同	同	同
久米（クメ）	同	同	同	同	同	同	同	同
河村（カハムラ）	同 加波無良	同	同	同	同	同	同	同
管六	同	六郡						

汗入郡　會見郡　日野郡　家主女姉妹男女等一烟改本居貫附右京三條一坊、

〔釋日本紀七述義〕伯耆國風土記曰、相見郡一之家、西北有二餘戸一里、有二粟島一、少日子命蒔レ粟、莠實離々、即載レ粟、彈渡二常世國一、故云二粟島一也、

〔續日本後紀三仁明〕承和元年二月甲申、伯耆國會見郡荒廢田百廿町賜二有智子内親王一、

〔三代實錄五清和〕貞觀三年六月九日壬子、伯耆國八橋、汗入、會見、日野四郡、去年九月遭二水災一、百姓被レ損者多、詔復二優二箇年一、

郷

〔倭名類聚抄八伯耆國〕河村郡　笏賀　舍人　多駄　塡見〇塡、高山寺本作レ埴、　日下苦佐加倍　河村　竹田　三朝

久米郡　八代　立縫〇立、高山寺本作レ楯、　山守〇守、高山寺本作レ寺、　大鴨　小鴨　久米　勝部　神代　下神　上神

八橋郡　方見　由良〇寺、高山寺本作レ見、荒木　古布　八橋也、八筥津

汗入郡　束積　汗入安世利　奈和　尺度　高住　新井

會見郡　日下　細見　美濃　安曇　巨勢　蚊屋　天萬　千太　會見　星川　鴨部　牟生

日野郡　野上　葉倨　神戸　阿太　武庫　日野〇高山寺本、武庫次有二布勢、野坂（乃左加）刑部、大坂、日置、勝部、十五字一、

村里名邑

〔郡名一覽〕一伯耆國　皆私領　伯州　南北二日半　六郡

高拾九万四千四百拾六石五斗六升七合

米子　因州一万五千石　荒尾近江　七百拾ケ村

〇按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〇倉吉　同上一万石　荒尾志摩

〔郡國提要〕伯耆　皆私領　六郡、七百五十四村、

高二十一万七千九百九十石八斗二升二合二勺八才

河村郡百四村　久米郡百十九村　八橋郡百七村　汗入郡七十四村　會見郡百七十三村

日野郡百七十七村

莊

〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名

伯耆　久米郡國府村、下神村、會見郡、車尾村、勝田村、海地村、汗入郡、御來屋村、八橋郡、下甲村、

〔和漢三才圖會七十八〕米子　東至江戸百八十三里、西至出雲松江海上五里餘、南至美作津山二十三里、東至因幡鳥取二十三里、

〔安西軍策四〕尼子勢所々合戰事

隱岐隱岐守清〇爲逆意ヲ企、米子町ヲ燒立レバ、〇略下

〔中村一氏記〕一慶長八年十一月十四日、伯耆國米子ニテ、一學〇中村内儀額直シノトキ、一學十四歲、

〔日本鹿子十一〕伯耆國

米子之城　江戸ヨリ百八十三里　當國者往古毛利氏領之　城主之次第　加藤左近大夫貞泰　元和三年伊豫大洲ヱ所かへ　松平新太郎光政　寛永九年　松平相模守光仲　因州鳥取ヱ所かへ　當城主　同伯耆守綱清　綱清家臣預之　荒尾但馬

〔賀茂注進雜記神下領〕同〇壽永三年〇元暦元年四月廿四日壬辰、賀茂社領四十二ヶ所、任院廳御下文、可レ止武家狼藉之由、有其沙汰云々、

下諸國　可早任院廳御下文、停止方々狼藉、備進神事用途、賀茂別雷社御領庄園事、〇略中

伯耆國　星河庄　稻〇積庄〇略中

壽永三年四月廿四日

〔吾妻鏡十〕文治六年〇建久元年十一月六日丙辰、今日騎馬勇士在門前無禮也、〇略中　義盛〇和田　郎從等搦取之、問子細之處、大舍人允藤原泰頼也、承鎌倉殿御上洛事、爲御迎參向、且爲愁申伯耆國長〇田庄得替事也、全不知御旅館之由陳謝之、

〔吾妻鏡十八〕元久二年九月十九日壬寅、以伯耆國宇〇多河庄地頭職、被施入大原來迎院云々、廣元朝臣奉行之、

田數石高

出舉稻

國產貢獻

〔梅松論上〕去程に御座船は、伯耆國奈〇和庄野津郷と云所に著給ふ、

〔倭名類聚抄五國郡〕伯耆國〇註略　管六田八千百六十一町十段八十八歩

〔伊呂波字類抄波國郡〕伯耆國管六、中略本田八千六百六十歩

〔海東諸國記〕伯耆州　郡六、水田八千八百三十町、

〔拾芥抄中末本朝國郡〕伯耆上六郡、中略田八千八百四十二町

〔和漢三才圖會七十八伯耆〕六郡　十三万千六百四十九石、

〔日本鹿子十一〕伯耆國六郡中々國、南北二日半、知行高十七万五千三十石、

〔官中秘策四〕伯耆國　六郡〇中略

一石高拾九万四千四百拾六石餘

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調〇略中

伯耆國苔私領　一高貳拾壹万七千九百九拾石八斗貳升貳合貳勺

〔延喜式二十主税六〕諸國出舉正税公廨雜稻〇略中

伯耆國正税公廨各廿五万束、國分寺料三万束、藥分料一万束文殊會料二千束、修理池溝料二万束、救急料八万束、俘囚料一万三千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕伯耆國〇略註　管六中略本稻六十七萬二千束、雜稻十七萬二千束、

〔延喜式十五内藏寮〕諸國年料供進〇略中　櫨子中略伯耆中略土佐國各四合

〔延喜式二十三民部〕年料別納租穀〇略中　伯耆國四千六百卅斛〇中略

年料別貢雜物〇略中　伯耆國筆八十管、紙十管、麻七十斤、〇中略

諸國貢〻蘇番次〇略中　伯耆國十一壺三口各大一升、小一升、〇中略

〔延喜式二十主計四〕伯耆〇略中　右廿五國、中絲、〇略中　右十箇國爲第四番辰戌年

伯耆〇略中　右廿九國、輸絹〇略中

伯耆國行程上十三日、下七日、

調白絹十疋、絁帛縹帛各廿五疋、橡帛十二疋三丈、皂帛廿疋、帛二百六十疋、自餘輸絹綿鍬鐵、庸、白木韓櫃九合、自餘輸綿鍬、中男作物、紙、紅花席、椎子、鮧皮、煮乾年魚雜腊、

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥〇略中

伯耆國廿種　獨活十二斤、藍漆四斤、牛膝五斤、白朮十斤、昌蒲、桑根、白皮各一斤、薺苨三斤、杜仲、伏苓、紫菀各二斤、石斛廿四斤、松蘿一斤、升麻九斤、椹子二石六斗、署預九升、吳茱萸三斗九升、蜀椒九升、桃人七升、百合一斗一升、

〔延喜式三十九内膳〕年料〇略中　伯耆國糀海藻一擔、滑藻根一擔十籠、

〔毛吹草三〕伯耆

鐵　熊膽　大山黒皮茸

〔和漢三才圖會七十伯耆〕土產　鐵　鋼　熊膽　革茸出於大山　鮑熨斗出於米子

〔官中秘策四〕伯耆國　六郡〇略中

一人數拾四万七百拾九人　内壹(壹恐七誤)万六万五千三百五拾七人　男　女

〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調　文化元甲子年

一人數拾六万九千五百七拾人　皆私領

内九万四百四拾貳人　男
七万九千百貳拾八人　女

弘化三丙午年諸國人數調〇略中

一人數拾七万七千四百貳拾八人　皆私領

内九万千七百四拾貳人　男
八万五千六百七拾八人　女

高拾九万四千四百拾六石餘　伯耆國

高貳拾壹万七千九百九拾石餘　伯耆國

風俗

〔人國記〕伯耆國

伯耆國之風俗、都而半實半虛ト可ㇾ知也、三日善ヲ勤メテ三日惡ヲ習ノ風儀也、譬バ貴キ人ニ交ルトキハ、其氣忽然ト而實ニ從、亦其人ヲ離レテ三日不ㇾ親則ハ、本性ニ還而惡心ヲ發而、心之趣ク所ニ從テ、不道ナリト知リナガラ、而モ行ヒ不義ト見テモ是ニ與シ、一生迷闇ノ地ニ有テ、定ル心終ニ無之風俗也、サレバ今世下劣ノ言葉ニ、物之執行ニ進テ怠リ安キ者ヲ三日ソウト云事、是國ノ風儀ヨリ始ト也、知テ不勤而怠ルハ、大ニ勇氣ノ不足スルトコロナリ、

雜載

〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒〇略中　伯耆國五十人〇略中

諸國器仗〇略中　伯耆國甲四領、横刀十口、弓廿張、征箭廿具、胡籙廿具、

〔日本鹿子十二〕同國〇伯耆　中名所なしと名寄に見えたり、撿見すべしといへり、名所なきにや、

名稱

出雲國

出雲國ハ、イヅモノクニト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ伯耆、西ハ石見、南ハ備後ニ界シ、北ハ海ニ至ル、東西凡ソ十七里、南北凡ソ十五里、此國ハ古ヘ國府ヲ意宇郡ニ置キ、意宇(オウノギシマネアイカ)、能義(ヨシ)、島根(シマネ)、秋鹿(アイカ)、楯縫(タテヌヒ)、出雲(イヅモ)、神門(カムト)、飯石(イヒシ)、仁多(ニタ)、大原(オホハラ)ノ十郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、明治維新ノ後、意宇、島根、秋鹿ノ三郡ヲ合セテ八束郡ト爲シ、楯縫、出雲、神門ノ三郡ヲ合セテ簸川郡ト爲シ、新ニ松江市ヲ設ケ、島根縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕出雲以豆毛

〔日本風土記一寄語島名〕出雲因字木

〔易林本節用集下〕出雲(ウン)州　上、管十郡、東西二日半、樹木瓜蔵相交、野菜土產多、鐵、農器絹布多、大上國也、

〔倭訓栞前編三伊〕いづも　國名の出雲は、いづくもを約ればづなり、素盞嗚尊の出雲八重垣の神詠に起れり、その事出雲風土記に見えたり、

〔出雲風土記上〕所以號出雲者、八束水臣津野命詔、八雲立詔之故云八雲立出雲、

〔古事記上〕茲大神初作須賀宮之時、自其地雲立騰爾作御歌、其歌曰、夜久毛多都、伊豆毛夜幣賀岐、都麻碁微爾、夜幣賀岐都久流、曾能夜幣賀岐袁、

〔古事記傳九〕伊豆毛は出雲にて、伊傳久毛の傳久を約て、豆となれるなり、○中略さて此御歌詞より起りて、國名を出雲と負り、さるから八雲立と云言も、其枕詞となれるなり、風土記に、所以號出雲者、八束水臣津野命詔、八雲立詔之故、云八雲立出雲、また八束水臣津野命は、此の御歌詞に因て、後に詔へるなり、須佐之男命の、八雲立出雲とよみ賜へる此國はと云意なり、よく〳〵文義をさて臣津野命の如此詔へるによりて、遂に國名にはなれるなり、臣津野命は、須佐之男命の四世の御孫にて、次に出たりさて諸國の例に依に、郷名を取て郡名とし、郡名なる國名なるが多ければ、此國も、出雲郡出雲郷あれば、始は此郷より出たる國名なるべし、其郡は彼臣津野命の、八雲立出雲國者と詔へる、廣く一國を指てなれども、然詔へりしは、出雲郡出雲郷のあたりにての事なりし故に、先其處の名に負るが、後に大名にもなれるなり、

位置

〔地勢提要乾次本町〕各國經緯度附里程

出雲松江極高三十五度二十七分半、經度西二度四十分、從東都同上自下手野村歷津山二百二十二里一十二町四十間、

出雲三穗關極高三十五度三十三分半、經度西二度二十五分、自東都同上自下手野村歷津山至松江沿海二百三十四里三十二町三十二間

〔日本經緯度實測〕北極出地

出雲　杵築　三五度二三分三〇秒

東西里差

松江　三五度二七分三〇秒

疆域

山城　京　○度○○分○○秒○中略

〔出雲風土記解上〕東は伯耆國堺手間剗を道のくちとし、西は石見國堺多枳々山の剗を道の後とす、○中略南は飯石郡來島鄉赤穴村を限、西南の通路備後國三次郡横谷村へ通、

〔日本地誌提要四十出雲八〕疆域　東ハ伯耆西ハ石見、南ハ備後、北ハ海ニ至ル、東西凡壹拾七里餘、南北凡壹拾五里、

島嶼

〔日本實測錄九島嶼〕出雲國神門郡　實測　權現島、周廻六町五十間、遠測　赤島　黒島日御崎　友島　經ケ島　平島　黒島鷺浦　柏島　鶴島

出雲　松江　西二度三九分三七秒

島根郡　實測　桂島、周廻一十三町五十九間、久島、周廻三町四十九間、築島、周廻二十六町、沖ノヲト島、從三法田岬至三北岬一四町二十四間、辨天島、周廻四町三十間、遠測　小島　猿渡島　烏帽子島　大蘆　辨天島大蘆　馬島　カヤ島　烏帽子島加賀浦　黒島野波浦　矢島　二ツ島　ハテ島　黒島千酌浦　辨天島千酌浦　白髪島七類浦　黒髪島　ハチス島　中島　黒島七類浦　立石島　ハ島　赤島　地ノイチメ島　沖ノイチメ島　高バ島　ワク　ワウ島　辨天島雲津浦　青島　ヒシヤコ島　竹島　黒島雲津浦　沖御前　地御前　辨天島　三保　鯨島　入道クリ　野島　鷲島島　烏帽子島新庄村　辨天島朝酌村

意宇郡　實測　大島、周廻五町五十一間、大根島、周廻二里三十町三十一間、江島、周廻二十一町一十六間、遠測　カンドリ島　續島　辨天島羽根尾　渡島　辨天島小曾井　長島　馬島　能義郡　遠測　龜島　マナイタ島　松島　カヤ島　佛岩

〔出雲風土記意宇郡〕來島有三椎、松、多年木、小竹、眞前木葛一、砥神島周三里一百八十歩、高六十丈、有三椎、松、菜、薺、頭蒿、蔀、波師太等草木一也、

加茂島（既磯）　子島（既磯）　羽島（有二椿、比佐木、多年木、巖、薺頭、蒿一）　鹽楯島（有二蠔螺子一）

○按ズルニ、本書此外ニ各郡所屬ノ島嶼ヲ揭ゲタレドモ、今之ヲ省ク、

〔懷橘談下〕十六島、此島を俗うつぶるひ島と云、十六善神影向の地なりとぞ、水底に氣味よろしき海草あり、三瓶山に雪ふり、此浦へ陰うつろふ時に、此海苔をとれば宜しと語る、世に是をうつぶるひのりといふ、古記に北海の雜物を注すといへど、十六島と云のりなし、此郡の海に在所の雜物は、海草、海松、紫菜、凝海菜とあれば紫菜の類にや、予（○黑澤右衞門）按ずるに、かの海底の海苔を取て、露打ふるひ〳〵日に乾しければ、うちふるひのりといふをだみたる聲にて、うつふるひといひ、十六善神島海苔と文字に書ては、詞長々しき故に、善神を略して、かの俗言のうつふるひといふを、その儘文字によみならはしたりとみえたりと、いへば人みな點頭しぬ、

地勢

〔出雲風土記〕國之大體首震尾坤、東南山、西北屬海、東西一百卅七里一十九歩、南北一百八十三里一百九十三歩（○此下恐脫二有字一缺二一字一）七十三里卅二歩

〔日本地誌提要（四十八出雲）〕形勢　山嶺疊層、南方ニ亘リ、山陽ト背脊ヲ分チ、西石見ニ連ル、北方地勢狹長横出シ、東伯耆ニ對シテ海ヲ抱キ、西方湖ヲ挾ミ、松江、湖海ノ中間ニアリ、市廛鱗次湖山映帶、山陰第一ノ勝地タリ、

道路

〔出雲風土記〕自國東堺至西廿里一百八十歩、至野城橋長卅丈七尺廣二丈六尺（飯梨川）又西廿一里、至國廳意宇郡家北十家街、即分爲二道一、（正西道、枉北道、）

枉北道、去北四里二百八十歩、至郡北堺朝酌渡（渡船一、）渡八十歩、又北一十里一百卅歩、至島根郡家、自郡家去北一十七里一百八十歩、至隱岐渡千酌驛家（渡船）又自郡家西一十五里八十歩、至郡西堺佐太橋（長三丈、廣一丈、佐太川）又西方八里三百歩、至夜（○夜恐衍）秋鹿郡家、又自郡家西方一十五里一百歩、至郡西堺、又西方八里二百六十四歩、至楯縫郡家、又自郡家西方七里一百六十歩、至郡西堺、又西方一十里二百廿歩、出雲郡家東邊、即入正西道也、總枉北道程九十九里一百一十歩之中、隱岐道、一十七里一百八十歩、

正西道、自十字街西一十二里、至野代橋、長六丈、廣一丈五尺（野代川）又西七里、至玉作街、即分爲二道、一（正西道、一正南道、）

正南道、一十四里二百一十歩、至郡南西堺、又南廿三里八十五歩、至大原郡家、即分爲二道、一（南西道、一南東道、）

南西道、五十七歩、至斐伊川（渡廿五歩、渡船一、）又南正廿九里一百八十歩、至飯石郡家、又自郡家南八十里、至國南西堺（通二備後國三次郡一）總去國程一百六十六里二百五十七歩也、

東南道自郡家去廿三里一百八十二歩、至郡東南堺仁多郡比比理村（○仁以下七字、據二出雲風土記一補一訂正）又東南一十六里二百四十六歩、至仁多郡家比比理村（○比比理村四字恐衍）分爲二道、一道東方卅八里一百廿一歩、至仁多郡家（○仁多郡家四字恐衍）國東南堺（通二伯耆國日野郡一、○國東南一字、據二訂正本一補）又一道南方卅八里一百廿一歩、備後國堺至遊記山、

正西道自玉作街西九里、至來待橋（長八丈、廣一丈三尺、來待川）又西廿三里卅四歩、至出雲郡家、又自郡家西二里六十歩、至郡西堺出雲河（渡五十歩、渡船一、）又西七里廿五歩、至神門郡家、即有河（渡廿五歩、渡船一、）自郡家西三十三里、至國西堺（通二石見國安農郡一）總者（○者當作レ去）國程一百六里卅四歩、

自東堺去西廿里一百八十歩、至野城驛、又西廿一里、至黑田驛、即分爲二道、一（正西道、一渡二隱岐國一道也、）渡二隱岐道一、去北卅四里一百三十歩、至隱岐渡千酌驛、又正西道卅八里、至宍道驛、又西廿六里二百廿九歩、至狹結驛、又西一十九里、至多岐驛、又西一十四里、至國西堺、

〔日本實測錄（四街道）〕從播磨國手野歷津山及米子（至二黑鳥村一三丁五十六間）至松江（○中略）

出雲國能義郡門生（カドフ）村　一里二十町三十二間（至二野外村一三丁五十一間）　安來東町、三十五度二十五分、五

町五十七間　安來村　二里一町四十一間　意宇郡意東村（又呼二意東町一）下分（至二筑陽神社一五丁二

十一間　一十九町五十七間　椙屋町　一里一町四十八間　八幡村　二十八町三十三間　津田村東分（至二郷日神社一六丁）　二十六町二十一間　松江白潟立町　四町五十九間半　同白潟才賀町　八町五十四間（至二天神橋一二丁九間）　一町三十二間半　島根郡松江末次本町　一町九間　同御子町　三十五度二十七分半、（從二手野一至二松江一）街道、通計五十四里一十二町五十九間、〇中略

從二出雲國門生一歷二廣瀨一至二松江一

出雲國能義郡門生村　一十五町六間　同坪坂（至二清水寺一一丁一十二間）　二十三町三十六間　野外（ノト）村（至二安田村一二十丁四十二間、從二北安田一至二母里八軒小路一二十五丁一十八間、又從二北安田一至二田面神社一九丁五十間、）　二里二十二町二間（至二石原村一二里三十七間、）　六町三間　同清水町（至二勝日神社一四丁三十三間、）　二里三十一町三十間　意宇郡熊野村（至二熊野村宿一十四間、）　三十五度二十二分（從二宿所一至二熊野權現下宮一、）　九町九間　大草村（至二山代村一二十四丁三間、）　大庭村（至二神魂神社一七丁一十五丁五十七間、）　日吉村（至二山代村一古志原一二十四間、）　松江白潟立町　四町一十八間　（從二古志原一至二松江白潟一二十四丁一十二間、）　松江白潟立町　四町五十九間半　同白潟才賀町　八町五十四間（至二天神橋一二丁九間）　一町三十二間半　島根郡松江末次本町　一町九間　同御子町　三十五度二十七分半、（從二手野一至二松江一）街道、通計五十四里一十二町五十九間、〇中略

從二出雲國門生一歷二廣瀨一至二松江一

出雲國能義郡門生村　一十五町六間　同坪坂（至二清水寺一一丁一十二間）　二十三町三十六間　野外（ノト）村（至二安田村一二十丁四十二間、從二北安田一至二母里八軒小路一二十五丁一十八間、又從二北安田一至二田面神社一九丁五十間、）　二里二十二町二間（至二石原村一二里三十七間、）　六町三間　同清水町（至二勝日神社一四丁三十三間、）　二里三十一町三十間　意宇郡熊野村（至二熊野村宿一十四間、）　三十五度二十二分（從二宿所一至二熊野權現下宮一、）　九町九間　大草村（至二山代村一二十四丁三間、）　大庭村（至二神魂神社一七丁一十五丁五十七間、）　日吉村（至二山代村一古志原一二十四間、）　松江白潟立町　四町一十八間　（從二古志原一至二松江白潟一二十四丁一十二間、）　松江白潟立町　四町五十九間半　同白潟才賀町　八町五十四間（至二天神橋一二丁九間）　一町三十二間半　島根郡松江末次本町　一町九間　同御子町　三十五度二十七分半、（從二手野一至二松江一）街道、通計五十四里一十二町五十九間、〇中略

從二出雲國松江一歷二鰐淵寺及枠築一至二今市一

出雲國島根郡松江末次本町　三十三町三十五間半　濱佐田村　四里二間半　楯縫郡園村　一里一十一町一間半　平田村（至二島田一里一丁七間、）　三十五度二十六分（至二今市一）　一里一十六町三十九間　楯縫郡鰐淵寺（ワニブチ）　三十五度二十五分、　一里一十一町三十六間　神門郡遙堪（トホカ）村（至二石塚村一二十一丁五十七間、又至二遙堪村一一十一丁三十三間半、）　一里一十四町四十七間半　入南村（至二遙堪村一阿須伎神社一十一丁一十八間、）　二十八町三十九間　神門郡遙堪村　一十四町四十七間半　入南村（至二遙堪村

松郡至江街道通計七十一里一十二町五十六間、

〔太平記十三〕龍馬進奏事

其比佐々木盬冶判官高貞ガ許ヨリ、龍馬也トテ月毛ナル馬ノ三寸計ナルヲ引進ス、○中略今朝ノ卯刻ニ出雲ノ富田ヲ立テ、西刻ノ始ニ京著ス、其道已ニ七十六里、鞍ノ上閑ニシテ、徒ニ坐セルガ如シ、然共旋風面ヲ撲ニ不堪トゾ奏シケル、

〔日本實測錄一海〕從赤間關沿海至鞠山○本敦賀略中

出雲國神門郡板津村板津濱　一十町四十八間　板津村至佐志武神社五町二十四間　五町　同小川口沿川至街

道一十二町　二里一十二町四十二間　杵築宮内村濱至杵築大土地町三町五十一間　一十四町四十五間半　同

雲見山至宇龍浦徑測一里一十七町三間半　一里一十五町　宇龍浦徑測一里一十七町四十間　至宇龍浦一十四町四十七間半　鷲浦　二里二十六町四十九間　楯縫郡十六島浦御經島岬　三里八町一間半　小伊津浦　二里七町一十八間　秋鹿郡魚瀨鎌田浦三十五度三十分半、一里二十三町四十七間　江角浦沿佐田川至濱佐田村二里五町五十六間　二里二十四町五十七間　島根郡水浦　二里二十三町三十五間　加賀浦濱至加賀浦宿四町一間　三十五度卅三分半、二里一十四町一十七間半

野波浦至瀨崎徑測二町三十三間一十　多古津至沖泊徑測六町八間半　四里一町五十四間歷沖泊岬至沖泊、二十九町三十一間　一里二十二町

北浦至手角村徑測三十二町一間　一町一十間半　同稻積至東

片江浦至坂谷濱徑測五町四十四間　二里三十三町四十七

津至七類浦徑測八町九間　六町四十七間　同猿渡　二十六町三十九

一十四町三十二間半　七類浦三十五度三十四分、

二里二十二町至雲津浦一十二町二十五間半　三保關佐井

一里八町三十二間至地藏岬二十四町二十間　三保關三十

三度

宿驛

五度三十三分半、五里二十二町五十八間、

七間至手角村一十九町四十六間　大海崎村　二里二十

二間、又從西川津沿川至津田村三十二町六間半、　一十四町一十二

松江末次本町　一里一十九町一十四間半至八

意宇郡山代村矢田、三里一十三町二十九間

半　能義郡荒島村　二里一十六町五十二

十五町四十六間、從東濱至畑六町二十二間、　黒

九間、從畑至永代山一十町二十一間、　黒鳥村至東濱徑測

十三町八間半、從東濱至アイロ岬三十二町一十三間、　二里二十三町四十八間歷長尾岬至東濱二

門生村　一里四町五十三間半至國界二十三町四十九間

祇園前

〔延喜式二十八兵部〕諸國驛傳馬○略中

出雲國驛馬野城、黒田、宍道、狹結、多伎、千酌各五疋、

〔出雲風土記意宇郡〕野城驛郡家正東二十里八十步、依野城大神坐、故云野城、

黒田驛郡家同所、今郡家西北二里有黒田村、土體色黒、故云黒田驛、此驛即號曰黒田、舊屬郡家東、今猶追舊黒田號耳、

宍道驛郡家正西卅口里、說名如鄉、

〔出雲風土記島根郡〕千酌驛郡家東北一十九里一百八十步、伊佐奈枳命御子、都久豆美命此處坐、○坐一本作生、然則可謂都久豆美、而今人猶千酌號耳、

〔出雲風土記神門郡〕狹結驛郡家同所、吉志國佐與布云人來居之、故云最邑也、神龍三年、改狹結也、其所以來居者、說如古志鄉、

多岐驛郡家西南一十九里、說名改字如多伎鄉也、

〔東大寺正倉院文書三十三〕出雲國大稅賑給歷名帳（續目裏書）出雲國天平十一年大稅賑給歷名帳大初位下守目大藏伊美吉神主

建置沿革

狹結驛　多伎驛○節略

〔日本國郡沿革考三山陰道〕出雲　上國管十郡、五百四村、

島根五十一村出雲小縁起云、島根山國、後分二島根、楯縫、秋鹿、三郡一、　秋鹿二十村　楯縫二十三村　出雲十九村　神門八十五村　飯石六十一村　仁多七十二村　大原五十八村　能義七十七村　意宇三十八村齊明紀作二於友一、萬葉集飫海、卽是、古府治、御國高調帳作二意多一、疑寫誤、

〔日本地誌提要四十出雲八〕沿革　古へ國府ヲ意宇郡ニ置、今ノ下出雲郷ノ内ノ町　建久中、源頼朝、佐々木義清ヲ以テ守護トシ、子孫職ヲ襲ギ、世神門郡鹽冶郷ニ居ル、其孫頼泰始テ鹽冶氏ト稱ス、建武中興、頼泰ノ孫高貞、守護ヲ襲グ故ノ如シ、後叛シテ足利尊氏ニ屬ス、延元三年、讒ニ罹テ自殺シ鹽冶氏亡ブ、義清ヨリ五世尊氏、佐々木高氏ヲシテ守護ヲ兼シム、正平中、山名時氏、高氏ニ憾アリ、終ニ其地ヲ掠奪シテ吉野ニ歸順シ、復畔テ足利義詮ニ降リ、因テ守護ヲ領シ、傳ヘテ孫滿幸ニ至リ、元中ノ末、罪アリテ守護ヲ奪ハレ、尋テ誅死ス、將軍義滿、再ビ高氏ノ孫高詮ヲシテ之ヲ兼領セシメ、孫持清ニ至リ、從父尼子持久ヲ守護代トナシ、富田能義郡廣瀬ノ南ニ城址アリ一ニ鎭セシム、其孫經久ニ至リ職ヲ罷メ、鹽冶掃部之ニ代ル、文明十七年、經久兵ヲ擧ゲ、鹽冶ヲ逐テ富田ニ據リ、自立シテ守護ト稱シ、終ニ伯耆隱岐ヲ併セ、石見、備中、備後、安藝ヲ蠶食ス、孫晴久、毛利元就ト石見ヲ爭ヒ、兵連テ解ケズ、永祿三年、元就大擧シテ富田ヲ攻ム、五年、晴久卒シテ子義久嗣ギ、僅ニ富田一城ヲ保ツ、九年、義久出テ降リ、尼子氏亡ビ、三世凡八年、其地皆毛利氏ニ歸ス、天正十九年、豐臣氏、元就ノ孫輝元ニ命ジテ半州ヲ割キ、吉川廣家ニ與ヘ、富田城ニ居ル、關原役畢リ、德川氏本州ヲ削奪シ、廣家徙テ岩國ニ居ル　堀尾吉晴ヲ封ジ、松江ニ治ス、島根郡白潟ヲ改稱ス、寛永十一年、孫忠晴卒シ、子ナクシテ國除ク、明年、京極忠高代リテ封ゼラレ、十四年、亦嗣ナクシテ封絕エ、十五年、松平直政ヲ封ジ、世襲其支封ヲ廣瀨直政第二母里直政第三トナス、凡三藩、王政革新改テ縣トナシ、尋テ合併シ、島根縣ヲ更置ス、

國府　郡

〔先代舊事本紀十國造〕出雲國造

瑞籬朝○神崇　以二天穗日命十一世孫宇迦都久怒一定賜國造、

〔續日本紀四元明〕和銅元年三月丙午、正五位下忌部宿禰子首爲二出雲守一、

〔倭名類聚抄五國郡〕出雲國　國府在二意宇郡一、行程上十五日、下九日、

〔倭名類聚抄五國郡〕出雲國○略註管十○略註意宇　於宇能義乃木島根之禰秋鹿安伊加楯縫多天奴比出雲　神門加無飯石伊比以之仁多以多大原於保良

〔延喜式二十民部二〕出雲國、上、管意宇ウ能義ノ島根シマネ秋鹿アイカ神門カンド飯石イヒシ仁多ニンタ楯縫タテヌヒ大原オホハラ　右爲中國一

〔易林本節用集下〕出雲雲州　上、管十郡、○略中　意宇府、能美、島根、秋鹿、楯縫、出雲、神門、飯石、仁多、大原、

〔出雲風土記〕玖郡郷陸拾壹、里一百七十九○中略

意宇郡郷壹拾壹、里三　餘戸壹、驛家壹、

秋鹿郡郷肆、里一十二　神戸壹、里一

出雲郡郷捌、里廿三　神戸壹、里二

飯石郡郷肆、里一十九

大原郡郷捌、里廿四

島根郡郷捌、里廿五　餘戸壹、驛家壹、

楯縫郡郷肆、里一十二　餘戸壹、神戸壹、里一

神門郡郷捌、里廿二　餘戸壹、驛家貳、神戸壹、里一

仁多郡郷肆、里一十二　神戸參、里六

〔出雲風土記解上意宇郡〕此記は九郡なるを、後に能義郡を置て、延喜式以後は十郡也、

〔皇國郡名志〕出雲國十郡

意宇ウ　●三日市　〈湯町　●伊非川　湖水ヨリ入江ニ屬ス

島根シマネ　松江　●雲津　●三保關東北ノ出崎

楯縫タテヌヒ　●平田　●十六島

能義ノキ　〈廣瀨　〈母里　八杉　伯界

秋鹿アイカ　●鹽津　●佐田　北海ト湖ノ間楯縫ニ並小郡

出雲　●杵築　△大社　●素娥　△弁慶古跡鰐淵寺　●宇龍　△日御崎社　西北海ニ出張ル

右ニ並郡

神門（カント）〈妙見 ●山口 ●今市 ●奥田儀 石界 小郡
仁多（ニイタ）●堅田 ●簸川上 ●長谷原 備後界
飯石（イヒシ）●大津 〈都賀 ●上熊谷 ●赤穴 備後石界
大原（オホハラ）●諏訪 國中小郡

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕出雲

六國史	古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄	諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
淤宇（紀）										
飫宇（万）										
意宇（オウ）	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	同（於宇）	同（於宇）	同	同 國知元	同	同	同	同	同
能義（ノキ）	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	同（乃木）	同	能義（ノギ） 知元 能儀 國	能義（ノギ） 知元 能儀 國	能義（ノギ）	同	同	同	同
島根（シマネ）	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	同（之天須禰）	同	同 國知元	同 國知元	同（シマネ）	同	同	同（シマネ）	同（シマネ）
秋鹿（アイカ）	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	同（安伊加）	同	同 國知元	同 國知元	同（アイカ）	同	同	同（アイカ）	同（アイカ）
楯縫（タテヌヒ）	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	同（多天奴比）	同	同 國知元	同 國知元	同（タテヌイ）	同	同	同（タテヌヒ）	同（タテヌヒ）
出雲（イヅモ）	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	同	同	出雲 知元 出東 國	出雲 知元	出雲（シュツトウ）	同	同	同（シツトウ イヅモ）	同

意宇郡

〔出雲風土記〕意宇郡

所以號意宇者國引坐八束水臣津野命詔八雲立出雲國者狹布之稚國在哉初國小所作故將作縫詔而栲衾志羅紀乃三埼矣國之餘ニ有耶見者國之餘有詔而童女胸鉏所取而大魚之支太衝別而三自之綱打挂而霜黑葛闇〇闇原作レ門據ニ一本一改下同ニ耶ニ爾河船之毛ニ曾ニ呂ニ爾國ニ來ニ引來縫國者自去豆乃打絕而八穗米〇米恐誤ニ爾支豆支乃御埼也此而堅立加志者石見國與ニ出雲國之堺有名佐比賣山是也亦持引綱者薗之長濱是也亦北門佐伎之國矣國之餘有耶見者國之餘有詔而童女胸鉏所取而大魚之支太衝別而波多須ニ支穗振別而三自之綱打挂而霜黑葛闇ニ耶ニ爾河船之毛ニ曾ニ呂ニ爾國ニ來ニ引來縫國者自ニ多久乃打絕而狹田之國是也亦北門良波乃國矣國之餘有耶見者國之餘有詔而童女胸鉏所取而大魚之支太衝別而波多須ニ支穗振別

大原（オホハラ）	同	同（於保波良）	同	同	同	同	同	同	同	同
仁多（ニタ）	同	同（爾以多）	同	仁多 知元 仁田 國	同 知元	同	同	同	同	同
飯石（イヒシ）	同	同（伊比之）	同	同 知元國	同 知元國	同（イヒシ）	同	同	同	同
神門（カムト）	同	同（加無止）	同	同 知元國	同 知元國	同（カンド）	同	同	同（カンド）	同（カンド）
神戸（紀）										

而、三自之網打挂而、霜黒葛闇ニ耶ニ爾河船之毛ニ曾ニ呂ニ爾國ニ來ニ引來縫國者、自ニ手波○波恐衍縫之打絕ニ而、闇見之國是也、亦高志之都ニ之三埼矣、國之餘有耶見者、國之餘有詔而、童女胷鉏所取而、大魚之支太衝別而、波多須ニ支穗振別而、三自之網打挂而、霜黒葛闇ニ耶ニ爾河船之毛ニ曾ニ呂ニ爾國來ニ引來縫國者、夜見島是也固堅立加志者、有ニ伯耆國大神岳是也、今者國引訖詔而、意宇杜爾御杖衝立ニ而、意惠登詔、故ニ云ニ意宇ニ〔所謂意宇杜者、郡家東北邊田中在是也、圖八步許、其上有ニ木以茂ニ、〕

〔出雲風土記要抄一意宇郡〕按、意宇郡乃出雲村、今爲ニ魚梁之處是也、志羅記之三埼、又高志之都ニ三埼蓋島根郡三保埼也、去豆乃打絕、楯縫郡今古津浦也、八穗米支豆支乃御埼、大社邊也、雲石兩國堺佐比賣山、今三瓶山是也、薗長濱、神門郡今國村海濱也、今有ニ妙見社一乃載ニ神門郡一、曰水海與ニ大海之間有ニ山、長二十二里二百三十四歩、廣三里、此者意美豆努命之國引坐時之網矣、今俗人號ニ云薗松山云々、北門佐伎國、今神門郡鷺浦也、多久打絕、島根郡今講武村、中世曰ニ圓福寺村一、上多久下多久乃是也、挾田之國、蓋秋鹿郡佐太大明神所ニ座處一也、北門良波國、蓋島根郡野浪浦也、闇見國、同郡今新庄村久良谷邊也、夜見島、伯耆國弓濱火神岳是亦指ニ同國大山一也、

〔出雲風土記解上意宇郡〕北門は新羅をさすか、出雲國の北には新羅肅愼につゞきて東北蝦夷迄國有ときけば、廣く北門といへる成べし、○中略佐岐は埼なり、又新羅の地名か、○中略狹田國は秋鹿郡なり、佐太社、佐太川、佐田海等あり、

〔日本書紀二十齊明六〕五年、是歲、命ニ出雲國造一修ニ嚴神之宮一、狐嚙ニ斷於友郡役丁所ニ執葛末一而去、

〔續日本紀一文武〕二年三月己巳、詔筑前國宗形、出雲國意宇二郡司、宜ニ聽連任三等已上親一、

〔懷橋談上意宇郡〕能儀郡、或は能美に作る、風土記に能儀郡見えず、思ふに聖武天皇の御宇天平の後、意宇郡を割分て兩郡とせしか、されど人に尋ぬべし、安來はむかし意宇郡に見えたり、今は能儀郡に屬し侍れば、後世二郡とせし事猶明なり、意宇の社あれば郡の名とせり、

島根郡

〔出雲風土記〕島根郡

所ニ以號ニ島根一者、國引坐八束水臣津野命之○之下有ニ脫文一詔而負給名一、故云ニ島根一、

〔出雲風土記抄二島根郡〕以ニ郡中諸方所一經之路程方隅一而今稽ニ考之一、此郡家者、今本庄新庄兩村中路正當矣、

〔續日本紀二十稱德九〕神護景雲二年八月癸卯、出雲國島根郡人外從六位上神掃石公文麻呂○中略賜ニ姓大神掃石朝臣一、

秋鹿郡

〔出雲風土記〕秋鹿郡

所ニ以號ニ秋鹿一者、郡家正北秋鹿日女命座故云ニ秋鹿一矣、

〔出雲風土記抄二秋鹿郡〕按此記之趣、秋鹿日女二所明神祠則在ニ于秋鹿村一、蓋當ニ此社南地一爲ニ右之郡家一耶、從ニ此以東十七八町許、乃長江洲渚、今猶呼曰ニ郡埼一、意郡家隣且長江亦秋鹿一村也、

楯縫郡

〔出雲風土記〕楯縫郡

所ニ以號ニ楯縫一者、神魂命詔、五十足天日栖宮之縱橫御量、千尋栲繩持而、百結ニ八十結一下而、此天御量持而、所ニ造天下一大神之宮造奉詔而、御子天御鳥命楯部爲而、天降下給之、爾時退下來座而、大神宮御裝束楯造始給所是也、仍至ニ今楯桙造而、奉ニ於皇神等一、故云ニ楯縫一、

出雲郡

〔出雲風土記〕出雲郡

所ニ以號ニ出雲一者、說名如ニ國也一、

〔懷橋談下出雲郡〕郡を出雲と名付る故に、風土記にも說名國のごとしと書たり、然れば今の俗、出東と書、國の東にもあらず誤りなるべし、又出雲ゆつをうといふは、いかなる故にや、出雲郡といへば國の名にまぎるゝゆゑに、音にて出雲ゆつをうといふなるべし、雲は音うん、漢音には音つむ、吳音には聲をう、我國まづ吳國へ通じたれば、今に至るまで國人の言葉多くは吳音也、故に

雲の字を呉音にいへばをう也、出の字をつむるひゞきにて、をうをとうと云なれば、出をう郡といひしを、俗の了簡に、雲の字にとうの聲なしとおもひて、東の字に改め書たる成べし、

○按ズルニ、出東郡ハ、中世私ニ出雲郡ヲ東西ニ分チタルトキノ稱ナラン、

〔續日本紀十聖武〕天平十五年七月壬寅、出雲國司言、楯縫出雲二郡、雷雨異常、山岳頽崩、壞二廬舍一埋二田畝一、

神門郡

〔出雲風土記〕神門郡

所二以號一神門一者、神門臣伊賀曾熊之時、神門貢之、故云二神門一、卽神門臣等、自古至今、常居二此處一、故云二神門一、

〔出雲風土記抄三神門郡〕有二古志川東側舊墓一、俗呼號二神門塚一、蓋昔在神門臣等葬埋之地乎、往々而今有二神門氏者一、往古神門等之裔孫乎、或土民、或巧匠等也、

〔日本書紀二十推古〕二十五年六月、出雲國言、於二神戸郡一有二瓜大如一レ缶、

飯石郡

〔出雲風土記〕飯石郡

所二以號一飯石一者、飯石郷中、伊毘志都幣命坐、故云二飯石一、

〔懐橘談下飯石郡〕今の俗説に云ふ、飯石とは託和と云ふ所に、飯を堆く盛たるやうの岩あり、故に郡の名とすといへり、託和の社説にみえたり、

〔出雲風土記抄四飯石郡〕此郡家者、多根郷掛谷村中、今呼曰二郡之處一是也、從二此郡中一方路相應矣、

〔文德實錄三〕仁壽元年十二月壬子、遣二使者一略 中 賜二出雲國飯石仁多兩郡百姓復一年一、

仁多郡

〔出雲風土記〕仁多郡

所二以號一仁多一者、所二造天下大神大穴持命詔一、此國者非二大非一レ小、川上者木穗判加布、川下者阿志波布這度之、是者爾多志枳小國在詔、故云二爾多一、

〔出雲風土記抄四仁多郡〕謂所二以號一仁多一者、由レ有二詔爾多志枳小國一也、今見有二横田郷竹埼村田畴之中日小國之處一、吁餘二玆一古舊名誠以異乎哉、

大原郡

〔三代實錄九清和〕貞觀六年十月甲寅朔、是日復二出雲國仁多飯石兩郡百姓課役二年一、以不レ宜二農蠶一也、

〔出雲風土記〕大原郡

所二以號一大原一者、郡家正西一十里百一十一歩、郡家今猶追レ舊號二大原一、今有二郡家處一、號云二斐伊村一、

〔出雲風土記抄四大原郡〕大原郡家者謂二斐伊村一略 中 今考、自二斐伊郡家一正西今之一里廿五町餘、飯石郡三刀屋郷殿河内村當焉、今此所無二平原一、且他郡所レ謂大原、意不レ可二郡家正西一、却一里五町正東、當二仁和寺與一前原之間一耶、此處平野曠然、樹林蓊鬱、蓋是可レ爲二古之大原一、然卽西宇東之烏焉必矣、又此原震者大東下分村、兌者大西村、離前原、坎仁和寺村、此側有二遠所村一、有二幡屋村一、

〔三代實錄六清和〕貞觀四年二月十六日乙卯、出雲國出雲大原兩郡去年風水殞霜、多被二損傷一、詔復二課役一一年、

〔倭名類聚抄八出雲國〕能義郡　舍代○代、高山寺本作レ人、安來　楯縫　口縫　屋代　山國○山、高山寺本作レ母、母理　野城　賀茂　神戸

意宇郡　宍道　來待　拜志　神戸

島根郡　朝酌　山口　千染○千、出雲風土記作レ手、

秋鹿郡　惠曇　多太　大野　伊農

楯縫郡　佐香　楯縫　玖澤○澤、出雲風土記作レ潭、

出雲郡　建部　漆沼　河内　出雲　許筑○許、高山寺本作レ杵、伊勢　美談　宇賀

神門郡　朝山　日置　鹽沼○沼、出雲風土記作レ治、商岸○商、高山寺本作レ高　南佐　多伏○伏、出雲風土記作レ伎、伊秩　狹結　古志　渦狹○渦、高山寺本作レ堝　八野

飯石郡　熊谷　三屋　草原　飯石　多禰　田井　須佐　波多　來島

仁多郡　三處　布勢　漆仁　三澤　阿位　橫山○山、出土記作田、風
大原郡　神原　屋裏　潮海　佐世　阿用　來次　斐甲○甲出雲風土記作伊、大原○高山寺本、大原次有屋代二字、
〔出雲風土記意宇郡〕母理鄉、郡家東南卅九里一百九十步、所造天下大神大穴持命、越八國平賜而還坐時、來坐長江山而詔、我造坐而命國者、皇御孫命平世所知依奉、但八雲立出雲國者、我靜坐國、青垣山廻賜而、玉珍置賜而守詔、故云文理、神龜三年、改字母理、
屋代鄉、郡家正東卅九里一百二十步、天乃夫比命御伴天降來社、伊支等之遠祖天津日子命詔、吾靜將坐志○志恐衍社詔、故云社、神龜三年、改字屋代、
楯縫鄉、郡家東南卅二里一百八十步、布都怒志命之天石楯縫直給之故云楯縫、
安來鄉、郡家東南二十七里一百八十步、神須佐乃烏命、天壁立廻坐之、爾時來坐此度、而詔、吾御心者安平成詔、故云安來也○略中
山國鄉、郡家東南卅二里二百卅步、布都努志命之國廻坐時來坐此處而詔、是土者不止欲見詔、故云山國也、卽有正倉、
飯梨鄉、郡家東南卅二里大國魂命天降坐時、當此處而御膳食給、故云飯成、神龜三年、改字飯梨、
舍人鄉、郡家正東廿六里、志貴島宮御宇天皇○欽明御世、倉舍人君等之祖、日置臣志毘、大舍人供奉之、卽是志毘之所居、故云舍人、卽有正倉、
大草鄉、郡家南西二里一百廿步須佐乃乎命御子、青幡佐久佐日古命坐、故云大草、
山代鄉、郡家西北三里一百廿步所造天下大神、大穴持命御子山代日子命坐、故云山代也、卽有正倉
拜志鄉、郡家正西廿一里二百一十步所造天下大神命將平越八國爲而幸時、此處樹林茂盛、爾時詔、吾御心之波夜志詔、故云林、神龜三年、改字拜志、卽有正倉、
宍道鄉、郡家正西卅七里所造天下大神命之追給猪像南山有二、一長二丈七尺、高一丈、周五丈七尺、一長二丈五尺、高八尺、周四丈一尺

追猪犬像長一丈、高四尺、周一丈九尺、其形爲石、无異猪犬、至今猶在、故云宍道、
〔出雲風土記島根郡〕朝酌鄉、郡家正南一十里八十四步、熊野大神命詔、朝御饌勘養、夕御饌勘養、五贊組之處定給、故云朝酌、
山口鄉、郡家正南四里二百九十八步、須佐能烏命御子、都留支日子命詔、吾敷坐山口處在詔而、故山口負給、
手染鄉、郡家正東一十里二百六十四步、所造天下大神命、娶高志國坐神、意支都久辰爲命子、奴奈宜而、今人猶誤謂手染鄉之耳、卽在正倉、
美保鄉、郡家正東廿七里一百六十四步、所造天下大神命詔、是神坐矣、故云美保、
置○恐衍波比賣命而令產神、御穗須ニ美命、是神坐矣、故云美保、
方結鄉、郡家正東二十里八十步、須佐能烏命御子、國忍別命詔、吾敷坐地者、國形宜者、故云方結、
加賀鄉、郡家北西二十四里一百六十步、佐太大神所坐也、御祖神魂命御子、支佐加比比賣命、闇岩屋哉詔、金弓以射時、光加加明也、故云加ニ、
生馬鄉、郡家西北一十六里二百九步、神魂命御子、八尋鋒長依日子命詔、吾御子平明不憤詔、故云生馬、
法吉鄉、郡家正西一十四里二百卅步、神魂命御子宇武賀比比賣命、法吉鳥化而飛度、靜坐此處、故云法吉、
〔出雲風土記秋鹿郡〕惠曇鄉、郡家東北九里卅步、須佐能乎命御子、磐坂日子命、國巡行坐時、至坐此處而詔、此處者國稚美好、有國形如畫鞆哉、吾之宮者是處造事者詔、故云惠伴、神龜三年、改字惠曇、
多太鄉、郡家西北五里一百廿步、須佐能乎命御子衝杵等乎而○而恐衍留比古命、國巡行坐時、至坐此處而詔、吾御心照明正眞成、吾者此處靜將坐詔而靜坐、故云多太、

大野郷、郡家正西一十里廿歩、和加布都努志能命、御狩爲坐時、即郷西山狩人立賜而追猪犀、北方山之至河内谷而、其猪之跡亡失詔、故云内野、然今人猶誤大野號耳、

伊農郷、郡家正西一十四里二百歩、出雲郡伊農郷坐、赤衾伊農意保須美比古佐和氣能命之后、天甕津日女命國巡行坐時、至坐此處而詔、伊農波夜詔、故云伊努

〔出雲風土記　楯縫郡〕佐香郷、郡家正東四里一百六十歩、佐香河内百八十神等集坐、御厨立給而、令醸酒給之、即百八十日喜讌、解散坐、故云佐香、

楯縫郷、即屬郡家、〔説名如郡中略〕

玖潭郷、郡家正西五里二百歩、所造天下大神命、天御飯田之御倉將造給並〔並恐處誤〕覓巡行給爾時波夜佐雨久多美乃山詔給之故云忽美、

沼田郷、郡家正西八里六十歩、宇乃治比古命以爾多水而御乾飯爾多爾食坐詔而、爾多負給之、然則可謂爾多郷、而〔而原作與、今人猶云努多耳、

〔出雲風土記　出雲郡〕健部郷、郡家正東一十二里二百廿四歩、先所以號宇夜里者、宇夜都辨命、其山峯天降坐之、即彼神之社、主〔主當作至〕今猶坐、此處、故云宇夜里、而後改所以號健部之、〔之當作者〕纏向檜代宮御宇天皇〔景行〕勅不忘朕御子倭健命之御名、健部定給、爾時神門臣古禰健部定給、即健部臣等、自古至今、猶居此處、故云健部、

漆沼郷、郡家正東五里二百七十歩、神魂命御子、天津枳値可美高日子命御名、又云薦枕志都沼値之、此神郷中坐、故云志司〔司當作沼、即有正倉、

河内郷、郡家正南一十三里一百歩、斐伊大河野郷中北流、故云河内、〔中略〕

出雲郷、即屬郡家、〔説名如國杵築郷、郡家西北廿八里六十歩、八束水臣津野命之、國引給之後所造天下大神之宮將奉與、諸皇神

等、參集宮處杵築、故云寸付、〔神龜三年、改寸字杵築、〕

伊努郷、郡家正北八里七十二歩、國引坐意美豆努命御子、赤衾伊努意保須美比古佐倭氣命之社、即坐郷中、故云伊努、〔努、目錄作農、神龜三年、改努字伊努、〕

美談郷、郡家正北九里二百四十歩、所造天下大神御子、和加布都努志命、天地初判之後、天御領田之長供奉坐之、即彼神坐郷中、故云三太三、〔神龜三年、改三字美談、〕

宇賀郷、郡家正北一十七里廿五歩、所造天下大神命、譲坐神魂命御子、綾門日女命、爾時女神不肯、逃隱之時、大神伺求給所、是則此郷、故云宇賀、

〔出雲風土記　神門郡〕朝山郷、郡家東南五里五十六歩、神魂命御子、眞玉著玉之邑日女命坐之、爾時所造天下大神大穴持命、娶給而、每朝通坐、故云朝山、

古志郷、即屬郡家、伊弉那彌命之時、以日淵河築造池之、爾時古志國人等、到來而爲堤、即宿居之處、故云古志、

宿停而爲政之所、故云日置郷、

鹽冶郷、郡家東北六里、阿遲須枳高日子命御子、鹽冶毗古能命坐之、故云止屋、〔神龜三年、改止屋字鹽冶、〕

八野郷、郡家正北三里二百一十歩、須佐能袁命御子、八野若日女命坐之、爾時所造天下大神大穴持命、將娶給爲而令造屋給、故云八野、

高岸郷、郡家東北二里、所造天下大神御子、阿遲須枳高日子命、甚晝夜哭坐、仍其處高屋造而坐之、即建高椅而、登降養奉、故云高岸、〔神龜三年、改高岸字高岸、〕

滑狹郷、郡家南西八里須佐能袁命御子、和加須世理比賣命坐之、爾時所造天下大神命、娶而通坐時、彼社之前有磐石、其上甚滑也、即詔滑磐石哉詔、故云南佐、〔神龜三年、改南佐字滑狹、〕

多伎郷郡家南西廿里、所ㇾ造ニ天下大神之御子、阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之、故云ニ多吉一(神龜三年、改ニ字多伎一)、〔出雲風土記仁多郡〕三處郷、即屬ニ郡家一、大穴持命詔、此地田好、故吾御地古經、(古經恐ニ田詔一誤)故云ニ三處一、

布勢郷、郡家正西一十里、古老傳云、大神命宿坐處、故云ニ布世一(神龜三年、改ニ字布勢一)、

三津郷、郡家西南廿五里、大神大穴持命御子、阿遲須枳高日子命、御須髮八握于生、晝夜哭坐之辭不ㇾ通、爾時祖命、御子乘ㇾ船而率ㇾ巡八十島宇良加志給鞆、猶不ㇾ止ㇾ哭之、大神夢願給告ニ御子之哭由一、夢爾願坐、則夜夢見坐之御子之辭通、則寤問給、爾時御津申、爾時何處然云問給、即御祖前立去於(出誤於恐)坐而、石川度坂上至留ニ申是處一也、爾時其津水沼於(汲出誤沼恐)而、御身沐浴坐、故國造神吉事奏、參向朝廷時、其水沼(汲誤沼恐)出而用初也、依ㇾ此今產婦彼村稻不ㇾ食、若有食者所生子已(已恐亡)云也、故云ニ三津一、(三津、神龜三年改ニ字三澤一、即有ニ正倉一、)

横田郷、郡家東南廿一里、古老傳云、郷中有ニ田四段許一、形聊長、遂依ㇾ田而故云ニ横田一、即有ニ正倉一、

〔出雲風土記飯石郡〕熊谷郷、郡家東北廿六里、古老傳云、久志伊奈太美等與麻奴良比賣命、任身及ㇾ將ㇾ產時、求ㇾ處生之、爾時到ニ來此處一、詔甚久ニ麻ニ志枳谷在、故云ニ熊谷一也、

三屋郷、郡家東北廿四里、所造天下大神之御門、即在ニ此處一、故云ニ三刀矢一(神龜三年、改ニ字三屋一、即有ニ正倉一、)

飯石郷、郡家正東一十二里、伊毘志都幣命天降坐處、故云ニ伊鼻志一(神龜三年、改ニ字飯石一、)

多禰郷、屬ニ郡家一、所ㇾ造ニ天下大神、大穴持與須久奈比古命一、巡行天下時、稻種墮ニ此處一、故云ニ種一(神龜三年、改ニ字多禰一、)

須佐郷、郡家正西一十九里、神須佐能袁命詔、此國者雖ニ小國一、國處在、故我御名者、非ㇾ著ニ木石一詔而、即己命之御魂鎮置給之處、然即大須佐田、小須佐田定給故云ニ須佐一、即有ニ正倉一、

波多郷、郡家西南一十九里、波多都美命天降坐家在、故云ニ波多一、

來島郷、郡家正南卅六里、伎自麻都美命坐、故云ニ支自眞一(神龜三年、改ニ字來島一、即有ニ正倉一、)

〔出雲風土記大原郡〕神原郷、郡家正北九里、古老傳云、所ㇾ造ニ天下大神之御財(財恐積)置給處一、則可ㇾ謂ニ神財一、而今人猶誤故、云ニ神原一耳、

屋代郷、郡家正北一十里一百一十六步、所ㇾ造ニ天下大神之梁立射處一、故云ニ矢代一(神龜三年、改ニ字屋代一、即有ニ正倉一、)

屋裏郷、郡家東北一十里一百六十步、古老傳云、所ㇾ造ニ天下大神一、令ㇾ殖ニ笑給處一、故云ニ矢内一(神龜三年、改ニ字屋裏一、)

佐世郷、郡家正東九里二百步、古老傳云、須佐能袁命、佐世乃木葉頭刺而踊躍爲時、所ㇾ刺佐世木葉墮ㇾ地、故云ニ佐世一、

阿用郷、郡家東南一十三里八十步、古老傳云、昔或人此處山田佃而守之、爾時目一鬼來而、食ニ佃人之男一、爾時男之父母竹原中隱而居之時、竹葉動之、爾時所食男、云ニ動一、故云ニ阿欲一(神龜三年、改ニ字阿用一、)

海潮郷、郡家正東一十六里卅三步、古老傳云、宇能治比古命、恨ニ御祖須我禰命一而、北方出雲海潮押止、(止當作上)漂御祖之神、此海潮至、故云ニ得鹽一(神龜三年、改ニ字海潮一、中略)

來次郷、郡家正南八里、所ㇾ造ニ天下大神命詔、八十神者不ㇾ置ニ青垣山裏一詔而、追廢時此義迨以生、(義迨以生恐處追次生誤)故云ニ來次一、

斐伊郷、屬ニ郡家一、樋速日子命坐此處、故云ニ樋一(神龜三年、改ニ字斐伊一、)

〔東大寺正倉院文書三十一〕出雲國天平十一年大稅賑給歷名帳

漆沼郷　深江里　工田里　犬上里　河内郷　伊美里　大麻里(略)節

〔東大寺正倉院文書三十二〕出雲郷　朝妻國(里恐國誤)　伊知里　杵築郷　因佐里　神門郡　朝山郷　稗原里　加夜里　日置郷　荏原里　桑市里　細田里(略)節

〔東大寺正倉院文書三十三〕伊秩郷　坂本里　坂奈里　池井里　阿禰里　多級里(略)節

〔吾妻鏡三〕元暦二年(文治元年)正月廿二日丙午、以ニ出雲國安東郷一、先日令ㇾ寄ニ附于鴨社神領一給訖、(下略)

〔郡名一覽〕(拾私領)一出雲國　雲州　南西二日半　拾郡

高貳拾八万貳千四百八拾九石七斗三升九合

五百四ヶ村

莊保

松江　二百二十三里餘　○廣瀨　二百二十二里　○母里　二百三十三里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要〕出雲　十郡、五百四村、皆私領　高三十万二千六百二十七石四斗六升五合

島根郡五十一村　秋鹿郡二十村　楯縫郡二十三村　出雲郡十九村　神門郡八十五村　飯石郡六十一村　仁多郡七十二村　大原郡五十八村　能義郡七十七村　意宇郡三十八村

〔地勢提要〕坤〕郡邑島嶼奇名

出雲　神門郡三都村、遙堪村、出雲郡美談村、楯縫郡十六島浦、秋鹿郡島根郡、手角村、意宇郡宍道村、下來海村、竹矢村、白石村、出雲々村、揖屋村、能義郡飯生村、祖父谷村、野外村、門生村、安來村、大原郡木次村、

〔和漢三才圖會七十八出雲〕松江。東至二江戸一二百六里、申三十四里寅方至二伯耆一米子海上五里、

〔懷橘談島根郡〕末次は此島根郡なり、末次明神座す、白潟は意宇郡なり、此二邑は今松江といふ、唐松江に地境相似て、鱸魚蒪菜また多し、故に先國主堀尾出雲守忠氏、富田城を此地へ移し、松江と名付ぬ、今に國司の府城也、宇賀明神も城の北に有、湖水を東西南北にほり入たれば、船の往來自由にして、商買運送に便あり、誠に本朝無雙の金城、中國第一の天險なり、

〔賀茂注進雜記下神領〕同○壽永三年○元暦四月廿四日壬辰、賀茂社領四十二ケ所、任二院廳御下文一、可レ止二武家狼藉之由一、有二其沙汰一云々、

下諸國　可レ早任二院廳御下文一、停二止方々狼籍一、備二進神事用途一、賀茂別雷社御領庄園事、○略　中

出雲國　福田庄。○略　中

壽永三年四月廿四日

正四位下源朝臣御判

〔石清水文書一〕八幡宮寺領

御判　右大將家賴朝　○中略

出雲國　安田庄　横田庄○略　中　石坂保○略　中

元暦二年正月九日

〔吾妻鏡六〕文治二年七月十八日癸巳、出雲國園。山。日來之功、殊蒙二御芳志一、而望申出雲國園山庄下司職一、兼可レ付二都督一之由云云、十月一日甲戌、賀茂別當領出雲國福。田庄、石見國久永保、參河國小野庄等、成二御下文一被レ遣二社家一、當宮事二品御歸依異レ他之故也、

〔吾妻鏡十〕文治六年四月十九日壬寅、造大神宮役夫工米地頭未濟事、頻有二職事奉書一、神宮使又參訴之間、可レ致二不日沙汰之旨下知一、給、於有二子細一所々者、今日令二注進一、京都一給、因州幷盛時俊兼等奉行之、其狀云、

内宮役夫大工作料未濟成敗所々事○略　中

出雲國　飯生。庄。在二下文一。○略　中

文治六年四月十九日

〔太平記二十〕鹽冶判官讒死事

三月晦日ニ、鹽冶出雲國ニ下著シヌレバ、○略　中三百餘騎ニテ同國屋。杉。庄ニ著給フ、

〔應仁廣記五〕山名家由來事

宮内少輔時照、右馬頭氏幸ガ領地ヲ召放サレテ、隱岐出雲ヲ滿幸○名　山ニ賜ル、滿幸ハ元來本領丹後伯耆ヲ取リ、合セテ四箇國ノ大守ト成リ、一家ニハ總領也、又々侈ヲ恣ニシケル程ニ、出雲國横。田。庄。ハ仙洞後圓融帝ノ御厨領ニシテ、守護不入ノ所ナルヲ、滿幸是ヲ押領ス、急ギ可二還上由一、度々

公方家御下知御敎書有ト云ヘ共、更ニ不ㇾ用之而剩地下人等ニ心ヲ合セ、皇家ノ御代官ヲ追出シヌ

〔今井軍記〕當國諸侍に赤松常陸彦五郎謀反に同心せしめ、國一揆と號し、上意を違背せしむといへども、高遠一人同心せしめず、爲ㇾ上意寶生寺殿生觀御下向を相待申、私宅に五十ケ日御座あり、月瀨御退治を加へられし時、七百三十餘人御被官に參り、其時十三條鄕地頭職仰付られ、出雲國佐田庄朝山分本領たる間返下され、略下

〔慶應元年武鑑〕松平出羽守定安　大廣間從四位上少將元治元子四月日　拾八万六千石　御在城出雲島根郡松江江戸ヨリ二百廿三里餘

〔慶應元年武鑑〕松平佐渡守直已　三万石　御在城雲州能義郡廣瀨江戸ヨリ二百廿二里

松平主計頭直哉　一万石　御在所雲州能儀郡母里江戸ヨリ二百三十三里

藩封

輔元領慶長五、堀尾帶刀、同信濃守、以後京極宰相高次寬永十五、松平出羽守直政、以後代々領之、帝鑑間朝散大夫

寬文年中ヨリ松平上野介近榮、以後代々領之、帝鑑間朝散大夫

寬文年中ヨリ領之○節略

田數石高

〔倭名類聚抄國郡〕出雲國○略註管十、田九千四百三十五町八段二百八十歩

〔拾芥抄中末本朝國郡〕出雲中十郡中略田九千九百六十八町

〔海東諸國記〕出雲州　郡十、水田九千四百三十町八段、

〔日本鹿子十一〕出雲國、十二郡、大上國、東西二日半、知行高二十二万三千四百七十石、

〔官中秘策四〕出雲國　十郡略中

一石高貳拾八万貳千四百八拾九石餘

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調略中

出舉稻

出雲國皆私領　一高三拾万貳千六百貳拾七石四斗六升五合

〔延喜式二十六〕諸國出舉正稅公廨雜稻略中

出雲國正稅廿六万束、公廨卅万束、國分寺料四万束、文殊會料二千束、藥分料一万束、修理池溝料三万束、救急料四万束、俘囚料一万三千束、

國產貢獻

〔倭名類聚抄五國郡〕出雲國略註管十（中略）正二十六萬束、公三十萬束、本稻五千束、雜稻十三萬五千束、

〔延喜式十五內藏〕諸國年料供進略中　交易各四合　六百五十疋（中略）出雲（中略）上野七箇國各五十疋○中略

〔延喜式二十三民部〕年料別納租穀略中　出雲國四千五百斛○中略

年料別貢雜物略中　出雲國筆五十管○中略

諸國貢蘇蕃次略中　出雲國十一壺三口各大一升、小一升、八口　右十箇國爲第四番（辰年）○中略

交易雜物略中　出雲國絹二百卅七疋四尺、鹿革廿張、席三百枚、青苔卅斤、海松一百斤、藻根十斤、鳥坂苔五斤、紫草一百斤、鹿皮廿張、櫨子四合、

〔延喜式二十四主計〕出雲略中　右廿五國、中絲略中

出雲略中　右廿九國輸絹略中

出雲國行程、上十五日、下八日、

調白絹十疋、緋帛廿疋、縹帛八十疋、橡帛十二疋三丈、帛一百疋、緋絲十五絢、縹絲、綠絲、橡絲各五絢、皂絲五絢、烏賊廿斤、鰒廿四斤、自餘輸絹絲、庸、白木韓櫃十二合、自餘輸綿、中男作物、紙、海石榴油、荏油、胡麻油、薄鰒、雜腊、紫菜、海藻、

〔延喜式三十大膳〕諸國貢進菓子略中　出雲國甘葛煎二斗

〔延喜式三十典藥〕諸國進年料雜藥略中

出雲國五十三種　前胡、蕘蕷、榆皮、連翹各二斤、王不留行一斤七兩、獨活、苦參各十一斤、檳杞九兩、牛

膝四斤、藍漆一斤八兩昌蒲一斤、白朮、拔葜、桑葚各三斤、棗梁香十兩、白朮五斤、狼牙一斤、龍膽一斤、玄參一斤十兩、藁本、松蘿、松脂、地楡、卷柏、女菫各一斤、蹶躅花二兩、澤寫一斤二兩、商陸一斤五兩、細辛一斤八兩、瞿麥一斤六兩、白頭公二斤三兩、伏苓六斤、續斷一斤、白蘞一斤、當歸一斤六兩、夜干二斤、黃精二斤、蒲黃十二兩、桑螵蛸二兩、樒子一斗、署預六升、麥門冬五升、百部根二斗、赤箭一合、牡荊子、亭藶子、柏子人各一升、桃人、車前子各四升、蜀椒五升、決明子、蔾梨子各二升、吳茱萸五升、

〔毛吹草、三〕出雲

鐵　紺染　杵築酒　友島鮪　白潟鮪　松江鱸　鯉　鮒　タチ貝　十六島苔　隼　加々浦加布

〔續日本紀、六元明〕和銅六年五月癸酉、令大倭參河並獻雲母、○略中出雲黃䂮石、

〔三代實錄、五十光孝〕仁和三年六月二日甲辰、伊賀○略中出雲、○略中土佐等十九國貢絹、麁惡特甚、不如昔日、勅遣國宰、探取正倉舊樣絹、每國賜一疋、依舊樣作、

〔官中秘策、四〕出雲國　十郡○中略

一人數貳拾三万四千八百九拾六人　內拾貳万三百五拾四人　男　拾壹万四千五百四拾貳人　女

〔吹塵錄、五文化元甲子年人口及國高、皆私領〕諸國人數調○中略

一人數貳拾七万九千百七拾七人　高貳拾八万貳千四百八拾九石餘　出雲國

弘化三丙午年諸國人數調○中略　內拾四万六千百貳拾貳人　男　拾三万三千五拾五人　女○中略

皆私領一人數三拾万九千六百六人　高三拾万貳千六百貳拾七石餘　出雲國

內拾六万千百七拾九人　男　拾四万八千七百貳拾七人　女

〔人國記〕出雲國

風俗

人口

雜載

名所

出雲國之風俗、萬事ナス所之業、實儀ニ勤ル事、百人ニ而六七十人如此、然ドモ明闇之詮儀疎ニ而、其道理ヲ不辨而、善惡邪正トモニ佛神ニ祈願ヲ而祈レバ、必成就スルト思フノ風儀也、愚蒙之意地也、サレバ謀計雖爲眼前之利潤、必當神明罰、正直雖非一旦之依怙、終蒙日月之憐トアル詫宣ヲ不知、又神ハ不受非禮、正直首トイヘバ、吾心惡意ヲ盡而佛神ヲ祈リタリトモ、何ゾ加護アランヤ、古今神明ヲ重ンズル事、和朝之例タレドモ、於此國ニハ中々上下トモ如斯ニシテ、神明ヲ不知ナリ、

〔日本鹿子、十一〕同國○雲出中名所之部

出雲宮○略中　手間關○略中　佐太浦

杵築　御崎　此間に鬼の燒食岩と云大岩あり、其外御經島たゝみ岩など云多く、めいしよといろいろ有、

水江　吉野川　關山　枕木山　楯縫里

〔延喜式、二十兵部八〕諸國健兒○略中　出雲國一百人○略中

諸國器仗○略中　出雲國甲五領、橫刀十口、弓廿張、征箭廿具、胡籙廿具、

石見國

石見國ハ、イハミノクニト云フ、山陰道ニ在リ、東ハ出雲、東南ハ備後、南ハ安藝、周防、西ハ長門ニ接シ、西北ハ海ニ至ル、東西凡ソ十一里、南北凡ソ十三里、此國ハ古ヘ國府ヲ那賀郡ニ置キ、安濃（アノ）邇摩（ニマ）那賀（ナカ）邑知（オホチ）美濃（ミノ）加（カ）茂（モ）足（アシ）ノ六郡ヲ管シ、延喜ノ制中國ニ列ス、其鹿足郡ハ仁明天皇承和十年、美濃郡ヲ分割シテ設置スル所ニ係ル、明治維新ノ後、島根縣ヲシテ之ヲ治セシム、

名稱

〔倭名類聚抄五國郡〕石見以波美。

〔運歩色葉集伊〕石見十三石州郡

〔日本風土記一寄語島名〕石見一哇彌

〔易林本節用集下〕石見石州中、管六郡、南北二郡、藻布鹽利多、稅貢倍二他國一也、中下國也、

〔倭訓栞前編三〕いはみ　石見と書り、此國に高角山、岩崎山、或は銀山など、皆嶮石の山なるをもて名とすといへり、又幽齋九州道紀に、石見のあらきといふふることどもたがはず、磯の巖そばだちたるあたりを漕行とあれば、其義によるにや、床の浦のあたり、げに疊を敷たる如き岩なりといへり、

〔諸國名義考下〕石見

和名抄に石見以波美國府在二那賀郡一、名義は字の如くなるか、又は石群の約りにてもあらむかすべて此國は岩多き國なれば、萬葉集に、角障經、石見之海乃言佐敝久、辛乃埼有伊久里爾曾云々、とある、伊久里も石の名なり、○略中小篠御野は、この國の海邊おしなべて岩なれば、石海ノ國ならむともいへり、さもあるべし、

〔冠辭考六都〕つぬ　さはふ　いはのひめ　いはみの海　いはれのいけ

万葉卷二に、人麻呂角障經、石見之海、○略中こは蘿這石とつゞきたる也、伊の部ゐいへるごとく、古へは角、綱、蘿を相通はしていふが故に、蘿を都奈とも、都奴ともいへり、かの岩綱と書たるを、岩蘿の事也といひしに同じ、さてこゝに菟怒瑳破赴といふは、奴瑳の反奈なれば、菟奈の奈を延て、菟怒瑳といひ、破赴は蔓の這也、且その菟奈と同じき事、石にいふが如くて、蘿這岩てふことなり、語を延ていふは、透をすけき、淋をさまミしといへる類なり、且万葉に、角障經と書たるハ、例の借字也、字に泥て誤べからず、

位置

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

石見濱田、新町極高三十四度五十三分半、經度西三度三十八分半、從二東都一東海道自二西國街道一二百五十六里三町五十三間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

石見　濱田　三四度五三分三〇秒

東西里差

山城　京　〇度〇〇分〇〇秒○略中　石見　濱田　西三度三八分二八秒

〔日本地誌提要四十九石見〕疆域　東ハ出雲、東南ハ備後、南ハ安藝、周防、西ハ長門、西北ハ海ニ至ル、東西凡壹拾壹里、南北凡壹拾三里、東北ヨリ西南ニ亘ル凡三拾里、

〔日本實測錄九島嶼〕石見國　美濃郡　遠測　山椒島又呼二ミルル島一　松島飯浦村　朝鮮岩　女島　男島　松島西平原村　二ッ島　ソ磐　那賀郡　實測　馬島、周廻一十七町五十三間、ヲ島、周廻四町三十間、遠測　高島岡見村　大島　松島岡見村　加島　鞍島　松島西村　黒島西村　アゴ島　小島　天神島　鶴島　柱島　沖柱島　男島下府村　女島下府村　高丸岩　黒島下村　犬島　幸島　高島淺利村　邇摩郡　遠測　松島　ヤエ島　烏帽子島　蛇島　黒島　唐人島　キフ小島　カンハタ尾崎　鵜島　トタイ島　辛島　ソ磐　雀島　小立島　大立島　小神島　神島　安濃郡　遠測　神岩

〔玉勝間七〕石見の海なる高島

石見國の濱田の海中に、高島といふ島あり、濱田より五里なりといへど、七八里ばかり有とぞ、此

しまめぐり五里ありて、四方のめぐりは、いづこも〳〵みないみじく高き岩にて、岸なる海深く、船よせがたし、もし船はつれば、岩のうへに大きなる材をたて、大綱もてそのふねをつりあげおくなり、然せざれば浪風に岩にふれて、船くだくるよしなり、此島山林木竹多し、畠のみ有て田はなし、人の家はたゞ七戸ありしが、今は十戸に分たりとぞ、兄弟をぢめひなどもとづきて、一戸に三夫婦四夫婦などもすめりとぞ、かくて此島には、鼠のいと〳〵多く有て、物をくひそこなひ、人をもくふことよのつねならず、一とせ濱田より、人をつかはして、からせられけれどもかりえず、力およびがたかりしとぞ、いとあやしきことなり、さてこのしま人男も女も髪あかく、いと賤しげなるさまなり、米もなく、牛馬などもなし、みの事とるつかさ人も、代官とて有とぞ、さて此島に祇園宮といひて、氏神とする社有、いかなる神を祭るにか、さだかならず、其祭にとなふる詞あり、その詞ひろたけの、楠の木はかれてもにほひ、かうばしや、おやどりあれや此宿の、さのみはないそぎめされそ、かく唱へて、楠の木を祭るとなり、かの國人小篠御野が物がたりなり、

地勢

〔和漢三才圖會七十九石見〕石見　當國有高角山、岩崎山、岩奈仁山等之嶮岨而磐石峻難、故號石見國、

〔日本地誌提要四十九石見〕形勢　山脈南方ヨリ來リ、州内ニ連亘シ、嶂巒相望ミ、平坦ノ壤少ナク、江川其東北ニ縈紆貫流シ、山陰第一ノ巨流タリ、海濱低鹵、運輸ニ便ナラズ、

〔日本實測錄四街道〕從二備後國下御領一歷二吉舍及三次一至二大森一略○中　石見國邑智郡酒谷村　一里一十六町二十四間　九日市村　二里七町一十二間　濱原村三十五度四分半、一十九町九間　粕淵村（又呼二小原驛一）　一里三十町二十一間　別府村（至二小松地村宿所一五丁三十三間北）　二里一十三町五十四間　邇摩郡佐摩村　六町二十四間半　佐摩村大森駒之足町（從二下御領一至二大森一）　街道、通計三十五里三町五十八間、○中略

道路

從二安藝國廣島歷可部及新庄一至二佐摩一略○中　石見國邑智郡出羽（イヅハ）市　二里三十町一十五間（至二三日市二丁九間、從二三日市一至二高見村一、一里二十丁五十四間）　市　二里二十七町三間　川本村川本市　二里三十二町二十一間（至二郷川岸二丁四十五間）　三町二十四間　邇摩郡白坏（シラツキ）村（至二三瀧八幡社一七丁三十間）　通計二十六里六町二十四間半、

從二安藝國新庄歷一市木一至二淺井一略○中　石見國邑智郡市木村　一里九町三十九間　同越木坂　二里一十八町五十五間　那賀郡今市村　二里三十五町五十間半　佐野村　二里一十町五十六間　淺井村　（從二新庄一至二淺井一）街道、通計一十三里二町二十一間半、○中略

從二安藝國宮内一歷二津田一至二津和野一略○中　石見國鹿足（カナシ）郡六日市村　一里二十町五十四間（四十五間、從二田丸一至二吉賀川岸一一里二十四丁）　七日市村　二里一十三町三十三間（至二田丸村一二十四丁）

從二宮内一至二津和野一街道、通計一十八里一十八町二間、○中略　石見國鹿足郡津和野高崎町　一十一町二十三間　同森町、三十四度二十八分、二里一十一町一十八間（至二津和野鐵砲町限一丁二十四間半）　青原村上市、三十四度三十五分、二里二十五町三十九間　宿谷村　一里二十町二十七間　美濃郡横田村　二里一町五十一間　須子（スコ）村（至二高津村一丁四十八間、從二高津村一至二高津町一、五丁、又從二高津村一丁、又從二人丸社一丁、）　三十四町二十二間　益田村三十四度四十一分（至二瀧蔵權現社一八丁四間）　一里二十七町三十二間　木部村木部川口　二里五十八間　那賀郡岡見村三十四度四十六分、一里六町二十六間　岡崎村上市町（又呼二三隅驛一）　一里二十七町四十五間　折居村折居橋　二里一十二町一十

二間　長濱村　一里一十五町四十間（至濱田檜物屋町一里八丁一十間）濱田新町、三十四度五十三分半、一里五町五十七間（至淺井村一里七丁九間半）下府村　二里二十二町三十間半　上有福村（至湯谷七丁一十六間半、北極高三十四度五十分、七）三里一十四町二十九間　邑智郡市山村　三十五町七間　谷住郷村　三里九町二十九間　三原村　一里二十六町五十七間　邇摩郡大家本郷　二里九町二十二間（至川上峠一里四丁三十六間、從峠）（至猿馬場峠二十二間、）佐摩村銀山町（歷西田村至温十丁二十一間半、又從温里至露神社二十五丁三十六間、）二里二十四丁四十八間、從温里至温泉津村、）三十三町一十八間　同大森下町、三十五度七分半、一里一十三町三十間　久利（ク リ）村　三十一町三十三間　行恒村（至川合村一宮物部神社三十四丁九間半）一十九町一十五間　安濃郡大田南村大田町（至八幡社四丁四十五間）一里四十八間　刺賀（サスガ）村（至刺賀神社六丁五十四間）九町五十四間　波根西村（至苅田神社三丁一十二間）二十四町五十七間　波根東村、三十五度一十四分半、一里一十二町一十二間　仙山村島津屋鋪　一十一町二十七間（至國界六丁九間）出雲國神門郡口田儀村田儀町

〔日本實測錄（一海濱）〕從赤間關沿海至鞠山（本敦賀中略）石見國美濃郡飯浦村、三十四度四十分（至タラ町一十五間、岬一六宿所一八町六間）三十四度四十一分、（又從濱至洲崎一二十六間）二里一十一町三十五間半　折居村吉浦　二里六町一十八間　津摩村白島崎　二里二十二町四十七間半（至長濱村一里四町一十七間）濱田青口（歷濱田浦一二十一町四町至赤崎一十町一十二間）同新町　一十三町三十四間　原井村　二里一十町二十六間　下府（シモコウ）村濱（至街道一十七町一十九間半）五町　國分村唐鐘浦（至久代村一二十一十七間）郷田村、三十五度三十秒、四里六町五十六間半　邇摩郡福光本領（至小濱村徑測二十二町五十五間半）三里一十四町一十九間　高津村濱（至高津村二十町一十五間、岬一六）三里一十四町一十九間　高津村濱（至高津村二十四町五間半、從濱至洲崎一二十六間）二里一十一町三十三間（至津田村一里二十四町二十二間、）（至木部川口六町四十二間、）木部村大濱（城崎櫓現岬廻四町二十六間）三里二十六町三間　那賀郡西河内村湊浦、三十四度四十七分、一里一十一町三十八間　津摩村白島崎　二里二十二町四十七間半（至長濱村一里四町一十七間）濱田青口（歷濱田浦一二十一町四町至赤崎一十町一十二間）同新町　一十三町三十四間　下府（シモコウ）村濱（至街道一十七町一十九間半）五町　國分村唐鐘浦（至久代村徑測二十一十七間）郷田村、三十五度三十秒、四里六町五十六間半　邇摩郡福光本領（至小濱村徑測二十二町五十五間半）三里一十四町一十九間　高津村濱（至高津村二十四町五間半、從濱至洲崎一二十六間）二里一十一町三十

國府　郡

四萬千石三五年、古田重治ヲ濱田ニ封ズ、後易封數氏、最後ニ松平齊厚封ヲ受ケ、六萬千石慶應中、美作ノ鶴田ニ徙ル、其餘郡邑、代官ヲ大森ニ置テ之ヲ治ス、王政革新、大森縣ヲ置キ、尋テ濱田ニ徙シ、又津和野藩ヲ廢シテ濱田縣ニ合併ス、

〔先代舊事本紀十國造〕石見國造

瑞雞朝○崇神御世、紀伊國造同祖蔭佐奈朝命兒大屋古命定ニ賜國造一、

〔續日本紀二十四淳仁〕天平寶字七年九月甲寅、以ニ從五位下奈紀王一爲ニ石見守一、

〔吾妻鏡十三〕建久四年十二月廿日癸丑、佐々木左衞門尉定綱本知行之地、悉返給○中略至ニ長門石見兩國者、所ニ被補一守護職也、

〔倭名類聚抄五國郡〕石見國國府在ニ那賀郡一行程上十五日、

〔倭名類聚抄五國郡〕石見國○略○中安濃アノ那賀ナカ邇摩ニマ那賀ナカ邑ホチ鹿足カナシ○中略濃ノ鹿足カナシ○中略ナカ邇摩ニマ那賀ナカ邑ホチ右爲ニ遠國一

〔延喜式二十民部二〕石見國、管知チ安濃アノ邇摩ニマ美濃ミノ那賀ナカ邑智オホチ鹿足カナシ、

〔易林本節用集下〕石見、石ヤキ州中、管六郡、○中略安濃近摩、那賀、邑智、美濃、鹿足、

〔皇國郡名志〕石見國六郡

安濃アノ●河合●言求●志學

那賀ナカ濱田ハ長濱●今市●三隅ハ江田町●周布●小濱●藝界ヨリ西北海ニ貫

邑知オホチ●市木●日貫●中野ハ久喜●大林●百石●藝界

美濃ミノ●廣瀨ハ益田●津田●高津山●藝界ヨリ西北ノ海ニ貫

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕石見

六國史古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
安農文	安濃	同	同	同	同	同	同	同
邇摩	同	同	同	同	同	同	同	同
邑知	同於保知	同	邑知 知圖 邑智 元	邑知	同	同	同	同
那賀	同	同	同	同	同	同	同	同
美濃	同	同	同	同	同	同	同	同
鹿足	同加乃阿之	同	同	同	同	同	同	同
管六	同	六郡						

〔續日本後紀六仁明〕承和四年正月辛卯、在ニ石見國五ケ郡中一神總十五社、始預ニ官社一、

○按ズルニ、五ケ郡ハ安濃、邇摩、那賀、邑知、美濃ノ五郡ヲ云フナリ、

安濃郡
邇摩郡
那賀郡
邑知郡
鹿足郡
美濃郡
郷

〔文徳實錄二〕嘉祥三年八月丙辰、公卿抗表曰、○中略石見國守從五位下笠朝臣岑雄等奏偁、所管安濃郡川合郷甘露降、○中略謹詣闕庭陳賀以聞、帝謙而不當、

〔三代實錄四十九光孝〕仁和二年五月十二日庚寅、先是石見國邇摩郡大領外正八位上伊福部直安道、那賀郡大領外正六位下久米岑雄等發百姓二百十七人、帶兵仗圍守從五位下上毛野朝臣氏永、奪取印匙驛鈴等、授榜吏、

〔日本國郡沿革考三山陰道〕石見○略　邑智百二村延喜式等作邑知

〔續日本紀二十九高野〕神護景雲二年二月癸未、石見國美濃郡人額田部蘇提賣、寡居年久、節義著聞、兼復積而能散、所濟者衆、復其田租終身、

〔續日本後紀十三仁明〕承和十年五月丙申、石見國美濃郡分割爲兩郡、本郡依舊爲美濃郡、新郡取邑號爲鹿足郡、其職員者准小郡、析元四員、分取一人、更加一員、總置二員、本郡則准下郡、置三員、

〔三代實錄十四清和〕貞觀九年十月十九日甲申、石見國言、鹿足郡倉庫自鳴、

〔倭名類聚抄八石見國〕安濃郡　波禰　刺鹿　安濃　靜間　高田多加　川舍寺○舍高山寺本作合　邑陁　佐波
邇摩郡　託農多久乃　大國　湯泉由杵寺○杵高山寺本作津　道都知　大家於保伊倍　郡治○郡高山寺本作都
那賀郡　都農都乃　都於　石見　周布主不　三隅三須美　杵束木都賀　伊甘伊加無　久佐
邑知郡　神稻久末之呂　邑美美於布　櫻井佐久良井　都賀都加波　佐波
美濃郡　都茂都毛　苓氣　山田也末太　山前也末佐木　大農於保乃　美濃　小野乎益乃　田末須太
鹿足郡　鹿足　能濃

〔文徳實錄二〕嘉祥三年八月丙辰、公卿抗表曰、○中略石見國守從五位下笠朝臣岑雄等奏偁、所管安濃郡川合郷甘露降、○下略

〔三代實錄三十九元慶〕元慶五年三月七日乙卯、散位從五位上陽侯忌寸永岑言、石見國美濃郡都茂郷九

村里名邑

山巖石嶂巉巖縈繞數十里、銅工膳伴案麻呂、眞髮部廣世等言曰、此山出銅、仍採磐石、試以鼓鑄、遂得眞銅、

〔郡名一覽御料私領〕一石見國　石州　南北二日半　六郡

高拾四万貳千四百九拾九石貳斗三升五合　四百八拾九ヶ村

●濱田　二百四十七里　●津和野　二百四十七里　〈大森　二百三十里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要御料私領〕石見　六郡、四百五十一村、
高十七万二千二百九石七斗六升八合三勺二才

安濃郡三十村　邇摩郡四十六村　邑智郡百二村　那賀郡百十六村　美濃郡九十六村　鹿足郡六十一村

〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名

石見　邑智郡志君村、湯抱村、八色石村、川下村、邇摩郡大家本郷、白杯村、温泉津村、温泉里村、靜間村、安濃郡刺賀村、鹿足郡、美濃郡寺垣内村、那賀郡下府村、渡津村、

〔和漢三才圖會七十九石見〕津和野○東至江戸二百四十七里、至濱田十方至大坂、

〔安西軍策一〕大内龍藏寺和平附石州濱田合戰事

大内○義興ハ國中ヲ隨ヘテ頓テ濱田ヘ陣ニ打出、敵陣五十餘町ヲ隔對陣シテ暫ハ合戰モ無ク候、

〔毛利元就記〕石見國と備後半國内郡の分は、雲州の尼子晴久に從ふ、しかれ共石見の内津和野の三本松の城主吉見正頼一人は、昔より防州の大内義隆に從ふ、

保

〔中國治亂記〕小幡山城守ハ石州ノ津和野ヘ落ラレシヲ追カケ、德佐ニテ腹ヲキル、

〔當宮緣事抄〕左辨官下　石清水八幡宮幷宿院極樂寺

應ㇾ永停ㇾ止宮寺幷極樂寺庄園領家預所下司公文等、或號ㇾ有ㇾ先祖讓狀、或稱ㇾ相ㇾ傳文書、致ㇾ異論ㇾ企ㇾ掠領ㇾ、兼又有ㇾ由緒ㇾ雖ㇾ令ㇾ傳領ㇾ、子孫斷絕處々付ㇾ本所ㇾ事、

宮寺領〇中略　石見國　大國。保。〇中略

保元三年十二月三日

藩封

〔吾妻鏡三十二〕嘉禎四年〇曆仁元年　五月十一日乙酉、故左衞門尉坂上明定、子息左兵衞尉明胤、領掌亡父遺跡事、不ㇾ可ㇾ有ㇾ相違之由、含ㇾ嚴旨ㇾ、是石見國長。田保。播磨國巨智庄地頭職〇中略等事云云、

〔慶應元年武鑑〕松平右近將監武聰　六万千石　御在城石州那賀郡濱田江戸ヨリ海陸二百四十七里

大廣間從四位侍從安政元

往古輝元領、元和五年、古田大膳大夫重治、同兵部少輔重恒、慶安二、松平周防守康映、同周防守康寬、同周防守康福、同周防守康定、同周防守康任、同周防守康爵、天保七ヨリ松平右近將監齊厚領ㇾ之、

大廣間從四位侍從元治元年五月任

龜井隱岐守玆監　四万三千石　居城石州鹿足郡津和野江戸ヨリ二百四十七里

輝元領、吉見出羽守正賴居、元和三ヨリ龜井豐前守政矩、以後代々領ㇾ之、〇節略

〔倭名類聚抄國郡〕石見國略　管六町九段四十二歩　田四千八百八十四

〔伊呂波字類抄國郡〕石見國　管六（中略）本田（田下恐脫ㇾ四）千八百八十四丁九反四十二歩　田數石高

〔海東諸國記〕石見州　郡六、水田四千九百十八町

〔日本鹿子十一〕石見國六郡、中下國、南北二日、知行高十三万七千三百七十石、

〔官中秘策四〕石見國　六郡〇中

一石高拾四万貳千四百九拾九石餘

出擧稻

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調〇中略

石見國御私領　一高拾七万貳千貳百九石七斗六升八合三勺貳才

〔延喜式二十主稅〕諸國出擧正稅公廨雜稻〇中略

石見國正稅公廨各十五万五千束、國分寺料二万束、文殊會料一千束、修理池溝料二万束、救急料四万束、

國產貢獻

〔倭名類聚抄五國郡〕石見國〇略　管六正公各八萬千束、本穎三十九萬千束、雜穎八萬千束、

〔延喜式十五內藏〕諸國年料供進〇中略　櫨子（中略）石見（中略）土佐國各四廿六箇國各四合

〔延喜式二十三民部〕年料別納租穀〇中略　石見國二千五百石〇中略

諸國貢蘇番次〇中略　石見國八壺二口各大一升、六口各小一升、右十箇國爲第四番〇中略

交易雜物〇中略　石見國綿六百八十七斤、八兩、青苔卅斤、海松一百斤、海藻根一百斤、櫨子四合、鹿革卅張、

〔延喜式二十四主計〕石見國行程、上廿九日、下十五日、

調庸並輸綿、中男作物紙、紅花薄鰒雜腊紫菜、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥〇中略

石見國十四種　前胡一斤四兩獨活、伏苓各六斤、牛膝栝樓、白朮各三斤、藍漆一斤十五兩、黃蘗四斤、細辛當歸各十五斤、桑螵蛸九兩、射干一斤、署預一斗二升、蜀椒三斗五升、

〔毛吹草三〕石見

白蜜　防風　檳柱　銀　千カサノ錫鉛　濱田折敷　高津白黑碁石

人口

〔官中秘策四〕石見國　六郡〇中略

一人數貳拾壹万九千五百拾貳人　內拾壹万貳千五百八拾三人　男　拾万七千五百貳拾九人　女

〇按ズルニ、此人口總數內譯ト合ハズ、恐ラクハ一誤アラン、

風俗
名所
雜載

〔吹塵錄人口及國高〕文化元甲子年諸國人數調○中略
御料私領
一人數貳拾四万五千貳百三人
　内拾貳万八千百六拾三人　男
　　拾壹万七千四拾人　女
　弘化三丙午年諸國人數調○中略
御料私領
一人數貳拾三万六千九百六拾三人
　内拾貳万貳千八百七拾八人　男
　　拾壹万四千八拾五人　女
〔人國記〕石見國
石見國之風俗ハ、丹後ノ國ニ不異而、僞計ニテ實アル人稀也ト可知、是モ隼鷹ハ吉シ、人ノ風俗曾テ不可好也、實有人ハ千人ニ一人モ稀也、智有人ハ日々夜々ニ惡心ヲ挾、言語道斷ト可知、
〔日本鹿子十一〕同國○石見中名所
石見海　潟あり、石見川渡の山ちかし、○中略
高角山　人丸の古跡あり、社有て西向の所也、うみべ也、松むら〳〵有之、砂の吹上山あり、○中略
高田山　高馬山　屋代山　など云名所あり○中略
比禮振岑
〔延喜式二十兵部八〕諸國健兒○中略　石見國卅人○中略
諸國器仗○中略　石見國甲二領、横刀五口、弓十張、征箭十具、胡籙十具、
　高拾四万貳千四百九拾九石餘　石見國
　高拾七万貳千貳百九石餘　石見國

隱岐國

隱岐國ハ、オキノクニト云フ、山陰道ノ海中ニ在リ、出雲ノ正北ニ位シ、四個ノ島嶼ヨリ爲ル、

名稱

知夫島、西島、中島ノ三小島ヲ島前ト云ヒ、其東北ニアル一島ヲ島後ト云フ、此國ハ古ヘ國府ヲ周吉郡ニ置キ、知夫、海部、周吉、穩地ノ四郡ヲ管シ、延喜ノ制、下國ニ列ス、明治維新ノ後、島根縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕隱岐　於岐
〔運歩色葉集遵〕隱岐四　隱州
〔日本風土記一寄語島名〕隱岐　和計
〔易林本節用集下〕隱岐、隱州　下、管四郡、四方二日、五穀乏、藻薑多、以鮑稱名也、小下國也、
〔和漢三才圖會七十八隱岐〕當國伯耆出雲石見等海澳所在島也、故爲澳置州、後改用隱岐字、
〔日本書紀纂疏上二〕億岐者奥之義五音相通、此洲在北海之西北、如人家之有奥、言奥深也、
〔倭訓栞前編四十五於〕おき　隱岐國は北海山陰道の澳中にある國也、神代紀に億伎三子洲といへるは、知夫島前國府如し、
〔古事記上〕於是伊邪那岐命○中略　妹伊邪那美命○中略　如此言竟而御合生子、○中略　次生隱伎之三子島、亦名天之忍許呂別、許呂二字以レ音
〔古事記傳五〕隱伎之三子島下には游岐島と書り、名義は海原の奥中にある島と云なり、書紀口決に、奥也、西北之隅謂二之奥一とあるは、似たることなから、漢書にかゝれる祕に事違へり、纂疏の說も同じ、今國圖を考るに、まづ此國四島に分れたる、其中に東北ノ方に在て大きなるを、俗に島後と云ヒ其西南ノ方に今ノ道五里ばかり離れて天之島、向之島、知夫島とて三ツあり、此三島を統て島前と云なり、島後に比ぶれば、いづれも小し、三子とは、まことに此を以て云なるべし、
〔諸國名義考下〕隱岐
和名抄に隱岐於岐、國府在二周吉郡一、名義は日本紀纂疏に、隱岐者奥之義也云々、此洲在二北海之西北一とあり、或

書に、當國在伯耆出雲石見等之沖國也、故曰隱岐國云々など云る義なるべし、夫木集に、立浪に鼓の音を打そへてから人よせぬ澳の島守などよめり、

位置

〔地勢提要(乾)〕各國經緯度 附里程

隱岐前島知夫里村、極高三十六度三十秒、經度西二度四十一分半、從出雲三保關渡海直徑一十四里二町、前同○從東都至三保關渡海直徑一十八里三十四町三十二間、

同島後都万村、極高三十六度一十三分、經度西二度二十九分半、從三保關渡海直徑一十七里二十一町、前同○從東都二百五十二里一十七町三十二間、

疆域

〔日本經緯度實測〕東西里差○此國北極出地不載

山城　京　○度○○分○○秒○略中

隱岐　島前　西二度四一分一二秒

島後　西二度二三分一八秒

〔隱州視聽合記一國代記〕隱州在北海中故隱岐島按倭訓海中言其在異地言島前也知夫郡海部郡屬遠幾故名歟焉、其府者周吉郡南岸西鄉豐崎也、從是南至雲州美穗關三百十五里、辰巳至伯州赤崎浦四十里、未申至石州温泉津五十八里、自子至卯無可往地、戌亥間行二日一夜有松島、又一日程有竹島、俗言礒竹島、多竹魚海鹿、此二島無人之地、見高麗如自雲州望隱州、然則日本之乾地以此州爲限矣、

〔日本地誌提要五十隱岐〕疆域　知夫島ハ出雲島根郡加賀浦ノ正北壹拾壹里三拾町ニアリ、周回六里三拾壹町壹拾九間、東西壹里壹拾五町、南北貳拾五町、西ノ島ハ東北一峽ヲ隔テ知夫島ニ對ス、周回貳拾里貳拾六町五拾六間半、東西三里貳拾町、南北貳里貳拾町、中ノ島ハ西島ノ東壹拾貳町ニアリ、周回壹拾六里貳拾壹町壹拾壹間、東西壹里三拾町、南北壹里貳拾四町、以上三島ヲ島前ト云、島後一島ハ中島ノ東北三里餘ニアリ、周回三拾里壹拾七町五拾四間半、東西四里、南北四里三拾町、島前海士郡知々井村ヨリ島後穩地郡都萬村ニ至ル、海上直徑四里三町、

〔日本實測錄十〕隱岐國知夫里郡　實測　波嘉島周廻一十六町五十一間、竹島周廻二町四十間、島津島周廻二十九町五十一間、淺島周廻八町二十五間、カン島周廻八町五間、大桂島周廻四町五十三間、遠測　小波嘉島　渡リガミ　ワスゲ　ヲトリカケ　離島　ウテ島　辨天島　俵島　小桂島　見付島　大島　冠島　星神島　立島 宇賀村　立島 別府村

海士郡　實測　ヒイヨ島周廻八町二十九間、松島 又呼二山一周廻一里九町四十四間、遠測　井島　自島　小森島　二股島

越智郡　實測　大森島周廻一十五町五十七間、四敷島周廻五町四十二間、遠測　小ウツ　大ウツ　東桂島　西桂島　音部島　桂島　黑島　立島　松島　辨天島　烏帽子島

周吉郡　實測　松島周廻一十町一十九間、長島周廻五町二十五間、遠測　赤豆島　松島 加茂村　赤島 箕浦村　鼠島　女龜島　男龜島　經ヶ島　船島　立岩　鹿尾菜島　雀島 釜村　立岩　沖津之目島　前津之目島　大島　釣島　赤島 大久村　カビ島　クル島　松島 卯敷村　沖平　辨天島　シブ島　平島　松島 布施村　大黑島　小島　琴島　釜島　雀島 西村　小白島　田島　沖島　松島 西村　黑島 中村

地勢

〔笈埃隨筆八〕隱岐

隱岐の國は北海中の一國にして、島前島後東西に分れ、其間三里の渡口、潮勢迅速にして大河の逆卷が如し、

〔日本地誌提要五十隱岐〕形勢　出雲ノ正北ニ位シ、四島嶼ヲ以テ一州トナス、其三小島鼎立スル者ヲ島前ト稱シ、其東北一大島ヲ島後ト稱ス、中間礁嶼相接ス、地質犖确、

〔日本實測錄五〕隱岐國島前從出雲國島根郡三保關至隱岐國知夫里郡知夫村、渡海直徑一十四里二丁、

道路

島嶼

知夫里郡知夫里島知夫里村大江、三十六度三十秒、二里三町四十四間　竹島岬　二里一十七町五十七間（至二竹濱一二十五丁五十二間）　ハナレ岬　二里九町三十八間　知夫里村夫江　沿海周廻六里三十一町一十九間

同西之島浦之鄉村、三十六度五分半、三里三町五十八間　同赤灘浦　三里九町二十八間　同國川　二里三町二十間　美田村舟越北濱　三里二十一町五十八間　同舟越　三里一十一町六間半　美田村橋浦　一里二十三町三十二間半　宇賀村、三十六度六分半、三里一十一町六間半　宇賀村濟之浦　二里三十二町一十六間半　同舟越　二十九町一十七間　浦之鄉村　沿海周廻二十里二十六町五十六間半

海士郡中之島知々井村、三十六度四分半、三里三町四十九間半（至二長前崎一十五町一十二間）　崎村、三十六度二分半、四里八町四間半（至二飯加岬一里九丁五十四間）　福井村眞珍岬　二里三十五町五十九間（至二福井村一菱村一二十町半）　海士村北分　二里一十八町四十二間半（至二海士村一子一里一十丁五十一間半）　豐田村　三里二十六町三十五間半（至二知々井村一里七丁二十二間半）　知々井村　沿海周廻一十六里二十一町一十一間

以上三島總稱隱岐國島前、

隱岐國島後（從二島前海士郡知々井村一至二島後都万村一渡海直徑四里三丁、越智郡都万村、三十六度一十一分、三里三十三町五十二間半　北方村長尾田（至二北方岬一三丁七間）　一十八町三十六間　同福浦（至二福浦岬一三丁四十二間）　三十二町二十間半　北方村（至二烏帽子一操一九丁三十六間半）　一十七町四十九間　代村（至二鵜代岬一一丁一十間）　二十四町二十一間　代村吉浦（至二代村岬一丁四十五間）　六町一間　久見村（至二久見崎一五丁三十六間）　一里二十八町五十五間半（至二伊後村西之浦一十三丁三十二間半）　周吉郡西村白島岬　一里一十六町五間　中村濱（至二中村宿所一五丁五間）　一里二十町七間　飯美村（至二飯美岬一三丁三十間）　二里四町四十二間　印敷村辨天岬　二里九町五十一間　犬來村斗大崎　二里三町

建置沿革

五十八間　津井村　二里二十一町一十九間半（至二東鄉村一四丁五十七間）　矢尾村、三十六度一十二分、（至二目貫村一四丁五十間）　一里四町一十一間　今津村（至二岸濱村一三丁三十六間半）　岸濱村、三十六度一十分、一十三町五町五間　箕浦村（至二高取小崎一四丁四十間）　二里一十四町一十五間半　蛸木村、三十六度九分半、二里二十六町五間　越智郡都万村　沿海周廻三十里一十七町五十四間半

〔日本國郡沿革考三陰道〕隱岐　古作二淤岐島一、或隱伎、古事記　意岐、國造　下國管四郡、六十一村、

海士（八村延喜式等作二海部一）　知夫里（五村延喜式等作二知夫一）　越智（十六村延喜式等作二隱地一、和名抄作二隱地一）　周吉（スキ三十二村古府治）

〔日本地誌提要五隱岐〕沿革　古ヘ國府ヲ周吉郡ニ置、府址八尾村ノ西ニアリ　建久四年、源頼朝全島ヲ以テ佐々木定綱ニ授ク、尋テ其弟義清ヲシテ、出雲守護ヲ以テ兼領セシム、承久三年、後鳥羽法皇、北條義時ヲ討ジテ克タズ、義時、法皇ヲ島前海士郡海士村ニ遷シ、後十八年ニシテ崩ズ、元弘二年、北條高時、後醍醐天皇ヲ知夫郡別府村（或ハ同郡知夫湊、亦皇居ノ址アリト云、）ニ遷シ、義清ノ玄孫清高ヲシテ之ヲ監護セシム、明年、天皇伯耆ニ遷幸シ、王師四起シ、北條氏亡ビ、出雲守護鹽冶高貞ヲシテ守護ヲ兼テシム、高貞讒死ノ後、足利尊氏之ヲ佐々木高氏ニ加賜ス、正平中、山名時氏全島ヲ略取シ、之ヲ其孫氏之ニ傳フ、元中七年、將軍義滿氏之ノ封ヲ收メ、其弟滿幸ニ授ク、既ニシテ義滿滿幸ヲ誅シ、再ビ之ヲ高氏ノ孫高詮ニ賜フ、高詮、島ノ豪族隱岐氏（義清ノ裔孫）ヲ以テ守護代トシ、周吉郡宮田ニ居ラシム、大永天文ノ際、同族島前島後ニ分據シテ鬪爭ヤマズ、隱岐清政（甲尾（カフノヲ）古府ノ別稱）ニ城キ、援ヲ尼子經久ニ乞テ島内ヲ平定シ、終ニ其麾下ニ屬ス、孫爲清ニ至テ尼子氏亡ビ、毛利元就ニ附ス、永祿ノ末、尼子勝久恢復ヲ圖リ、故黨ヲ募ル、爲清之ニ應ジ、兵敗レテ自殺シ、其弟清家代リ立ツ、天正十年、從子經清ニ弑セラル、毛利氏ノ兵來リ伐チ、經清ヲ誅シ、成ヲ八尾ニ置キ、後吉川廣家ヲ分封ス、關原役畢リ、德川氏、廣家ノ封ヲ收メ、堀尾吉晴ニ加賜ス、孫忠晴卒シテ封絕ユ、京

國府
郡

極忠高之ニ代リ、嗣ナク國除シ、松平直政ニ命ジテ、島事ヲ管攝セシム、王政革新、鳥取藩ヲシテ之ヲ管セシメ、尋テ隱岐縣ヲ置、既ニシテ廢シテ大森縣ニ併セ、更ニ島根縣ニ併セ、又改テ鳥取縣ヨリ兼治ス、

〔先代舊事本紀十國造〕意岐國造

輕島豐明朝○應神御代、觀松彥伊呂止命五世孫十挨彥命定賜國造、

〔續日本紀二十淳仁四〕天平寶字六年四月庚戌朔、外從五位下下道朝臣黑麻呂爲隱岐守、

〔吾妻鏡十三〕建久四年十二月廿日癸丑、佐々木左衞門尉定綱本地行之地悉返給、其上七箇國內、各被加一所於隱岐國者不交他人之沙汰、一圓拜領地頭職、

〔倭名類聚抄五國郡〕隱岐國　國府在周吉郡、行程上十五日、下十八日、

〔隱州視聽合記二周吉郡〕西鄉　西鄉ノ古府ハ矢尾村ノ西、下西村之東、其山ヲ甲ノ尾ト云所、謂庄野五郎ガ古城ナリ、松杉參差トシテ九折三四町、諒ニ天府ノ要害ナリ、今ハ此地ニ八幡宮ヲ奉ズ、

〔倭名類聚抄五國郡〕隱岐國○略　註　知夫　海部　周吉　隱地

〔延喜式二十民部〕隱岐國、下、管　知夫（チフリ）　周吉（スキ）　海部（アマベ）　穩地（オンチ）　右爲遠國、

〔易林本節用集下〕隱岐（隱州）下管四郡、○中略　知夫（チフリ）、海部（アマベ）、周吉（スキ）、穩地（オンチ）、

〔郡名考〕官用ヒル今ノ郡名

隱岐四郡　海士（アマ）　知夫里（チフリ）　大本濁無　越知（エチ）　周吉（シユキツ）

〔皇國郡名志〕隱岐國四郡

知夫（チフリ）　●知夫　△黑木御所後醍醐帝行在一郡ノ小島也

周吉（スキ）　●湊　●府中　●津井　東南北ニ出張ル

海部（アマベ）　●北方　△後鳥羽帝古跡同社一郡ノ小島也

隱地（オンチ）　●都方　西海ニ向

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ

知夫郡
海部郡
周吉郡
隱地郡

參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕隱岐

六國史	古書	延喜式	倭名抄	拾芥抄	諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
		知夫（チフリ）	同	同	同元	知夫里（チブリ）	同	知夫（チブリ）	同	同
		周吉（スキ）	同	同	同元	海士（アマ）	同	同（アマ）	同	同
		穩地（オンチ）	隱地	穩地	越智元	越知（エチ）	越智	同	同	同
		同	同	同	同（シユキツ）元	同	同（スキツ）餘	同（スキ）	同	同
		隱地	穩地	越智	越知（エチ）	越智	同	同	穩地（ヲチ）	同
		越智元	越知（エチ）	越智	同	同	同	同（アマ）	同	同
		越知（エチ）	越智	同	同	同	同	知夫（チブリ）	同	同
		穩地（ヲチ）	同	同	同	同	同	同	同	同
管四	同	四郡	同	同	同	同	同	同	同	同

〔東大寺正倉院文書三十四〕隱伎國正稅帳○天平元年

周吉郡天平元年見定稻穀玖伯壹拾捌斛參斗伍升玖合○中略

〔東大寺正倉院文書三十四〕隱伎國正稅帳（繼目裏書）

隱岐國正稅收納帳大初位上行目縣犬養宿禰大萬侶天平五年二月十九日

智夫郡天平三年正稅穀簸振量定肆仟玖伯伍拾漆斛○中略

郷
村里名邑

海部郡天平三年正税穀簸振量定漆仟參伯陸拾伍斛壹斗漆升漆夕壹撮○中略
周吉郡天平三年正税穀簸振量定玖仟壹伯玖拾斛玖斗玖升貳合肆夕捌撮○中略
役道郡天平三年正税穀簸振量定肆仟壹伯壹拾貳斛貳斗玖升陸合參夕肆撮

〔日本後紀八桓武〕延暦十八年五月丙辰、前遣勃海使外從五位下内藏宿禰賀茂麻呂等言、歸郷之日、海中夜暗、東西掣曳、不ㇾ識ㇾ所ㇾ著、于時遠有ㇾ火光、尋ㇾ逐其光、忽到ㇾ島濱、訪之是隱岐國智夫郡、其處無ㇾ有ㇾ人居、或云、比奈麻治比賣神常有ㇾ靈驗、商賈之輩、漂ㇾ宕海中、必揚ㇾ火光、賴ㇾ之得ㇾ全者、不ㇾ可ㇾ勝數、神之祐助、良可ㇾ喜報伏望奉ㇾ預幣例、許之、

〔續日本後紀十仁明〕承和九年九月乙巳、隱岐國智夫郡由良比賣命神、海部宇受加命神、穩地郡水若酢命並預官社、

〔倭名類聚抄八隱岐國〕知夫郡　宇良　由良　三田美多
海部郡　布勢　海部末安佐作
周吉郡　賀茂　奄可安加無　新野爾比乃
隱地郡　都麻　河内加知無　武良

〔吾妻鏡二十五〕承久三年八月五日丙辰、三皇○三皇恐上皇誤、即後鳥羽上皇、遂著御于隱岐國阿摩郡苅田郷仙宮者、改ㇾ翠帳紅閨於柴扉桑門、所者亦雲海沈沈而不ㇾ辨ㇾ南北者、無ㇾ得ㇾ雁書青鳥之便、烟波漫々而迷ㇾ東西之故也、不ㇾ知銀兎赤烏行度、只離宮之悲、城外之恨、增惱ㇾ叡念御斗也云云、

〔郡名一覽〕一隱岐國　隱州　四方二日　四郡
高壹万貳千百六拾五石貳斗三合
但一圓松江御預所　六拾壹ヶ村
△山島　百十七里

○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

田數
石高

〔郡國提要〕隱岐　四郡、六十一村、
高一万二千五百五十九石六斗
御料
海士郡八村　知夫里郡五村　越智郡十六村　周吉郡三十二村

〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名
隱岐　越智郡、都萬（ツマ）村、周吉郡、卯敷（ウツキ）村、犬來（イヌキ）村、津井村、飯美（イビ）村、

〔倭名類聚抄五國郡〕隱岐國○註略　管四田五百八十五段三百四十二歩
〔伊呂波字類抄於國郡〕隱岐國管四（中略）本田（田下恐脱ニ六字）百廿四町

〔海東諸國記〕隱岐州　郡四、水田五百八十四町九段、

〔拾芥抄中末本朝國郡〕隱岐（下遠）四郡（中略）田六百廿四町

〔日本鹿子十一〕隱岐國四郡、小下國、四方二日、知行高壹万千八百石、

〔官中秘策四〕隱岐國　四郡○中略

出擧稻

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調○中略
隱岐國御料　一高壹万貳千五百五拾九石六斗

國產貢獻

〔郡名一覽〕皆御料。　隱岐　飛彈　佐渡　合三ヶ國

〔延喜式二十六主税〕諸國出擧正税公廨雜稻○中略
隱岐國正税二万束、公廨四万束、國分寺料五千束、文殊會料一千束、修理池溝料三千束、救急料一千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕隱岐國○註略　管四（中略）正二萬束、公四萬束、本類七萬束、雜類萬束、

〔延喜式二十四主計〕隱岐國（行程上卅五日下十八日、）

調、御取鰒、短鰒鳥賊、蒸海鼠、鮨腊、雜腊、紫菜、海藻、島蒜、庸、輸布、中男作物、雜腊、紫菜、

〔毛吹草三〕隱岐

和布　串鮑　鯣　海馬　灯松　桐板（島ノ桐ヲ云テ木ノ目宜シ）　桑板

〔倭訓栞（中編三十）〕おきろく　隱伎緣とかけり、緑青にて畫具に用う、いにしへ隱伎國の產を佳とせしにや、奈良の大佛の腹中はこれをもて埋たりといふ、今東大寺の寶藏にあり、

人口

〔隱州視聽合記（三島後紀）〕島後中　男五千六百二人　女五千五百六拾四人　僧百六人　合壹萬千二百七拾貳人

〔隱州視聽合記（四島前紀）〕島前　男二千二百八拾八人　女二千二百九拾一人　僧五十人　合四千六百三十九人也

〔官中秘策（四）〕隱岐國　四郡（略）（中）

一人數壹万八千九百三拾壹人　内　九千五百貳拾九人　男　高壹万貳千百六拾五石餘　隱岐國

〔吹塵錄（五）〕人口及國高（文化元子年）〕諸國人數調

一人數貳万千六百六拾人（皆御料）

内　壹万八百八拾貳人　男
壹万七百七拾八人　女（○中略）

諸國人數調（弘化三丙午年）（○中略）

一人數貳万六千貳百八人（皆御料）

内　壹万三千貳百六拾壹人　男
壹万貳千九百四拾七人　女

〔人國記〕隱岐國

隱岐國之風俗柔弱ニ而放逸成國也、知夫利之郡之者ハ實儀ニシテ賴布所有、海部周吉穩地之郡ハ風ニ從草之如ク、善ニモ惡ニモ否ト不ㇾ謂而相從之風儀也、遠島ナレドモ石州ヨリハハルゝ

風俗

名所

上也、

〔日本鹿子（一）〕同國（○隱岐）中名所

鞍ヶ嵩　海邊知夫の郡のうちに有山也（略）（○中）

隱岐の海　小島とも云（略）（○中）

松山　三島など云名所あり

雜載

〔延喜式（二十兵部）（八略）〕諸國健兒（○中略）　隱岐國卅人（略）（○中）

諸國器仗（○中略）　隱岐國（横刀四口、弓十張、征箭十具、胡籙十具、

古事類苑

地部二十五

播磨國

名稱

播磨國ハ、ハリマノクニト云フ、山陽道ニ在リ、東ハ攝津、西ハ備前、美作、北ハ因幡、但馬、東北ハ丹波ニ接シ、南ハ海ニ至ル、東西凡ソ二十里、南北凡ソ十四里餘アリ、此國ハ古ヘ國府ヲ飾磨郡ニ置キ、明石(アカシ)、賀古(カコ)、印南(イナミ)、飾磨(シカマ)、揖保(イヒボ)、赤穗(アカホ)、佐用(サヨ)、宍粟(シヽサハ)、神崎(カムサキ)、多可(タカ)、賀茂(カモ)、美嚢(ミナキ)ノ十二郡ヲ管シ、延喜ノ制、大國ニ列ス、後世飾磨ヲ分チテ飾東、飾西ト爲シ、賀茂ヲ分チテ加東、加西ト爲シ、神崎ヲ分チテ神東、神西ト爲シ、揖保ヲ分チテ揖東、揖西ト爲シ、總テ十六郡ト爲ス、明治維新ノ後、飾東、飾西、神東、神西、及ビ揖東、揖西ノ各二郡ヲ合セテ其舊稱ニ復シ、新ニ姫路市ヲ設ケ兵庫縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五郡〕播磨波里萬

〔運歩色葉集葉〕幡磨(ハリマ)　幡州

〔日本風土記一寄語島名〕播磨法里馬(ハリマ)

〔和漢三才圖會七十七播磨〕播磨、本用二針間或張祭字一、而景行天皇立二播磨稻日大郎姫一爲二皇后一、(日本武尊之母)今單用二播磨字一、爲二山陽道八箇國之首一、

〔倭訓栞前編二十四波〕はりま　播磨と書り、古事記に針間と見ゆ、新猿樂記に播磨針といひ赤染衞門集に、はりまより來る人、針をおこせてと見えたれば、針によれる名なるべし、相撲の手にはり

まなげあり、

〔古事記中垂仁〕爾遣二山邊之大鷦一（此者人名）令レ取二其鳥一、故是人、追二尋其鵠一、自二木國一到二針間國一、

〔古事記傳二十一〕針間○中略國名義は、此國風土記に、萩原里、土中有レ井、所二以名一萩原一、息長帶日賣命、韓國還上之時、御船宿二於此村一、一夜之間、生二萩根一、高一丈許、仍名二萩原一、卽闢二御井一、故云二針間井一、とあり、是に國名の始とは謂ざれども、云二針間井一、とあるは、何とかや國名も是より出たりげに聞ゆ、若然らば榛木に由れる名なり、又谷川氏云、（中略針によれる名なるべしと云り、是も捨がたし、上代より針を出しゝことも知がたし、）

〔豐鑑一長濱眞砂〕天正五年十月、播磨の國を信長より秀吉に預給へば、彼國へ行向ぬ、東幡はみな隨ひつきし中にも、小寺官兵衞はもとより心ざしふかゝりけり、西幡佐用上月の輩などはあふがざりければ彼輩に軍を向○下略

〔日本書紀十一仁德〕十六年七月戊寅朔、天皇以二宮人桑田玖賀媛一示二近習舍人等一曰、朕欲レ愛二是婦女一、若二皇后之妬一不レ能レ合、以經二多年一、何徒棄二其盛年一乎、○中略於是播磨國造祖速待獨進之歌曰、溜箇始報、破利摩波挪摩智、以播區娜輸伽之古倶等望、阿例挪始儺破務、

〔釋日本紀二十五和歌〕溜箇如報（三日潮也、私記曰、師說三日之潮其沈急速、故欲レ讀二早待一之發語、置レ此言乎、）

〔地勢提要乾〕各國經緯度（附里程）

播磨姬路二階町、極高三十四度五十分半、經度西一度一分半、從二東都一（東海道西國海道）一百六十六里二十九町二十間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

播磨　高砂　三四度四五分○○秒

室津　三四度四六分三○秒

姬路　三四度五○分三○秒

赤穗　三四度四五分三○秒○中略

東西里差

位置

山城　京　○度○○分○○秒

疆域

〔名所方角抄〕播磨國分　美作はうしとらなり、北は山也、みなみは攝津の國より西なり、

〔日本地誌提要五十一播磨〕疆域　東ハ攝津、西ハ備前美作、北ハ因幡、但馬、東北ハ丹波、南ハ海ニ至ル、東西凡貳拾里、南北凡壹拾四里餘、

島嶼

〔日本實測錄九島嶼〕播磨國揖東郡　實測　家島（從二南岬一至二西岬一）周廻四里九町三十間、宮浦三十四度四十一分、太（フト）島周廻二里二十町三十一間、坊勢島周廻二里二十一町五十二間、高島周廻二十町二間、西ノ島周廻五里一十八町二十七間、松島周廻二十九町二十五間、長島（從二北岬一至二東岬一）九町、屋島周廻六町一十一間、遠測上島　鞍掛島　宇和島　加島　矢篦島　三頭島　黑フゴ島　高山　金子島　小松島　ヤケ島　揖西郡　實測　地唐荷（カラ）島周廻二町一十八間、沖唐荷島周廻四町三十五間、君島周廻三町五十二間、鍋（カツラ）島周廻八町二間、二子島周廻一町三十二間、野島周廻二町四十五間、取上島周廻一町四十九間、赤穗郡　實測　髮島　裸島　ヲコ島　桂島　小ツブラ島　大ツブラ島　生島周廻十四町二間、

〔播磨風土記賀古郡〕所二以號一稻墓一者、昔大帶日子命○景行詔二印南別孃一之時、○略○中略爾時印南別孃聞而驚畏之、卽遁二度於南毘都島一、○略○中略乃天皇知レ在二於此一、少島、卽欲レ度二對阿閉津一、○略○中略此津遂度相遇、勅云、此島隱愛妻、仍號二南毘都麻一、○略

〔播磨風土記印南郡〕郡南海中有二小島一、名曰二南毘都麻一、

〔播磨風土記揖保郡〕伊刀島、諸島之總名也、品太天皇○應神立二射目人於飾磨一、射目前爲レ狩之、於レ是自レ我馬野一、出二牡鹿一、過二此阜一、入二於海一、泳渡於伊刀島一、爾時翼人等望見相語云、鹿者既到二就於彼島一、故名二伊刀島一、

地勢

○中略

雀島、所以號雀島者、雀多聚於此島、故曰雀島、（不レ生草木）○中略

家島、人民作レ家而居之、故號家島、（生竹葦等）

神島、伊刀島等、所以號神島者、此島西邊在石神、形似佛像、故因爲名、○中略

韓荷島、韓人破レ船所レ漂之物、漂就於此島、故號韓荷島、

高島、高勝於當處島等、故號高島、

〔易林本節用集、下〕播磨（播州）大管十四郡、四方三日半、土暖不見霜雹、絹布紙帛多、衣食足、大上國也、

〔孔雀樓文集、四〕靜好室記

五播距京師二百餘里、居山陽上游、面海背山、沿海一帶三百餘里、三藩封焉、西北又多侯藩、而邑之屬於官有司者、相接其中、氣候適均、山水秀麗、其壤膏、其田腴、斧於山煮於海、地四通五達、豪農巨商居焉、唯其海陸形便、穀貨所殖、是以藩封之外、巨聚大邑、應接不遑、官道官驛之外、路之夷而理者、屋之修而潔者、隨處而在、唯其生理饒資奉足、是以驕與奢不期然而然、素封之家、土木服玩、聲色飲食是競者有焉、評穀評金、億巨萬財、聚散於一呼吸者有焉、卽使其中有緣飾詩書者、或以多諸技藝聞者、○下略

道路

〔日本實測錄、四街道〕從攝津國西宮中國街道（至赤間關○中略）

播磨國明石郡大藏谷、三十四度三十九分、一町五十八間（至明石城大手前、九丁二十九間）明石東樽屋町　一里一十六町一十一間半　大久保町、三十四度四十一分、三里二十三町一十三間半　加古郡加古川驛　一里三町三十四間半　印南郡魚橋村（歷石寶殿、至曾根天神社、一里三丁二十九間半）　二里二十九町三十五間　飾東郡姬路國府寺町　二町二十七間　同大黑町　九町四十五間（至姬路城大手前、九丁四十間）　同本町（至飾万津英加町、一里一十七間）　一町二十一間　同竪町、三十四度五十八分半、一里六町二十一間半　飾西郡下手野村　三里三町二間半　正條宿（至室津二

里二丁　一十九町五十七間半　揖西郡一町五十四間　有年宿、三十四度五十分、三里一町四十一間半（至國界一里二十六丁二十八間）

郡三石村○中略

從但馬國和田山歷生野至仁豐野○中略

播磨國神西郡眞弓村　三十町一十八間　多河郡猪篠村（又呼上野）　一里三十四町四十八間　神東郡粟賀町村　一十一町三間　福本　一里一町五十四間　屋形村　二里一十四町六間　神西郡福崎新村（又呼新町）　二里六町一十五間　仁豐野村市川岸（從和田山街道至仁豐野）　街道、通計一十四里二十一町三十間半、○中略

從丹波國栢原歷酒見及仁豐野至姬路○中略

播磨國多河郡中村町、三十五度二分半、二里一十七町二十七間（至糀屋町一十四丁二十七間）　加西郡明樂寺村　一里一十四町六間　殿原村（部至上野村磯部神社七丁）　一里四十五間　市場村、三十四度五十六分、二町二十七間　寺內村加西町（又呼酒見北條鄉、歷酒見神社、至酒見寺二丁五十七間）　三里四町一十二間（至山下村一里五丁二十四間從山下至市川岸一里三町三十九間　飾東郡東中島村（歷白國村及廣領、至書寫山東坂本村宿所、一里八町四十三間、北極高三十四度五十三分、從坂本至又從白國村至白國神社七丁五十四間）　二十四町九間半　姬路大黑町（從栢原至姬路）街道通計一十五里一十町五十四間半○中略

從攝津國瀨川歷有馬至坂本○中略

播磨國加東郡清水寺　二十九町五十四間半　上鴨川村、三十四度五十九分、二里一町一十五間　上三草　三十二町二十三間半　社村　二里一十二町一十六間半　加西郡繁昌村、三十四度五十四分、一里三十町八間　法華山坂本村（從瀨川至坂本）街道、通計二十三里三十二町四十五間半、

從攝津國湯山歷坂本至姬路○中略

播磨國美嚢郡淡河町　三里一十一町五間、至三木下町限七丁三十二間、加東郡太郎太夫村至小野陣屋一十五丁一十八間、一里九町四十四間半　印南郡國包村　三里二十三町五十七間至一本松新村一里二十七丁五間、加西郡法華山村坂本村、三十四度五十二分、二十八町六間　印南郡畑村野深　二里一十四町五十通計一十七里三十三町二間、

從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田

播磨國神西郡福崎新村又呼新町一里二十三町九間　飾西郡前之庄村　二里一十五町二十九間半至野畑村一里二十一町半、　宍粟郡安志至林田本町從本町至追分村二里一十六丁六間、一里一十一町四十八間　山崎本町　三里一十五町三十九間至山崎西新町限四　三町又呼山田町至須行名村一宮伊和神社三里一町四十二間　一十町　下三河村　一里三十一町一十八間　四十二間　平福村南新町　二里三十一町二十一間至平福北新町限七丁一十八間、北極高三十四度五十二分半、從上郡至原村一里一十六丁六間、美作國吉野郡辻堂村○中略

從播磨國手野歷津山及米子至松江

播磨國飾西郡下手野村　二十町四十一間　飾西村、三十四度五十一分半、一里一十七町三間　揖東郡追分村　三十四町四十八間　嘴崎宿村至龍野横町二十九丁三十三間、北極高三十四度五十二分半、從横町至正條宿一里九丁三十一町一　揖西郡千本村、三十四度五十六分半、一里三十二町一十八間至三日月上町一里二十九丁四十八間　佐用郡三日月中町　一十六町六間　乃井野至乃井野陣屋汎測五町　一里三町　下德久村　三十四町二十九間半至佐用宿三十五度、至佐用都比賣神社一里一十一町　佐用宿所、三里三十五丁六間、北極高三十一町一十六丁五十七間、三木上町　二里三町四十三間　印南郡國包村　三里二十三町五十七間至一本松新村一里二十七丁五間、加西郡法華山村坂本村、三十四度五十二分、二十八町六間　印南郡畑村野深　二里一十四町五十通計一十七里三十三町二間、

從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田

播磨國神西郡福崎新村又呼新町一里二十三町九間　飾西郡前之庄村　二里一十五町二十九間半至野畑村一里二十一町半、　宍粟郡安志至林田本町從本町至追分村二里一十六丁六間、一里一十一町四十八間　山崎本町　三里一十五町三十九間至山崎西新町限四　三町又呼山田町至須行名村一宮伊和神社三里一町四十二間　一十町　下三河村　一里三十一町一十八間　四十二間　平福村南新町　二里三十一町二十一間至平福北新町限七丁一十八間、北極高三十四度五十二分半、從上郡至原村一里一十六丁六間、美作國吉野郡辻堂村○中略

從播磨國手野歷津山及米子至松江

播磨國飾西郡下手野村　二十町四十一間　飾西村、三十四度五十一分半、一里一十七町三間　揖東郡追分村　三十四町四十八間　嘴崎宿村至龍野横町二十九丁三十三間、北極高三十四度五十二分半、從横町至正條宿一里九丁三十一町一　揖西郡千本村、三十四度五十六分半、一里三十二町一十八間至三日月上町一里二十九丁四十八間　佐用郡三日月中町　一十六町六間　乃井野至乃井野陣屋汎測五町　一里三町　下德久村　三十四町二十九間半至佐用宿三十五度、至佐用都比賣神社一里一十一町　佐用宿所、三里三十五丁六間、北極高三十一町一十六丁五十七間、三木上町　二里三町四十三間　印南郡國包村　三里二十三町五十七間至一本松新村一里二十七丁五間、加西郡法華山村坂本村、三十四度五十二分、二十八町六間　印南郡畑村野深　二里一十四町五十通計一十七里三十三町二間、

從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田

播磨國神西郡福崎新村又呼新町一里二十三町九間　飾西郡前之庄村　二里一十五町二十九間半至野畑村一里二十一町半、　宍粟郡安志至林田本町從本町至追分村二里一十六丁六間、一里一十一町四十八間　山崎本町　三里一十五町三十九間至山崎西新町限四　三町又呼山田町至須行名村一宮伊和神社三里一町四十二間　一十町　下三河村　一里三十一町一十八間　四十二間　平福村南新町　二里三十一町二十一間至平福北新町限七丁一十八間、北極高三十四度五十二分半、從上郡至原村一里一十六丁六間、美作國吉野郡辻堂村○中略

從播磨國手野歷津山及米子至松江

播磨國飾西郡下手野村　二十町四十一間　飾西村、三十四度五十一分半、一里一十七町三間　揖東郡追分村　三十四町四十八間　嘴崎宿村至龍野横町二十九丁三十三間、北極高三十四度五十二分半、從横町至正條宿一里九丁三十一町一　揖西郡千本村、三十四度五十六分半、一里三十二町一十八間至三日月上町一里二十九丁四十八間　佐用郡三日月中町　一十六町六間　乃井野至乃井野陣屋汎測五町　一里三町　下德久村　三十四町二十九間半至佐用宿三十五度、至佐用都比賣神社一里一十一町　佐用宿所、三里三十五丁六間、北極高三十一町一十六丁五十七間、三木上町　二里三町四十三間　印南郡國包村　三里二十三町五十七間至一本松新村一里二十七丁五間、加西郡法華山村坂本村、三十四度五十二分、二十八町六間　印南郡畑村野深　二里一十四町五十通計一十七里三十三町二間、

從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田

播磨國神西郡福崎新村又呼新町一里二十三町九間　飾西郡前之庄村　二里一十五町二十九間半至野畑村一里二十一町半、　宍粟郡安志至林田本町從本町至追分村二里一十六丁六間、一里一十一町四十八間　山崎本町　三里一十五町三十九間至山崎西新町限四　三町又呼山田町至須行名村一宮伊和神社三里一町四十二間　一十町　下三河村　一里三十一町一十八間　四十二間　平福村南新町　二里三十一町二十一間至平福北新町限七丁一十八間、北極高三十四度五十二分半、從上郡至原村一里一十六丁六間、美作國吉野郡辻堂村○中略

從播磨國手野歷津山及米子至松江

播磨國飾西郡下手野村　二十町四十一間　飾西村、三十四度五十一分半、一里一十七町三間　揖東郡追分村　三十四町四十八間　嘴崎宿村至龍野横町二十九丁三十三間、北極高三十四度五十二分半、從横町至正條宿一里九丁三十一町一　揖西郡千本村、三十四度五十六分半、一里三十二町一十八間至三日月上町一里二十九丁四十八間　佐用郡三日月中町　一十六町六間　乃井野至乃井野陣屋汎測五町　一里三町　下德久村　三十四町二十九間半至佐用宿三十五度、至佐用都比賣神社一里一十一町　佐用宿所、三里三十五丁六間、北極高三十一町一十六丁五十七間、

十八間至國界方能峠一里一十七丁二十四間　美作國英田郡土居町〔日本實測錄一沿海〕從大坂沿海至赤間ヶ關○中略

播磨國明石郡大藏谷　五里二十二町五十六間　加古郡高砂南濱町至北木町一十一間、北極高卅四度四十五分、七町五十六間至燈明堂二町　高砂浦至洲崎一十六町四間　二十町三十間　同堀切川口至南濱町燈明堂二十七間　荒井村十町三十九間半　印南郡的形村磯至小島一十町七間、北極高三十一町四十九間　乃井野村十町三十一間半　飾東郡飾万津至英賀町一十二町四十二間　揖西郡苅屋村歷稻富村至伊津村、三十四度五十一分、一里一十二町四間至揖保川口八町　揖西郡苅屋村歷稻富村至伊津村、三十四度五十一分、一里一十二町四間至揖保川口八町　揖西郡苅屋村歷稻富村至伊津村、三十四度五十一分、一里一十二町四間至揖保川口八町　揖西郡苅屋村歷稻富村至伊津村、三十四度五十一分、一里一十二町四間至揖保川口八町

二間至伊津村一里三町二十五間半、從伊津村至室津カタコシ二十三町五十七間、室津大浦歷野瀨村至相生一里一十一町二間　室津大浦歷野瀨村至相生一里一十一町二間　室津大浦歷野瀨村至相生一里一十一町二間　室津大浦歷野瀨村至相生一里一十一町二間

二里三十五町二十五間　揖東郡新在家村至餘子濱村一十一町一十七間、北極高三十四度五十一分、相生浦、三十四度四十八分半、一里九町一十一間半、三里一十七町四十一間至ホフシ岬一里十五町一十七間　新濱浦三十四度四十四分半、二里二十九町四間至金崎一里十二町半　赤穗郡室津中之町、三十四度四十六分半、歷高野村至坂越浦、一里一十六町　佐方浦歷高野村至坂越浦、一里六町一十五間半、從坂越至加里屋一里六町一十三間　坂越浦至街道五町一十九間　一里三十五町四十二間至新宮横町二十八町一十二間　眞木村至備前國和氣郡福浦村一十六町三間半、北極高三十四度四十五分半、從福浦至寒河村徑測一里八間、四十六町四十二間至織方村一里八町　鳥撫村至鹽濱徑測六町四間半　二十二町一十九間、從國界至備前國和氣郡日生村鬼村

〔延喜式二十八兵部〕諸國驛傳馬○略

播磨國驛馬明石廿疋、賀古卅疋、草上、大市、布勢、高田、野磨各廿疋、越部中川各五疋、

〔續日本紀三十二光仁〕寶龜四年二月己未、先是播磨國言、飾摩郡草上驛戸便田、今依官符捨四天王寺、

宿驛

〔續日本後紀八仁明〕承和六年二月戊寅、播磨國印南郡佐突驛家依舊建立、

〔太平記四〕備後三郎高德事附吳越軍事

臨幸餘ニ遲カリケレバ、人ヲ走ラカシテ、是ヲ見スルニ、警固武士、山陽道ヲ不レ經、播磨今宿ヨリ山陰道ニカヽリ、還幸成奉ケル間、高德ガ支度相違シテケリ、

〔太平記八〕摩耶合戰事附酒部瀨河合戰事

天運ノ助ニヤ懸リケン、何レモ無ㇾ恙シテ、御方ノ勢ノ小屋野ノ宿ノ西ニ、三千餘騎ニテ引ヘタル、其中ヘ馳入テ、虎口ニ死ヲ遁レケリ、六波羅勢ハ昨日ノ軍ニ敵ノ勇銳ヲ見ルニ、小勢也トイヘドモ、欺キ難シト思ケレバ、瀨河ノ宿ニ引ヘテ進ミ得ズ、〇略中赤松三千餘騎ニテ敵ノ陣ヘ押寄テ、先ヅ事ノ體ヲ伺ヒ見ニ、瀨河ノ宿ノ東西ニ、家々ノ旗二三百流、梢ノ風ニ翻シテ、其勢二三萬騎モ有ント見ヘタリ、

〔日本國郡沿革考三山陽道〕播磨　古作針間（姓氏錄、國造記、風土記云、息長帶日賣命從韓國歸、宿於針間、其夜聞萩忽生高一丈許、仍名其里曰萩原里、就其地之新國御井、謂之針間井、）

大國管十六郡、千七百九十六村、

明石百四十七村（清寧紀赤石、古明石國、見國造記、）　美嚢百五十七村（古針間鴨國、見國造記、延喜式等作賀古、）　加古九十九村（延喜式等作賀古、）　印南百十六村（古事記作伊那毘、萬葉集所謂伊奈美之海、皆此地、）　加東百五十一村（古事記、息長帶日賣命、征韓歸、宿於賀茂郡、後分爲東西、正德二年四月、令自レ今宜レ書賀東、而今仍作加東、）　加西百二十三村（延喜式等不レ載、說詳上文、）　飾西百七十七村（古飾磨郡爲府治、延喜式等載、後分爲東西、未レ詳レ在レ何時、上文、）　神東七十九村（延喜式等作神崎郡、後分爲東西、未レ詳レ在レ何時、）　飾東百七十一村（古揖保郡、延喜式等載、說詳上文、）　揖西百三十村（古揖保郡、延喜式等載、拾芥抄作揖穗、注東西、）　揖東百二十七村（延喜式等作賀茂郡、後分爲東西、拾芥抄作揖穗、注東西、）　赤穗百二十五村（延喜式等作赤穗郡、）　佐用八十七村（延喜式等作佐用郡、）　神西六十九村（說詳上文、）　完粟百四十村（延喜式等作完粟邑、見于智紀作狹夜天垂仁三年紀、蓋厥後建爲レ郡、）

〔日本地誌提要五十一〕沿革　古へ國府ヲ飾磨郡ニ置、今飾東郡姬路ノ東國府寺村ナリ、鳥羽天皇ノ時、源季房上ノ齋ヲ以テ州守ニ任ジ、子孫赤松莊赤穗郡ニ居ル、因テ赤松氏ト稱ス、源賴朝平氏ヲ滅シ、土肥實平、梶原景時ヲシテ、本州及美作三備ノ守護ヲ兼シム、建久四年、季房ノ曾孫赤松則景、州守ニ任ジ、守護トナリ、白旗城赤穗ニ治ス、建武中興、其玄孫則村、勤王ノ功ヲ以テ守護ニ補ス、尋テ事ニ坐シテ罷ラレ、之ヲ新田義貞ニ賜フ、則村遂ニ叛シテ足利尊氏ニ屬ス、義貞西征シ、則村ヲ白旗城ニ圍ミ、克タズシテ歸ル、尊氏則村ヲ以テ守護トナス、子則祐苦縄城赤穗郡ニ居リ、備前ヲ加封シ、其子義則又美作ヲ加賜シ、提封三州ニ跨カル、嘉吉元年、義則ノ子滿祐、將軍義敎ヲ弑シ、奔リテ城山城揖西郡ニ據ル、將軍義勝、諸將ニ命ジテ之ヲ誅シ、本州ヲ山名持豐ニ賜フ、應仁ノ亂、滿祐ノ從孫政則、細川勝元ニ黨シテ故封ヲ復シ、姬路ニ居ル、尋テ又置鹽飾西郡ニ城キ、之ニ徙リ、同族別所則治ヲシテ、三木ニ居シメ、東境八郡ヲ管シ、小寺豐職ヲシテ姬路ニ戍セシム、永正十七年、政則ノ嗣義村、其臣浦上村宗ニ弑セラレ、封疆日ニ蹙マル、享祿四年、義村ノ子晴政、村宗ヲ殺シテ故地ヲ復シ、置鹽ニ居ル、子義祐ニ至テ、國勢日ニ衰フ、天正五年、織田信長、豐臣秀吉ヲ本州ニ封ジ、西伐セシム、義祐ノ子則房款ヲ納レ、小寺政職備後ニ奔ル、別所長治獨秀吉ト相抗スル四年ニシテ亡ブ、秀吉則房ヲ阿波ニ徙シ、全州ヲ併セ姬路ニ治ス、十三年、木下家定ヲ姬路ニ封ズ、關原役畢リ、德川氏池田輝政ヲ全州ニ封ジ、姬路ニ治ス、元和三年、其孫光政ヲ因幡ニ移シ、本多忠政ヲ姬路ニ治ス、元和三年、其孫光政ヲ因幡ニ移シ、本多明石ニ松平直明、封ズ爾後龍野初小笠原長次、後脇坂安政、赤穗初池田輝興、後森長直、林田建部政長、小野一柳直次、山崎池田恒之、後本多忠英、三日月丹羽長興、安志小笠原長興、三草丹羽氏ノ八藩ヲ建テ、共ニ十藩、王政革新、福本藩ヲ置、島取ノ支封既ニシテ廢シテ縣トナシ、更ニ合併シテ姬路縣ヲ置キ、改テ飾磨ト稱ス、

〔先代舊事本紀十國造〕針間國造

志賀高穴穗朝御世成稻背入彦命孫伊許自別命定賜國造、

國府
郡

針間鴨國造
志賀高穴穗御世、上毛野同祖御穗別命兒市入別命定賜國造、
明石國造
輕島豐明朝〇應神御世、大倭直同祖八代足尼兒都彌自足尼定賜國造、
〔播磨名所巡覽圖會二〕播磨國は山陽道八州の首也、上古は飾磨郡より西を針間の國といひ、加茂郡多賀郡を鴨の國といひ、赤石郡加古郡印南郡などを明石の國といひて、三郡の國なりしを、後世十二郡に分ち、播磨を以て一國の名とす、〇下略
〔續日本紀四元明〕和銅元年三月丙午、正五位上巨勢朝臣邑治爲播磨守、
〔吾妻鏡三〕壽永三年二月十八日丁丑、武衞〇源頼朝被發御使於京都、是洛陽警固以下事所被仰也、又播磨〇中略〇土肥等遣專使、可令守護之由云云、
〔忠見集〕播磨のこうにやどれるに、時鳥のなくを、
誰をかはこうの山べのほとゝぎす草の枕にたび〳〵はなく
〔倭名類聚抄五國郡〕播磨國〇略〇註明石安加志賀古印南伊奈飾磨國府揖保伊比保阿加佐用與完粟志佐神埼加無佐岐多可賀茂美嚢美木奈
〔延喜式二十二民部〕播磨國、大管明石賀古揖保賀茂神崎多可飾磨印南賀茂東西飾磨府揖穗東西赤穗佐用右爲近國、
〔拾芥抄中末本朝國郡〕播磨大近
十四郡　明石　賀古　揖保　赤穗　佐用　完粟　神崎　多可　賀茂　美嚢〇中略
揖西　揖東
〔峯相記〕又問云、郡郷田地ノ様御存知候哉、答云、〇中略郡ハ元ハ十二郡今十七郡ト申ス、元ハ明石、賀古印南飾磨揖保神崎赤穗佐用宍粟多可加茂美嚢是也、今ハ飾磨ヲ分テ飾西飾東トス、揖保ヲ分テ揖東揖西トス、神崎ヲ分テ神東神西トス、加茂ヲ分テ河東河西トスト云ヘリ、剰ヘ近ク飾東西ノ間ニ中條郡トテ有之也、
〔易林本節用集下〕播磨播州大管十四郡、〇略
崎東西、多河美壺揖西揖東、
〔和漢三才圖會七十播磨七〕十二郡〇中略
明石　賀古　印南　飾磨後分爲二飾東飾西一　揖保拾芥抄用二穗字一後分爲二二郡一稱二揖東揖西一　赤穗今訓二阿古一　佐用　宍粟今訓二之賛一　多可　賀茂後分爲二二郡一稱二賀東賀西一　美嚢今略稱二三木一
〔皇國郡名志〕播磨國舊十二郡今十六郡
明石　賀古　高畑　野口　土田　南海小郡
赤穗　東有年　西ウ子　備前界
三木　北萩原
佐用　三日月　佐用平フク　作界　小郡
多可　野村　總社　丹但界
揖西　新宮　林田　石倉　山田　揖西ニ並
揖東　飾東　飾萬津　姫路　御着　南海ニ向
神東　福本　栗加　國中
賀東　小野　坂本　丹界
賀西　法花山　ハン昌　但界
印南　福泊　志方　加古川　高砂社　宍粟　山崎　安和　因但界
今揖保、飾磨、神崎賀茂、各分二東西一、
〇按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕播磨

	六國史古書	延喜式倭名抄拾芥抄諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
賀茂紀	賀茂	賀茂	賀茂	賀茂		賀茂	賀茂
	鴨舊						
鹿子紀	賀古	賀古	賀古	賀古		賀古	賀古
赤石紀	明石舊	明石	明石	明石		明石	明石
	延喜式倭名抄拾芥抄諸書						
	賀茂	賀茂	賀茂	賀茂		賀茂	賀茂
	鴨舊						
	賀古	賀古	賀古	賀古		賀古	賀古

八。郡。在三木ノ城一得二武將豊一其門葉繁昌ニシテ風俗異二于他一。略下

〔播磨鑑二飾東一〕姫路御城主御代々始記

東播八郡トハ所謂三木郡明石郡加古郡加東郡加西郡印南郡多可郡神東郡以上八郡也、

〔日本書紀十五清寧〕二年十一月依二大嘗供奉之料一遣二於播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯一於二赤。石。郡。縮見屯倉首忍海部造細目新室一見二市邊押磐皇子一億計弘計。略下

〔播磨風土記〕望二覽四方一云此土丘原野甚廣大而見二此丘一如二鹿兒一故名曰二賀古郡一、

〔續日本紀九元正〕神龜三年十月辛酉行幸。略中行宮側近明石賀古二郡百姓高年七十已上賜二穀各一斛。略下

〔法隆寺伽藍緣起幷流記資財帳〕合庄庄倉捌拾肆口　屋壹佰拾壹口。略中

播磨國參處明石郡一處賀古郡一處揖保郡一處。中略

天平十九年二月十一日。署名

〔播磨風土記〕印南郡。印南郡原脱據二一本一補一家云所二以號一印南者穴門豐浦宮御宇天皇。仲哀與二皇后一。神功俱欲レ平二筑紫一久廕曾國一下行之時御舟宿於印南浦此時滄海甚平風波和靜故名曰二入浪一、

〔法隆寺伽藍緣起幷流記資財帳〕山林岳島等貳拾陸地。哀中

播磨國貳拾壹地

揖保郡五地。略註　印南郡飾磨郡内島林十六地。略中

天平十九年二月十一日。名略署

〔續日本紀三十桓武九〕延曆五年四月乙亥播磨國言四天王寺飾磨郡水田八十町元是百姓口分也而依二太政官符一入二寺訖因一茲百姓口分多授二比郡一營種之勞爲レ弊實深其印南郡戸口稀少田數巨多今當二班田一請遷二飾磨郡一置二印南郡一許之、

飾磨郡

〔播磨風土記〕飾磨郡　所二以號一飾磨一者大三間津日子命於二此處一造二屋形一而座時有二大鹿一而鳴之爾時王勅云牡鹿鳴哉故號二飾磨郡一、

〔東大寺正倉院文書十二〕山背國愛宕郡雲下里計帳（繼目裏書）山背國愛宕郡出雲鄉雲下里神龜三年史生從八位下間人宿禰男君

戸主出雲臣宿奈麻呂年參拾捌歳略中

秦前大結賣年參拾肆歳　丁女

秦前稻結賣年參拾肆歳　丁女　上件二口和銅四年逃二播磨國忠。磨。郡。一

揖保郡

〔播磨風土記〕揖保郡

事。郡名明下。略中　揖保里土中所二以稱一粒者此里依二於粒山一故因二山爲一名、

〔壬生家文書〕左辨官下二播磨國一

應レ且任二舊跡一糺二定四至堺一且免二除雜徭一穀倉院領當國小犬丸保事、

在二管揖西。郡布施鄉内。略中

建久八年四月卅日

右少辨平朝臣

右大史三善朝臣

赤穗郡

〔大安寺伽藍緣起幷流記資財帳〕合今請墾田玖佰玖拾肆町。略中

幡磨國壹拾伍町開六町未開九町　印南郡五町伊保東松原　赤穗郡十町多太野東檀村前。中略

天平十九年二月十一日。署名略

佐用郡

〔播磨風土記〕讃容郡　所二以云一讃容郡者大神妹妖二柱各競占二國之時妹玉津日女命捕二臥生鹿一割二其腹一而種二稻其血一仍一夜之間生苗即令二取殖一爾大神勅云汝妹者五月夜殖哉即去二他處一故號二五月夜郡一、

〔日本書紀二十七天智〕七年〇齊明中略、是歲播磨國司岸田臣、麿等、獻寶劔言、於狹夜郡人禾田穴內獲焉、

〔播磨風土記〕宍禾郡　所以名宍禾者、伊和大神國作堅了以後、堺此川谷尾、巡行之時、大鹿出己呑遇於矢田村、爾勅云、矢彼呑在者、故號宍禾鹿村、名號矢田村、比治里土中上所以名比治者、難波長柄豐前天皇〇孝德之世、分揖保郡作完禾郡之時、山部比治任爲里長、〇略下

〔播磨風土記〕神前郡　右所以號神前者、伊和大神之子建石敷命、在於神前山、仍因神在爲名、故曰神前郡、

〔續日本後紀五仁明〕承和三年五月丙辰、播磨國神埼郡荒廢田卅三町賜宗康親王、

〔播磨風土記〕託賀郡　右所以名託賀者、昔在大人常勾行也、自南海到北海、自東巡行之時、到來此土云、他土皁者常勾伏而行之、此土高者申而行之高哉、故曰託賀郡、

〔播磨風土記〕賀毛郡　所以號賀毛者、品太天皇〇應神之世、於鴨村雙鴨作栖生卵、故曰賀毛郡、

〔續日本紀十聖武〕天平元年四月壬戌、播磨國賀茂郡加主政主帳各一人、

〔播磨風土記〕美嚢郡　所以號美嚢者、昔大兄伊射報和氣命〇履中堺國之時、到志深里許曾社、勅云、此土水甚美哉、故號美嚢郡、

〔續日本紀桓武〕延曆八年十二月乙亥、播磨國美嚢郡大領正六位下韓鍛首廣富、獻稻六万束於水兒船瀨、授外從五位下、

〔倭名類聚抄八播磨國〕明石郡　葛江布知衣　賀古郡　望理　長田奈加太　印南郡　大國於保久爾　益氣〇高山寺本、作田、註末須太、舍蠶〇高山寺本、氣作奈牟、國用河南　揖保郡　栗栖久留　香山加古也萬、〇加古也萬、作加字也萬、　林田波也之多　桑原久波良　布勢　上岡加無都（都、高山寺本作奈、　高家〇高山寺本、註賀古　飾磨郡　菅生須加布　餘戸　英賀安加伊乃　多巨智古知　平野比良乃　草上久佐乃　周智　伊和　辛室加良牟呂　大野於保乃　英保安母　三野美乃　穴無安奈之　迎達伊乃知　揖保郡　栗栖久留　香山加古也萬、〇加古也萬、作加字也萬、　林田波也之多　桑原久波良　布勢　上岡加無都（都、高山寺本作奈、　高家〇高山寺本、註賀古　飾磨郡　菅生須加布　餘戸　英賀安加伊乃　多巨智古知　平野比良乃　草上久佐乃　周智　伊和　辛室加良牟呂　大野於保乃　英保安母　三野美乃　穴無安奈之　迎達伊乃知　揖保郡　栗栖久留　香山加古也萬、〇加古也萬、作加字也萬、　林田波也之多　桑原久波良　布勢　上岡加無都（都、高山寺本作奈、　高家〇高山寺本、註賀古　飾磨郡　菅生須加布　餘戸　英賀安加伊乃　多巨智古知　平野比良乃　草上久佐乃　周智　伊和　辛室加良牟呂　大野於保乃　英保安母　三野美乃　穴無安奈之　迎達伊乃知　揖保郡　栗栖久留　香山加古也萬、〇加古也萬、作加字也萬、　林田波也之多　桑原久波良　布勢　上岡加無都（都、高山寺本作奈、　高家〇高山寺本、註賀古

六繼里（土中中）所以號六繼者已見於上、（載村里條所引播磨風土記六繼村下、中略）

益氣里（土中上）所以號宅者、大帶日子命、造御宅於此村、故曰宅村、（略中）

含藝里（本名瓶落）土中上、所以號瓶落者、難波高津御宮（仁德）御世、私部局取等遠祖他田熊千、瓶酒著於馬尻、求行家地、其瓶落於此村、故曰瓶落、（略中）

〔播磨風土記飾磨郡〕漢部里（土中上）右稱漢部者、讃岐國漢人等到來居於此處、故號漢部、

菅生里（土中上）右稱菅生者、此處有菅原、故號菅生、

麻跡（跡恐割、下同）里（土中上）右號麻跡者、品太天皇（應神）巡行之時、勅云、見此二山者、能似人眼割下、故號目割、

英賀里（土中上）右稱英賀者、伊和大神之子、阿賀比古、阿賀比賣二神、在於此處、故因神名以爲里名、

伊和里（略）註　土中上、右號伊和部者、積幡郡伊和君等族到來居於此、故號伊和部、

賀野里（幣丘）土中上、右稱加野者、品太天皇巡行之時、此處造殿、仍張蚊屋、故號加野、（略中）

韓室里（土中々）右稱韓室者、韓室首寶等上祖、家大富饒、造韓室、故號韓室、

巨智里（略）註　土中下、右稱巨智者、巨智等始祖、屋居此村、故因爲名、（略中）

安相丘（長畝川）土中々、右所以號安相里者、（略中）但馬國朝來人到來、居於此處、故號安相里、（本名阿沙部、後名安相里、依改字、注爲安相里、〇二字、中略）

枚野里（略）註　右稱枚野者、昔爲少野、故號枚野、（略中）

大野里（砥堀）土中々、右稱大野者、本爲荒野、故號大野、（志貴志憙多下、今改、貴二字、原在島宮御宇天皇（崇神）之御世、村上足島等上祖、憙多請此野而居之、乃爲里名、（略中）

少川里（略）註　土中々、（本名私里）古號私里者、志貴（志貴二字、在留下、今改、原）島宮御宇天皇之世、私部弓束等祖田久利君鼻留請此處而居之、故號私里、以後庚寅年、上大夫爲宰之時、改爲小川里、一云、小川自大野流來此處、

故曰小川（略中）

英保里（土中上）右稱英保者、伊豫國英保村人到來居於此處、故號英保村、

美濃里（繼潮）土中下、右號美濃者、讃伎國彌濃郡人到來居之、故號美濃、（略中）

因達里（土中中）右稱因達者、息長帶比賣命（神功）欲平韓國、渡坐之時、御船前伊太代之神、在於此處、故因神名以爲里名、

安師里（土中中）右稱安師者、倭穴无神、神戸託仕奉、故號穴師、（略中）

漢部里（多志野、阿比野、手沼川）里名詳於上、

貽和里（略下）

〔播磨風土記揖保郡〕香山里（本名鹿來墓）土下上、所以號鹿來墓者、伊和大神占國之時、鹿來立於山々峯々、是亦似墓、故號鹿來墓、後至道守臣爲宰之時、乃改名爲香山、（略中）

栗栖里（土中中）所以名栗栖者、難波高津宮天皇（仁德）勅賜刊栗子若倭部連池子、即將退來、殖生此村、故號栗栖、（略中）

越部里（舊名皇子代里）土中中、所以號皇子代者、勾宮天皇（安閑）之世、寵人但馬君小津、蒙寵賜姓、爲皇子代君、而造三宅於此村、令仕奉之、故曰皇子代村、後至上野大夫、結井戸之時、改號越部里、（一自云、但馬三宅、越來、故號越部村、）

上岡里（本名林）土中下、菅生山邊、故曰菅生、（略中）

日下部里（因人姓爲名、中略）土中々、

林田里（本名志奈淡）土中下、所以稱淡奈志者、伊和大神占國之時、御志植於此處、遂生榆樹、故詳名淡奈志、

廣山里（舊名揖村）土中上、所以名都可者、石比賣命、立於泉里波多爲社而射之、到此處箭盡入地、唯出握許、

故號都可村、以後石川王爲總領之時、改爲廣山里、

麻打里、昔但馬國人、伊都志君麻良比、家居此山、二女夜打麻、卽置於己胸死、故號麻打山、于今居此邊者至夜不打麻矣、○略　中

枚方里、土中上　所以名枚方者、河内國茨田郡枚方里漢人來到始居此村、故曰枚方里、○略　中

大家里、舊名大宮里　土中上、品太天皇○應神　巡行之時、營宮此村、故曰大宮、後至田中大夫爲宰之時、改大宅里、○略　中

大田里、土中上　所以稱大田者、昔吳勝從韓國度來、始到於紀伊國名草郡大田村、其後分來、移到於攝津國三島賀美郡大田村、其又遷來於揖保郡大田村、是本紀伊國大田、以爲名也、○略　中

石海里、土上中　右所以稱石海者、難波長柄豐崎天皇○孝德　之世、是里中、有百便之野、生百枝稻、卽阿曇連百足、仍取其稻獻之爾時天皇勅曰、宜墾此野作田、乃遣阿曇連太牟、召石海人夫令墾之、故野名曰百便、村號石海也、○略　中

浦上里、土上中　右所以號浦上者、昔阿曇連百足等、先居難波浦上、後遷來於此浦上、故因本居爲名、○中

萩原里、土中中　右所以名萩原者、息長帶日賣命、○功　神　韓國還上之時、御船宿於此村、一夜之間生萩、根高一丈許、仍名萩原、○略　中

少宅里、本名漢部里　土下中、所以號漢部者、漢人居之此村、故以爲名、所以後改曰少宅者、川原若狹祖父妻少宅秦公之女、卽號其家少宅、後若狹之孫智麻呂任爲里長、由此庚寅年爲少宅里、○略　中

揖保里、土中中　所以稱粒者、此里依於粒山、故因山爲名、○略　中

出水里、土中中　此村出寒泉、故因泉爲名、○略　中

桑原里、舊名倉見里　土中上品太天皇御立於櫪折山、覽之時、森然所見、倉、故名倉見村、今改名爲桑原、一云、

桑原村主等、盜讀容郡桉見將來、其主認來見於此村、故曰桉見、

〔播磨風土記讀容郡〕讀容里　事與郡同、土上中、○略　中

速湍里、土上中　依川湍速爲名、○略　中

邑寶里、土中上　彌麻都比古命、治井飡粮、卽云吾占多國、故曰大村、治井處號御井村、○略　中

柏原里　由柏多生、號爲柏原、○略　中

中川里、土上下　所以名仲川者、苦編首等遠祖大仲子、息長帶日賣命、○功　神　度行於韓國之時、船宿於淡路石屋之爾時風雨大起、百姓悉濡、于時大中子、以苦作家、天皇勅云、此爲國富、卽賜姓爲苦編首、仍居此處、故川號仲川里、○略　中

雲濃里、土中中　大神之子、玉足日子、玉足比賣命、生子大石命、此子稱於父心、故曰有怒、

〔播磨風土記託賀禾郡〕比治里、土中上　所以名比治者、難波長柄豐前天皇○孝德　之世、分揖保郡、作宍禾郡之時、山部比治、任爲里長、依此人名、故曰比治里、○略　中

高家里、土下中　所以名曰高家者、天日槍命告云、此村高勝於他村、故曰高家、○略　中

柏野里、土中上　所以名柏野者、柏生此野、故曰柏野、○略　中

安師里、本名加里酒　土中上、大神飡於此處、故曰須加、後號山守里、所以然者、山部三馬、任爲里長、故曰山守、今改名爲安師者、因安師川爲名、其川者因安師比賣神爲名、○略　中

石作里、本名伊和　土下中、所以名石作者、石作首等居於此村、故庚午年爲石作里、○略　中

雲箇里、土下々　大神之妻許乃波奈佐久夜比賣命、其形美麗、故曰宇留加、○略　中

御方里、土下上　所以號御形者、葦原志許乎命與天日槍命、到故墨志爾嵩、各以黑葛三條著足投之、爾時葦原志許乎命之黑葛一條落、但馬氣多郡、一條落夜夫郡、一條落此村、故曰三條、○略　中　一云、大神爲形見植御杖於此村、故曰御形、○略　中

〔播磨風土記神前郡〕聖岡里、〇註略土下々、所以號聖岡者、昔大汝命與小比古尼命相爭、云擔聖荷而遠行、與不下屎而遠行、此二事何能爲乎、大汝命曰、我不下屎欲行、小比古屋命曰、我持聖荷欲行、如是相爭而行之經數日、大汝命云、我不能忍行、卽座而下屎之、爾時小比古尼命笑曰、然苦亦鄉其聖於此岡、故號聖岡、又下屎之時、小竹彈上其屎、行於衣、故號波自加村、其聖與屎成石、于今不亡、一家云、品太天皇〇應神巡行之時、造宮於此岡、勅云、此土爲聖耳、故曰聖岡、〇略中

川邊里、〇勢賀川祇山土中下、此村居於川邊、故號川邊里、〇略中

高岡里、〇神前山、奈具佐山土中々、右云高岡者、此里有高岡、故號高岡、〇略中

多駅里、〇註略土中下所以號多駅者、品太天皇巡行之時、大御伴人、佐伯部等始祖阿我乃古申、欲請此土、爾時天皇勅云、直請哉、故曰多駅、〇略中

蔭山里、〇蔭凹背岡土中下、云蔭山者、品太天皇御蔭墮於此山、故曰蔭山、又號蔭岡、爾除道刃鈍、仍云磨布理許、故云磨布理村、〇略中

的部里、〇石坐神社、高野山、土中々、右的部等居於此村、故曰的部里、

〔播磨風土記託賀郡〕賀負里、〇大海山荒田村土下上、右因居川上爲名、〇略中

黒田里、〇袁布山、支閉大羅野、土下上、右以土黒爲名、〇略中

都麻里、〇註略土上下所以號都麻者、播磨刀賣與丹波刀賣堺國之時、播磨刀賣到於此村、汲井水而飡之、云此水有味、故曰都麻、

法太里、〇甕坡、波山、土下上、所以號法太者、讃伎日子與建石命相鬪之時、讃伎日子負而逃去、以手匐去、故云匐田、

〔播磨風土記賀毛郡〕上鴨里、〇土中上

下鴨里、〇土中中右二里所以號鴨里者、已詳於上、〇賀毛郡但後分爲二里、故曰上鴨下鴨、〇略中

條、〇修讃恐布里、土中中所以號條布者、此村在井、一女汲水、卽被吸沒、故號曰條布、〇略中

三重里、土中中所以云三重者、昔在一女、拔簪以布裹三重食居、不能起立、故曰三重、

楢原里、土中中所以號楢原者、柞生此村、故曰柞原、〇略中

起勢里、〇黒川、土下中、右號起勢者、巨勢部等居於此村、仍爲里名、〇略中

山田里、猪飼野土中下、右號山田者、人居山際、遂田爲里名、〇略中

端鹿里、土下上今在其神、右號端鹿者、昔神於諸村班菓子、至此村不足、故仍云間有哉、故號端鹿、此村

至于今、山木無菓子、生眞木桧枌

穂積里、本名鹽野、小目野、土上下所以號鹽野者、醎水出於此村、故貳鹽野、今號穂積者、穂積臣等族、居於此村、故號穂積、〇略中

雲潤里、土中中右號雲潤者、丹津日子神法太之川底、欲越雲潤之方、云爾之時、在於彼村、大水神辭云、吾以宍血佃、故不欲河水、爾時丹津日子、云此神倦堀河事、云爾而已、故號雲彌、今人號雲潤、

河內里、土中下右由川爲名、〇略中

川合里、腹辟沼土中上、右號川合者、端鹿川底與鴨川會村、故號川合里、

〔播磨風土記美嚢郡〕志深里、土中中所以號志深者、伊射報和氣命、御食於此井之時、信深具、遊上於御飯筥緣、爾時勅云、此具者於阿波國和那散我所食之具哉、故號志深里、〇略中

高野里、座於祝田社神、玉帶志比古大稻女、玉帶志比賣豊稻女、

志深里、座於三坂神、八戸挂須御諸命、大物主、葦原志許國堅以後、自天下於三坂峯、

吉川里、所以號吉川者、吉川大刀自神在於此、故云吉川里、

枚野里　因體爲名

高野里　因體爲名

〔法隆寺伽藍緣起并流記資財帳〕合食封貳佰戶（永年者在二四國一）

右天平十年歲次戊寅四月十二日、納二賜平城宮御宇天皇（聖武）者、（播磨國揖保郡林田郷五十戶中略）

天平十九年二月十一日（署名略）

〔東大寺要錄六〕一諸國諸庄田地（長德四年注文定中略）

新發田（略）

鹽山五百六十町

三百六十町　在播磨國明石郡築水郷

〔西大寺文書一〕注進　西大寺所領諸庄薗現存日記事（略）

一顚倒庄々（略）播磨國　赤穗郡櫟尾塔山、二百卅五町九段百八十步、揖保郡越部浦上二郷、

水田二町七段四步、（略）

右依宣旨注進如件

建久二年五月十九日（署名略）

〔太平記十一〕書寫山行幸事附新田注進事

五月二十七日ニハ播摩國書寫山へ行幸成テ、先年ノ御宿願ヲ被果、（略）主上（後醍醐）不斜信心ヲ傾サセ給テ則當國ノ安室郷ヲ御寄附有テ不斷如法經ノ料所ニゾ被擬ケル、

〔板戶文書〕御領目錄（人給付之）

一伏見御領（依二旱水損一年貢不足）

一播州佐保社郷三百疋　曇華院御喝食進之

播磨國　別納十ケ所　一石見郷七千餘貫　太通院御寄進（略）

永享十二年八月廿八日　當知行分記之　後崇光院御判

〔康正二年造內裏段錢并國役引付〕合（略）

五貫文（略）富永彌六殿（播州布施郷段錢）

〔桃華藥葉〕嵯峨禪惠院（略）寺領者（略）

〔郡名一覽〕一播磨國（御料私領播州四方三日半）拾六郡　千八百ケ村

高五拾六万八千五百拾七石五斗七升九合

●姬路　百五十七里廿七町　●明石　百四十一里　●龍野　百六十里

●赤穗　百五十五里　○林田　百六十里　○小野　百四十七里廿七町

○山崎　百六十四里　○三草　百三十里　○妙志　百六十里

○三日月　百六十五里　又福本　松平彈正

○按ズルニ本書ノ符號ハ山城國篇村里條ニ引ク所ノ本書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡國提要〕播磨　十六郡千七百九十六（御料私領）高六十五万千九百六十四石八斗一升三合五勺

明石郡百四十七村　美嚢郡百五十一村　加西郡百二十三村　多可郡百二十七村　加古郡九十九村　印南郡百十六村　加東郡百五西郡七十七村　飾東郡七十一村　神東郡七十九村　神西郡六十九村　飾佐用郡八十七村　揖東郡百三十村　揖西郡百一村　赤穗郡百二十五村

〔地勢提要坤〕郡邑島嶼奇名

播磨　飾東（シキトウ）郡飾万（シキマ）津、赤穗郡、相生（アヒオヒ）浦、坂越（サコシ）浦、鳥撫（トナヅ）村、有年（ウネ）宿、甕（カメ）島、揖東郡、鵤（イルカ）村、播崎（ハンサキ）村、男鹿（ヲンカ）島、家島（エフ）、太

島（トカケ）揖西郡、小神（コンガウザ）村、金剛山（コンガウザン）村、下芥（シモソルラ）原村、地唐荷（チカラン）島、加東郡、河高（カウタカ）村、印南（カフノミ）郡、神爪（カブツ）村、生石（オイシ）村、明石郡、和坂（カラサカ）村、多可郡、仕出原（シナフラ）村、神西郡、森垣（モリカイ）村、仁豐野（ニフク）村、完粟（ヒソマ）郡、土万（ヒジマ）村、

〔播磨風土記　賀古郡〕昔大帶日子命、〇中略行、遂到二赤石郡一厨御井一供二進御食一、故曰二厨御井一、爾時、印南別嬢、聞驚長之即遁度於南毘都麻島、〇略中天皇知在於此小島、即欲度到阿閇津、供二進御食一、故號二阿閇一村、〇中略還到迎印南六繼村、始成密事、故曰二六繼一村、勅云、此處浪響鳥聲甚譁、南遷於高宮、故曰二高宮一、是時造二酒殿之處一、即號二酒屋一村、造贊殿之處、即號二贊田一村、〇造二宮之處一、即號二館一村、

〔播磨風土記　印南郡〕益氣里、土中上所以號二宅者一、大帶日子命、〇景行造二御宅於此村一、故曰二宅一村、

〔播磨風土記　飾磨郡〕伊和里、〇略中一云、韓人等始來之時、不レ識二用鎌一、但以二手苅一稻故云二手苅一村、〇略中巨智里、〇草上略中所以云二草上一者、韓人山村等上祖柞臣智賀那、請二此地一而墾田之時、有二一聚草一、其根尤臭、故號二草上一、〇略中

安相里、〇略中所以號二長畝川一者、此川生レ蒔于時、賀毛郡長畝村々人到來苅レ蒔爾時、此處石作連等爲レ奪相鬪、仍殺二其人一、即捉棄於此川一、故號二長畝川一、〇略中

枚野里、新〇羅訓〇中略村所以號二新良訓一者、昔新羅國人來朝之時、宿二於此村一、故號二新羅訓一、〇山名亦同中略

小川里、〇略中所以稱二高瀨一者、品太天皇〇應神登二於夢前丘一而望見者、北方有二白色物一、云彼何物乎、即遣二舍人上野國麻奈毘古一、令レ察レ之、申云、自二高處一流落水是也、即號二高瀨一村、所以號二豐國一者、筑紫豐國之神在於此處一、故號二豐國一村、〇略中

英保里、土中上右稱二英保一者、伊豫國英保村人到來、居二於此處一、故號二英保一村、

〔播磨風土記　揖保郡〕佐々村、品太天皇神〇應巡行之時、猿嚙二竹葉一而遇レ之、故曰二佐々一村、阿笠村、伊和大神巡行之時、告二其心中熱一而控絕衣裂、故號二阿笠一、一云、昔天有二二星一、落二於地一化爲レ石、於此人衆集來談論、故名二阿笠一、〇略中

越部里、舊名皇子代里土中中、所以號二皇子代一者、勾宮天皇〇安閑之世、寵人但馬君小津、蒙レ寵賜レ姓、爲二皇子代君一、而造二三宅於此村一、令二仕奉之一、故曰二皇子代一、村後至二上野大夫結二卅戸之時一、改號二越部里一、一云、自二但馬三宅一越來、故號二越部一村、〇略中

狹野村、別君玉手等遠祖、本居二川內國泉郡一、因レ地不レ便、遷到此國、仍云二此野雖一レ狹猶可レ居也一、故號二狹野一、〇中略

酒井村、右所以稱二酒井一者、品太天皇之世、造二宮於大宅里一、闢二井此野一、造二立酒殿一、故號二酒井野一、〇略中

伊都村、所以稱二伊都一者、御船水手等、云何時將到於此所見之乎、故曰二伊都一、

〔播磨風土記　讃容郡〕凍野、廣比賣命、占二此土一之時凍レ冰、故曰二凍野一、凍谷村、〇村原脫據二本補一中略

鹽沼村、此村出二海水一、故曰二鹽沼一村、

〔播磨風土記　宍禾郡〕宍禾郡、所以名二宍禾一者、伊和大神國作堅了以後、堺二此川谷尾一、巡行之時、大鹿出二己舌一、遇於矢田村、爾勅云、矢彼舌在者、故號二宍禾一、鹿村、名號二矢田村一、〇略中

宇波良村、葦原志許乎命、占二國之時、勅二此地一、小狹如二室戸一、故曰二表戸一、比良美村、大神之徳落於此處、故云二徳村一、今人云二比良美一村、

川音村、天日槍命宿於此村、勅川音甚高、故曰二川音一村、

庭音村、本名庭酒大神御粮枯而生レ麵、即令レ釀レ酒、以獻二庭酒一而宴之、故曰二庭酒村一、今人云二庭音村一、〇略中

鹽村、處々出二醎水一、故曰二鹽村一、牛馬等嗜而飲之、〇略中

土間村、神衣附二土上一、故曰二土間一、

敷草村、敷草爲二神座一、故曰二敷草一、〇略中

波加村、占二國之時一、天日槍命、先到二此處一、伊和大神後到、於是大神大恠之、云非レ度レ先到レ之乎、故曰二波加一村、〇略中

伊和村（本名神酒）大神釀酒此村、故曰神酒村、又云於和村、大神國作訖以後、云於和等、於我美岐、故曰於和、

〔播磨風土記　神前郡、堅岡里、略、中〕下尿之時、小竹彈上其尿、行於衣、故號波自加村、略、中

蔭山里、略、中爾除道刃鈍、仍云磨布理許、故云磨布理村、

〔播磨風土記　託賀郡〕賀負里、大海山、荒田村、中略所以號荒田者、此處在神、名道主日女命、无父而生兒、爲之釀酒作田七町、七日七夜之間、稻成熟、意乃釀酒集諸神、遣其子捧酒而令養之、於是其子向天目一命而奉之、乃知其父後荒其田、故號荒田村、

〔播磨風土記　賀毛郡〕玉野村所以號然者、意奚袁奚二皇子等、坐於坐美嚢郡志深里高宮、遣山部小楯、詐國造許麻之女根日女命、於是根日女已依命訖爾時二皇子相辭不娶于日間、根日女老長逝于時皇子等大哀、卽遣小立勅云、朝日夕日不隱之地、造墓藏其骨、以玉飾墓、故緣此墓號玉丘、其村號玉野、

〔日本書紀　垂仁〕三年三月、新羅王子天日槍來歸焉、（中略）一云初天日槍、乘艇泊于播磨國、在於宍粟邑、（中略）仍詔天日槍曰、播磨國出淺邑、淡路島出淡路島宍粟邑、是二邑、汝任意居之、下略

〔峯相記〕又問曰、所々靈場本緣起承度候、答云、略、中次ニ妙德山者大納言範ロ卿ノ息慶芳內供、最初建立、一條三條兩帝御願所也、彼內供西國巡禮ノ次ニ、正曆二年三月八日、田原庄有井村ニ一宿ス

〔古文書類纂　上處分狀〕後深草天皇建長二年關白藤原道家處分狀

總處分　略、中

一家地文書庄園事　略、中　新御領　略、中　播磨國佐用庄內　略、中　江河村　赤松村　千草村　主萬村　略、中

建長二年十一月　日

〔枕草子　一〕市は　略、中　玄かまの市　愚老在御判

〔千載和歌集　十戀　四〕崇德院に百首歌奉りける時、戀の歌とてよめる、　皇太后宮大夫俊成

戀をのみしかまの市にたつ民もたえぬ思に身をやかへてん

〔播磨名所巡覽圖會　五〕室津　室の泊　室の浦

當津は、播州の一都會にして、西國大名參勤往來の著岸と定め、又乘船の津とも定む、帝畿を去事四十二里、山は三面に裏みて、江灣は一方に遂り、海上百里美景を觀望し、泊船は池中に遊ぶがごとく、旅客は波上に枕を安んず、峯には樵夫の斧を響し、岸には遊女の糸竹に媚き、國守の艤に海士の網手を潛せ、誠に貴賤苦樂窮覽の界なり、室とは人の居室の事也、故に此江の取まはしこもりたるにたとへていへり、

〔播磨めぐり〕室津　姫路より五里、網干より二里に近し、西國よりの船著にて、はんぢやうの湊なり、

〔續應仁後記　一〕柳本彈正遭殺害事附播州騷亂事

大永二年二月廿七日ノ夜、村宗情無クモ花房菅野岩井ナンド、云者共ヲ遣シテ、播州ノ室ノ津ニテ忽主君義村入道定印ヲ弑シケリ、

〔播磨名所巡覽圖會　四〕姫路　鎭城、略、中姫山の麓に三村あり、所謂宿村中村國府寺村是也、輝政入府の後、此三村を都て姫地と號す、後姫路と改む

〔播磨めぐり〕姫路　御城は山手にあり、城下町多し、はんぢやうの所なり、

〔豐鑑　一長濱眞砂〕小寺官兵衞申しは、此所木三はこそ國の中にして、舟の便もよし、此國を去らん人は此所こそよかるべけれ、姫路にうつり住給ふべしと、去きりにいひければ、秀吉內々よかるべき所になんと思ひ給へりければ、姫路にうつり給ひぬ、

莊保

〔川角太閤記〕一御内證には、上樣〇織田信長は御切腹の事に候へば、此顙の實檢可有君なしとて、播州姫地に被召置候御留守居三吉武藏殿え、此顙姫地のらんかん橋に被掛候へ心持候事、

〔祖父物語〕虎之助高聲ニナリテ、市松モ御一家、我等モ御爪ノハシナリ、何トテ二千石オトリタルゾ、今度ノ鎗、市松ニ少モ劣ラズ、伯耆ニカヘストテ、朱印ヲイタヾカザリケル、其聲高ケレバ、太閤キコシ召、虎之助ハ總ジテウツケモノナリ、汝アヅカリオキ、以來ハ市松ト同樣ニトラセント仰ケル、後ニ播州姫路ニテ御加恩アリテ、都合五千石ノ地ヲ下サレケル、

〔峯相記〕又問云、郡鄉田地ノ樣御存知候哉、答云、〇略中郡〇播磨ハ元十二郡、今十七郡ト申ス、〇略中庄ハ一百三十九、鄉保ハ八十九所也、

〔東大寺要錄六〕一諸國諸庄田地〇長德四年注文定〇中略

新發田〇中略播磨國多河郡栗生庄田廿九町七段百四十四歩

〔當宮緣事抄〕左辨官下　石清水八幡宮幷宿院極樂寺

應永停止宮寺幷極樂寺庄園領家預所下司公文等或號有先祖讓狀、或稱相傳文書致異論企掠領、兼又有由緒雖令傳領子孫斷絶處々付本所事、

宮寺領〇中略播磨國繼庄、船曳庄〇中略

極樂寺領〇中略播磨國蟾原庄、松原庄、赤穗庄〇中略

保元三年十二月三日　大史小槻宿禰在判〇下略

〔賀茂注進雜記下神領〕同〇壽永元年三年〇元曆　四月廿四日壬辰、賀茂社領四十二ヶ所、任院廳御下文可止武家狼藉之由有沙汰云々、

下諸國可早任院廳御下文停止方々狼藉、備進神事用途、賀茂別雷社御領庄園事〇中略

播磨國　安志庄　林田庄〇中略

壽永三年四月廿四日　正四位下源朝臣御判

〔吾妻鏡六〕文治二年四月十三日庚申、北條殿〇政時自京都參著、京畿沙汰間事、條々有御問〇中略次播磨國守護人、妨國領由事、在廳注文、景時代官狀、雖被下之、未申切是非、次今南石負兩庄、幷弓削、柚兵粮事、度々被下院宣之間、早可停止之由、捧請文、下向畢、六月九日乙卯、去四月之比、政道事、殊可致興行之趣、付議卿、令奏聞給了、勅答之條々、執職事目錄、帥中納言被進之、今日所到來也、

條々〇中略

一播磨國武士押領所々事

委細成敗之條、返々所感思食也、人々愁已散歟、但〇雖恐保桑原、五箇庄上編、東這田庄等、猶令召進去文給、式或國領眼也、或難去思食、凡景時申狀、一旦雖似有其謂、張行國中之時、爲免一日之命、有寄附所、或自由有押領之地、以之稱相傳歟、妄田庄、自領家若狹局雖稱預給、全不然以之察、可彼男一類偏蔑如國務、早可被誡仰也、於此國一國者、可然者可去進由、今被仰也、度々可隨仰之由言上訖、仍仰能保朝臣被遣仰畢、一旦雖逃去、猶隱居傍庄催當國之輩、伺隙又致濫妨能々可被誡仰也、桑原事殊有被仰之旨、

〔十六夜日記〕のこるよもぎとかこちけるといふ所のうらがきに、くわうたいこぐうの大夫ゑゆんせいの卿の御むすめ、ちゝのゆづりとて、はりまのくにこしべのゑやうといふところをつたへゑられけるを、さまたげおほくて、むかしむさしのせんじ〇北條泰時へ、ことなるそせうにはあらで、まいらせられけるうた、ゑんちよくせんにも入とやらん、〇略下

〔神護寺文書〕神護寺領播磨國福井庄西保沙汰人　地頭非法條々

一下司公文給田屋敷事

右對決預所法橋有全與地頭代右兵衛尉賴康令進覽申詞記於關東之處、去貞永元年九月廿四

日御下知狀云、東保先例事無相違於經年序者、限本給屋敷何及子細乎、早任東保之例可致沙汰云々〇略中

以前拾壹箇條、且任關東去四月十九日御敎書之旨、且就東保地頭所務之例、下知如件、

天福元年九月十七日

〔古文書類纂上處分狀〕後深草天皇建長二年關白藤原道家處分狀

總處分條々事〇略中

一家地文書庄園事〇略中　新御領〇略中　播磨國

東庄　西庄　本位庄　新位庄　豐福庄〇略中　厚利庄〇略中　新御領〇略中　播磨國佐用庄內

同國神戶庄〇石山尼讓進准后御方領家職三位殿傳領之、〇中略　愚老在御判

建長二年十一月　日

〔太平記十二〕安鎭國家法事附諸大將恩賞事

サシモノ軍忠有シ、赤松入道圓心ニ、佐用庄一所計ヲ被行、播磨國ノ守護職ヲバ無程被召返ケリ、

〔龜山院御凶事記〕嘉元三年九月廿三日丁卯、依可分進故院御書、早且著直衣烏帽相具御書御手簡□□□存預置也參御所、〇略女院御方自餘御書等、兼有御封以檀紙被立文之押折上下、又有銘等、悉盛宮蓋〇中略

一通銘曰新院御方　播磨國多可庄〇略中

右庄々可讓進也、輕微之至、頗雖有其憚、爲顯志不顧恐者也、

嘉元三年七月廿六日　御判

〔南禪寺文書〕播磨國矢野別名　同國大鹽庄〇略中

右所々任代々勅附、知行不有相違者、院宣如此、仍執達如件、

建武三年十一月廿七日　參議花押

南禪寺長老清揔上人禪室

〔賢俊僧正日記〕貞和二年四月廿九日丁丑、洞院左府、執權、久我相國等罷向、田中庄事、大概召文書了、

五月一日己卯、今日播州田中庄事、被遂評定云々、雜掌及晚歸來、宜雲透也云々、四日壬午、田中庄勅裁、今日到來、得理了、仰村尭觀了、仲村事、尭觀請文書進之、又所務法式被仰了、下御敎書了、公用又三千匹、就之沙汰了、六日甲申、田中庄事爲悅申、洞院、執權、久我以下方ニ罷向了、面々悅申了、

〔峯相記〕又問曰、所々靈場本緣起承度候、答云、〇略中魚吹八幡者、是ヲ推スルニ、大菩薩初而御上ノ時、當國神達、賀古郡ニ詣テ集リ、御迎ニ伊保川ノ邊ニ參會シテ、神樂祭禮ノ儀有キ、〇略中其時神集會ノ所ヲバ神出ノ保ト云也、

〔板戶文書〕御領目錄　人給付之

一伏見御領依旱水損年貢不足〇中略　播磨國　別納十ケ所〇略中　一玉造保〇二千五百疋　庭田大納言〇略中　後崇光院御判

嘉元三年七月廿六日　御判

〔南禪寺文書〕播磨國矢野別名　同國大鹽庄〇略中　播磨國佐用庄內

右所々任代々勅附、知行不有相違者、院宣如此、仍執達如件、

建武三年十一月廿七日　參議花押

播磨國

藩封

〔慶應元年武鑑〕松平兵部大輔慶憲　溜間　從四位少將元治二丑正月任　拾万石　御在城播州明石郡明石　江戶ヨリ海陸百四十一里餘

〔慶應元年武鑑〕酒井雅樂頭忠績　溜間　從四位少將元治二丑正月任　拾五万石　居城播州飾東郡姬路　江戶ヨリ百五十七里餘

永享十二年八月廿八日　當知行分記之

一伏見御領依旱水損年貢不足〇中略　播磨國　別納十ケ所〇略中　一玉造保〇二千五百疋　庭田大納言〇略中　後崇光院御判

〔板戶文書〕御領目錄　人給付之

〔峯相記〕又問曰、所々靈場本緣起承度候、答云、〇略中魚吹八幡者、是ヲ推スルニ、大菩薩初而御上ノ時、當國神達、賀古郡ニ詣テ集リ、御迎ニ伊保川ノ邊ニ參會シテ、神樂祭禮ノ儀有キ、〇略中其時神集會ノ所ヲバ神出ノ保ト云也、

〔賢俊僧正日記〕貞和二年四月廿九日丁丑、洞院左府、執權、久我相國等罷向、田中庄事、大概召文書了、

五月一日己卯、今日播州田中庄事、被遂評定云々、雜掌及晚歸來、宜雲透也云々、四日壬午、田中庄勅裁、今日到來、得理了、仰村尭觀了、仲村事、尭觀請文書進之、又所務法式被仰了、下御敎書了、公用又三千匹、就之沙汰了、六日甲申、田中庄事爲悅申、洞院、執權、久我以下方ニ罷向了、面々悅申了、

〔峯相記〕又問曰、所々靈場本緣起承度候、答云、〇略中魚吹八幡者、是ヲ推スルニ、大菩薩初而御上ノ時、當國神達、賀古郡ニ詣テ集リ、御迎ニ伊保川ノ邊ニ參會シテ、神樂祭禮ノ儀有キ、〇略中其時神集會ノ所ヲバ神出ノ保ト云也、

〔板戶文書〕御領目錄　人給付之

一伏見御領依旱水損年貢不足〇中略　播磨國　別納十ケ所〇略中　一玉造保〇二千五百疋　庭田大納言〇略中　後崇光院御判

永享十二年八月廿八日　當知行分記之

〔慶應元年武鑑〕酒井雅樂頭忠績　溜間　從四位少將元治二丑正月任　拾五万石　居城播州飾東郡姬路　江戶ヨリ百五十七里餘

〔慶應元年武鑑〕松平兵部大輔慶憲　溜間　從四位少將元治二丑正月任　拾万石　御在城播州明石郡明石　江戶ヨリ海陸百四十一里餘

往古別所山城守居、後黑田甲斐守長興、元和三、小笠原右近將監忠真、寬永九、松平丹波守光重、同十八、大久保加賀守忠季、慶安二、松平山城守忠國、同日向守信之、真享元、本多出雲守政利、天和二、松平若狹守直明、以後代々領之、帝鑑間朝散大夫

脇坂淡路守安斐　五万千八十九石餘　居城播州揖西郡龍野　江戶ヨリ百六十里

田數
石高

慶長五、池田家臣荒尾但馬居、元和三、小笠原信濃守長次、寛永九、京極刑部大輔高知、同備中守高豐、万治元以後中絕、寛文十二襲ノ之、脇坂中務少輔安政、以後代々領ノ之、柳間朝散大夫

森美作守忠典　二万石　居城播州赤穗郡赤穗　江戸ヨリ百五十五里

城主松平右京大夫政綱、同右近大夫輝興領、正保二、淺野內匠頭長直、同采女正長友、同內匠頭長直、寛永三、森和泉守長直、以後領ノ之、柳間從五位上元治元子五月叙

森對馬守俊滋　一万五千石　在所播州佐用郡三ヶ月　江戸ヨリ百六十五里

元祿十二、作州ヨリ移レ之、森氏領ノ之、○帝鑑間　朝散大夫

〔慶應元年武鑑〕**本多肥後守忠鄰**　一万石　在所播州宍粟郡山崎　江戸ヨリ海陸百六十四里

延寶七ヨリ本多氏忠英以後領ノ之、帝鑑間

小笠原幸松丸　一万石　播磨宍粟郡安志　江戸ヨリ海陸百六十里

享保二ヨリ小笠原氏新規領ノ之、帝鑑間朝散大夫

丹羽長門守氏中　一万石　在所播州加東郡三草　江戸ヨリ百三十里

元文四、越後高柳ヨリ美作ヘ移、寛保二、愛ニ移、柳間侈散大夫

建部三二郎　一万石　在所播州揖東郡林田　江戸ヨリ百六十里餘

元和三年ヨリ建部氏代々領ノ之　柳間朝散大夫

一柳對馬守　一万石　在所播州加東郡小野　江戸ヨリ百四十七里廿七町

寛文年中、豫州河野江ヨリ徙ノ之、○節略

〔倭名類聚抄國郡〕播磨國　○註略　管十二　田二萬千四百十三町三段三十六歩、

〔伊呂波字類抄國郡〕播磨國　管十二（中略本田二万一千二百四十六丁上三日）　田二萬千四百十六丁下五日

〔海東諸國記〕播摩州　郡十二、水田一万一千二百四十六町、

〔拾芥抄本朝國郡〕播磨大近　十四郡（中略）田二萬千二百卅六丁

〔峯相記〕又問云、郡鄉田地ノ檪御存知候哉、答云、若ク候シ時、府邊ニテ人々集會ノ場ニテ聞候シ

カバ天平年中ニハ田代七千餘町、畠三千六百餘町ト注サレケルガ、白河院御治世寛治年中、諸國總檢云、田九億四萬六千餘町ノ時ハ、當國總田數二萬一千百三十六町ト云關東御教書ニテ、嘉禎三丁酉年ニ、田所等ヲ注進ニハ、總田數壹万六千七百十八町七段二十五代、內御敎書ニテ、建治二年、兩廳宣兩田所ガ注進ニハ、壹萬七千四百四十九町二段五代也、

〔播磨鑑〕一天正年中、秀吉公之御時爲高播磨國中、高五十五万七百石壹升九合也、其後池田輝政御時、高六十貳万八千九百十一石六斗八升、慶長年中改ノ時ノ高也、又延寶九年辛酉秋九月、公儀御目付衆改之時、大上國四方三日半國中高五十四万貳千八百八十八石餘、○下略

〔日本鹿子十二〕播磨國十四郡、大上國、四方三日半、○中略　知行高五十二万千三百石、

〔播磨國石高記〕播磨國　明石郡○中略　小以五萬二千四百一石四斗四升六合　明石郡　百四十九ケ村

美嚢郡○中略　小以四萬九百七十五石三斗九升　美嚢郡　百五十五ケ村

加古郡○中略　小以三萬六千八百九十四石六斗七升一合　加古郡　九十八ケ村

印南郡○中略　小以三萬五千八百十九石四斗六升二合　印南郡　百十四ケ村

加東郡○中略　小以五萬百十六石五斗六合　加東郡　百四十七ケ村

加西郡○中略　小以三萬八千八十五石七斗七升二合　加西郡　百二十二ケ村

多可郡○中略　小以三萬三千八百八十七石一斗一升一合　多可郡　百二十四ケ村

神東郡○中略　小以二萬二千五十六石五斗三升七合　神東郡　七十九ケ村

神西郡○中略　小以一萬八千百六十四石五斗二升四合　神西郡　六十七ケ村

飾東郡○中略　小以二萬九千八百六十一石一斗一升八合　飾東郡　七十ケ村

飾西郡略○中　小以三萬千五百六十三石四斗四升二合　飾西郡　七十九ヶ村

揖東郡略○中　小以四萬八千四百九十石九升六石　揖東郡　百三十四ヶ村

揖西郡略○中　小以二萬九千六百五十八石七斗三合　揖西郡　百二ヶ村

赤穗郡略○中　小以三萬八千八百六十八石三升六合　赤穗郡　百三十二ヶ村

佐用郡略○中　小以二萬三千三百五十石三斗四升四合　佐用郡　八十八ヶ村

完粟郡略○中　小以三萬八千三百二十四石四斗二升一合　完粟郡　百四十ヶ村

高都合　五十六萬八千五百十七石五斗七升九合　千八百ヶ村

元祿十五壬午年二月

〔官中秘策四〕播磨國　十四郡略○中

一人數五拾五万千三百九拾三人　內貳拾八万五千六百三拾貳人　男　貳拾六万五千七百六拾壹人　女

〔吹塵錄五人口及國高〕天保度御國高調略○中

播磨國御料私領　一高六拾五万千九百六拾四石八斗壹升三合五勺

〔延喜式二十主税六〕諸國出擧正税公廨雜稻略○中

播磨國正税公廨各卅四万束、文殊會料二千束、平等寺料一千束、施藥院料一万束、藥分料一万五千束、學生料一万五千束、修理驛家料四万束、池溝料四万束、道橋料一万束、救急料一十二万束、俘囚料七万五千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕播磨國略○註　管十二（中略正公各四十四萬束、本穎百二十万束、雜穎三十四萬束、

〔延喜式十五內藏〕諸國年料供進略○中　交易絁○六百五十疋（中略播磨一百疋○中略　樽（中略播磨（中略）各二合○中略　黑米二百

出擧稻

國產貢獻

年料春米略○中　播磨國內藏卅石、大炊一千百石、糯廿四石○中略

年料租春米略○中　播磨國二千石○中略

年料別貢雜物略○中　播磨國筆一百廿管、墨三百五十廷、紙廉二百十斤、墨二石、馬革卅二張、柏一百俵、○中略

諸國貢蘇番次略○中　播磨國十五壺六口各大一升、九口各小一升、○中略　右十四箇國爲第六番（子午年）○中略

交易雜物略○中　播磨國白絹十三疋、絁三百五十疋、大豆廿六石、胡麻子三石、油二石、鹿革五十張、櫃二合、小豆三石、鹿角菜二石、青苔卅斤、於胡菜廿斤、那乃利菅卅斤、

〔延喜式二十主計四〕播磨○略中　右廿五國中絲、○略中

播磨○略中　右廿九國輸絹、○中略

播磨國行程上五日、下三日、海路八日

調兩面十疋、九點羅二疋、一窠綾十疋、二窠綾、三窠綾、小鸚鵡綾、薔薇綾、各二疋、吳服綾四疋、白絹十疋、緋帛卅疋、縹帛、皂帛、各十疋、綠帛廿疋、帛百五十九疋、池由加五口、受三石五斗中由加五口、受一石二口、廵卅八口、小由加十六口、酒壺四合、缶一百七十五口、著乳瓮十八合、洗盤七十七口、有柄大瓶卅九口、大壺、中壺、各八合、負瓶二口、大高盤九十九口、有柄中瓶卅口、叩瓮八十七口、廡筒盤四口、大盤七十五合、臼卅六口、鉢卅二口、有柄酢瓶廿口、無柄酢瓶卅口、筥坏二百九十口、樣筥坏凡坏各八十口、椀五百五十合、片椀百五十二口、小醬廿口、小盤有蓋八十合、無蓋椀五十口、片盤六十七口、椀、下盤、各五十口、深坏五十九口、大筥坏卅口、小筥坏、菜坏、各七十一口、韲坏八十合、燈盞八十口、赤土五斛一斗、自餘輸絹、布、鹽、庸、韓櫃卅二合、塗漆著鐶五合、白木廿七合、自餘輸米、　中男作物、紙、薄紙、簀、黑葛、蜀椒、胡麻油、雜腊、煮鹽年魚、鮨年魚、

〔延喜式三十大膳〕東宮青槲干槲各日別廿五把、荷葉卅枚、侍從所青槲干槲各日別十五把、

右○略中　干槲播磨國所進○略中

諸國貢進菓子○略中　播磨國椎子一擔、搗栗子、

人口

風俗

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥〇中略

播磨國五十三種　青木香、芎藭、白薇各二斤、前胡、藍漆、伏苓、鬼箭各四斤、桔梗卅斤、細辛五十斤、柴胡栝樓、當歸各十斤、王不留行廿五斤、獨活卅六斤、茹蕙、蜀椒各三斤、蜈蚣、桑根、白皮各廿斤、昌蒲六斤、香薷、烏賊骨各十六斤、龍膽、石韋、連翹各八斤、苦參七十一斤、白蘞三斤十二兩、白芷十一斤、地楡九斤、黃蓍三斤四兩、天門冬三斤十兩、茵芋十四斤、銅牙一斤、署預九斤、桃人二斗、秦椒一升五合、蔓荊子五升、吳茱萸三升五合、蔗蔌子、蜀椒各三升、車前子一斗、獺肝二具、鹿茸一具、鹿角一具、白殭蠶二兩、

〔延喜式三十九内膳〕年料〇中　播磨國鮨年魚二壺略

〔新猿樂記〕四郎君受領郎等刺史執鞭之圖也、〇中略　宅常擔集諸國土產貯甚豐也、所謂〇中略　播磨針、

〔毛吹草二〕播摩

野里鍋　小鹽鏡　完粟鐵　刃金　鋤　鍬　炭　栗柱　箸木　煎茶　清水折敷　北條筵　書寫紺　飾摩褐色染　東條鞍　室滑　同枕　馬皮　老海鼠　蠣　高砂飯蛸　二見蛛蛸　明石赤目張　碁石貝赤貝也　阿古鹽　龍野米　津田穗蓼年中穗有ト云

〔吹塵錄五人口及國高〕諸國人數調〇中略　文化元甲子年　播磨國　高五拾六万八千五百拾七石餘

御料私領一人數五拾九万九千四百壹人　内三拾壹万四千四百九拾人　男　弘化三丙午年　諸國人數調〇中略　内貳拾八万四千九百拾壹人　女

御料私領一人數五拾九万四千五百六拾人　内三拾万七千五百拾八人　男　播磨國　高六拾五万千九百六拾四石餘　播磨國　内貳拾八万七千四拾貳人　女

〔人國記〕播磨國

名所

播磨ノ風俗智惠有テ義理ヲ不〔レ〕知、親ハ子ヲタバカリ、子ハ親ヲダシヌキ、主ハ被官ニ領地ヲ鮮クシ、被官ハ主ニ奉公ヲ勤ル事ヲ第二ニ而、調儀ヲ以所與ヘテ好ヲ人キ掘出シ度ト志シ、亦被官ト成ル人ハ、主ニ奉公ヲ勤ル事ヲ第二ニ而、調儀ヲ以所知ヲ取ラント思ヒ、悉皆盜賊ノ振舞也、侍ハ中々不〔レ〕好、不〔レ〕及是非也、若キ侍ノ風上ニモ可〔レ〕置國風ニアラズ、偏ニ是國ハ上古ヨリ如此ノ風俗綵ニ暫クモ善ニ定ル事ナシ、

〔日本鹿子十二〕同國〇播磨中名所之部

垂水（タルミ）　須磨と大倉谷との中道也、明石のうち也、うたにたるみの上のさわらびとよめるは、此所のことなりと云り、

明石浦　ほの〴〵とあかしのうらと詠ぜし、此浦也、大倉谷より十町ばかり西に松一村立て、人丸の塚今にあり〇略中

印南野（イナミノ）　大倉谷より人丸塚を西に見てくだれば、かにが坂といふ所を過て、清水の里、野口などいふ所有、印南郡のうち也〇略中

野中の清水　印南の在所の前に有之、此清水の流海へ通ふ也、細き流也、海道より此川を渡て行也、十町ばかり北野中に池有、それを清水といふ也印南の北は美作也、山本はるかに見えたる也、藤江の浦、ひかさの浦など云は、明石にもちかし、鳶の細江といふ所もあり〇略中

飾磨里（シカマ）　印南野より西也〇略中　云かまのかちと詠ぜしは褐色染のこと也此所の名物也、

室津　かく川といふ宿の、未申のかた也、

高砂〇略中

青山　かく川の宿より西なり、海道也宿有、

夢前川（ユメサキ）　書寫山より南のかた也、北より南へ流たる川也、

戀の濱　戀の松原とも云也、當國と備前の堺也、

尾上の松　高砂より福どまりといふ所へこゆる間、川より東のかたにあり、

曾根の松　曾根村と云所の海邊にある松也、太サ五かゝゑ程ありて、枝々四方にわかれ、無雙の名木也、

〔源平盛衰記十七〕人々見名所名所月事

八月〇治承四年十日餘ニ成テ、新帝〇安徳ノ供奉ノ人々ツレ〳〵ヲ慰煩、名所ノ月ヲ見ントテ、思々ニ行別ル、略〇中　或源氏大將ノ跡ヲ追、須磨ヨリ明石ニ浦傳フ人モアリ、略〇下

〔吾妻鏡四〕元暦二年〇文治元年八月廿四日甲戌下河邊庄司行平、蒙ニ歸參御免一、自ニ鎮西一去夜參著、是相ニ副參州一、發ニ向西海一、竭ニ軍忠一訖、略〇中　仰曰、西國者大底見レ之歟、依ニ今勳功一、欲ニ宛行一國守護職一、何國哉可レ請者、行平申云、播磨國有ニ取瓊明石等之勝地一、有ニ如書寫山之靈場一、尤所望云云、早可レ有ニ御計之由一、被ニ諸仰一云云、

〔平家物語一〕すゞきの事

ある時たゞもり、ひぜんの國よりのぼられたりけるに、鳥羽の院、あかしのうらはいかにと仰ければ、忠盛かしこまつて、

有明の月もあかしの浦風に波ばかりこそよるとみえしか、と申されたりければ、院大きに御かん有て、やがて此歌をばきんゐうえうに入られける、

〔源平盛衰記四十三〕安徳帝不ニ吉瑞一幷義經上洛事

九郎判官義經、虜ノ人々ヲ相具シテ、播磨國明石浦ニ著、名ニシオフ名所ナル上、今夜ハコトニ月隈ナクサヘツヽ、秋ノ空ニモ劣ラズ、深行儘、女房達頭サシツドヘテ、旅寢ノ空ノ旅ナレバ、夢ニ夢見ル心地ニテ、終夜打マドロム事モナシ、

〔增鏡十九くめのさら山〕福原の島より宮〇尊は御舟にたてまつる、略〇中　はりまの國へつかせ給て、去

雜載

ほやたるみといふ所、おかしきをとはせ給へば、さなんと奏するに、名をきくよりからき道にこそとのたまはせて、さしのぞかせ給へる御さま、かたちふりがたくなまめかし、けぢかきかぎりはあはれにめでたうもと思ひきこゆべし、大くら谷といふ所すこしすぐるほどにぞ、人丸のつかはありける、あかしの浦をすぎさせ給に、島がくれゆく舟ども、ほのかにみえてあはれなり、〇歌略　野中のゑみづ、ふたみのうら、高砂の松など名有所々、御らむじわたさるゝも、かゝらぬ御ゆきならば、おかしうもありぬべけれど、〇略下

〔播磨名所巡覽圖會三〕高砂〇略中　慶長六年、丑年當村祠造營の時迄は、民家は今洲にありて、官家の傍尾上高砂の間也、其後官家廢して民家は殘り、諸國の通商大場の湊と成りて、大廈つらなり、上に川あり、下に海あり、萬船の出入に便よくて遠く交易す、元より本邦出群の名所なれば、名にしおふ風流の名家も多し、今松林を倉庫に換て風藻を改めしは、惜むべきに堪たり、略〇下

〔散木弃詞集六悲歎〕又の日高砂にまかりて、船よりおりて濱にこゝろなぐさめけるに、名にきこゆる松はいづれぞとたづねければ、かれて久敷なりぬといふを聞て、

高砂の松におくれてたつなみのかへるけしきぞ我身成ける

〔播磨名所巡覽圖會二〕舞子濱たるみの西はづれより山田村迄の間、東西十五六丁、南北五六丁の松林なり、此地古歌なければ、必名所といふには非ず、されども名高き事、天下に聞へたり、是正に砂色松の翠色、物に異なるが故也、砂は雪より白く、數千株の松に高低なく梢を等ふして、丈に不ニ過一、枝幹屈曲をのづから見所ありて、葉の色殊に深くして、鴨の毛のごとし、いかさま高砂尾上住のえといへども、是に一變して獨松林の賞すべき者也、

〔延喜式二十兵部〕諸國健兒〇略中　播磨一百人〇略中

諸國器仗〇略中　播磨國甲三領、横刀廿口、弓廿張、征箭卅具、胡籙卅具、

〔孔雀樓文集二〕赴播口占上二兄

人謂播州好、桑梓更繫情、春風花發日、只是不同行、

美作國

名稱

美作國ハ、ミマサカノクニト云フ、山陽道ニ在リ、東ハ播磨、西ハ備中、伯耆、南ハ備前、北ハ伯耆、因幡ニ接ス、東西凡ソ十四里、南北凡ソ十一里アリ、此國ハ元明天皇和銅六年、備前國六郡ヲ割キテ置ク所ニシテ、國府ヲ苫東郡（舊稱苫田郡）ニ置キ、英田（アイタ）勝田（カツダ）苫東（トマヒガシ）苫西（トマニシ）久米（クメ）大庭（オホハ）眞島（マシマ）ノ七郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、後世英多ヲ分チテ英田、吉野ト爲シ、勝田ヲ分チテ勝南、勝北ト爲シ、苫東苫西ヲ分チテ苫東、苫南苫西、苫北ト爲シ、更ニ又東北條、東南條、西北條、西西條ト爲シ、久米ヲ久米南條、久米北條ト爲セリ、明治維新ノ後、吉野郡ヲ英田郡ニ合セ、勝南勝北、及ビ久米南條、久米北條ノ各二郡ヲ合セテ勝田、久米ノ舊稱ニ復シ、東北條、東南條、西北條、西西條ノ四郡ヲ合セテ苫田郡ト爲シ、大庭眞島ノ二郡ヲ合セテ眞庭郡ト爲シ、岡山縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕美作（美萬佐加）

〔運歩色葉集見〕美作

〔易林本節用集下〕美作（作州）

〔日本風土記一寄語島名〕美作（ミマサカ）迷馬撒家

〔倭訓栞前編三十〕みまさか　倭名抄に美作をよめり、まは助辭、さかはさくの轉也、もとは見まく坂の義なるべし、

位置

〔諸國名義考下〕美作

和名抄に（美萬佐加、國府在苫東郡）、名義いまだ考へ得ず、強ていはゞ、美和坂にてはあらざるか、此國はもと備前國より分れたり、苫東郡に美和郷あり、延喜神名式に、備前國邑久郡美和神社あり、かゝればいにしへはかなたこなたおしなべて美和と云けむを、續日本紀、元明天皇和銅六年夏四月乙未、割二備前國六郡一、始置二美作國一とあり、この時美和郷は分たる境なるべければ、名に負いて美和（ミワ）境（サカ）と云るか、これらはおのが强說なり、立入信友は眞島郡に美甘郷あれど、和名抄に訓法なし、もし美宇麻なるか、又は美万なるか、國人に問まほしかゝらば美甘坂ならむかともいへり、

〔地勢提要乾〕各國經緯度（附里程）

美作津山（堺町）極高三十五度三分半、經度西一度四十三分半、從二東都一（同上（東海道）西國海道）自二一百八十八里四町三十二間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

美作　津山　三五度〇三分三〇秒（〇略中）

東西里差

山城　京　〇度〇〇分〇〇秒（〇略中）　美作　津山　西一度四三分一九秒

疆域

〔名所方角抄〕美作國分　丹後境なり、西申の方より也、

〔日本地誌提要五十二（美作）〕疆域　東ハ播磨、西ハ備中、伯耆、南ハ備前、北ハ伯耆、因幡ニ至ル、東西凡壹拾四里、南北凡壹拾壹里、

地勢

〔易林本節用集下〕美作（作州）上、管七郡、東西三日餘、四境圍寒（〇寒恐塞誤）无風、草木衣食繁多、中上國也、

〔日本地誌提要五十二（美作）〕形勢　山嶽四疆ニ連亘シ、自カラ州界ヲナス、南方地勢漸ク低ク、河水盡ク備前ニ奔注ス、地味膏腴、米麥能熟シ、北方之ニ反ス、民俗樸陋、

道路

〔日本實測錄街道〕從播磨國福崎新村歷知頭及鳥取至豐田○略中

美作國吉野郡辻堂村歷赤田村及粟井中村至檜原中村五里一十町一十四間　六町九間　辻堂村又呼長根　九町四十八間

古町村又呼小原　二里二十四町一十八間　坂根村　二十八町二十八間至國界人坂峠　一十六間　因幡國知頭郡駒歸村○略中

從因幡國知頭歷馬桑至野介代○略中

美作國勝北郡馬桑村三十五度九分、二里三十四町四十八間　廣戶村市場分日本野三十五度六分半、三里二町五十三間　東南條郡野介代村

從知頭至街道、通計一十里九町五間、

從因幡國岡田歷犬狹峠至本鄉○略中

美作國大庭郡下長田村　三里八町五十一間　湯本村　二十町一十五間　社村至橫見神社一十二丁二十七間、從橫見神社至刑部神社九丁二十一間、　一十八町四十二間　釘貫小川村　一里七町六間至高田川岸三十間　眞島郡仲間村湯眞賀　二里二十八町一十八間　本鄉村

從岡田至本鄉街道、通計一十三里三十五町一十四間半、

從播磨國手野歷津山及米子至松江○略中

美作國英田郡土居町　二里九町四十八間　檜原上村三十五度一分半、　一十三町四十五間至檜原中村一十二丁五十一間　勝南郡北山村日神　一里一十六町一十七間　勝間田村三十五度二分、　二里一十五町　東南條郡野介代村　二十二町三十間　同界町三十五度三分半、　二町三十間至津山東新町七丁六間半　西北條郡津山京町　三十六間　同界町三十五度三分半、　二町三十間　同元魚町　二十一間　同元魚町本通至田町限七丁八間半、從神社二十八丁三間、又從山北至總社三丁三十間、　五町四十五間　同宮脇町田中川岸　一里八町一十七間至津山安岡町限七丁三十間　西西條郡院在村至後醍醐帝行宮跡六丁四十五間　一里三十一町四十八間　久米北條郡坪井下村又呼坪井宿　三里一十町一十五丁九間至上河內村一里　大庭郡久世村原方又呼久世町歷落合町及鹿田宿至

建置沿革

水田井尾村四里三十二丁五十四間、從井尾至片岡二里三十三丁六間、　一里一十四町三十六間　眞島郡高田村眞島本山勝新町

五町五十九間至眞島川岸　本鄉村　一里一町二十一間　神代村至若代村一里一十四丁一十五間、從若代至小坂部市一里二十八丁三十四間半、又從若代至河口村二里二十七丁五十一間、　二里二十町二間半　美甘村　一里二十四町一十五間　新庄宿　二里一十一町一十八間至國界一里一十六丁三十三間　伯耆國日野郡坂井原宿○略中

從美作國津山歷福渡及金川至北方

美作國西北條郡津山宮脇町　三里三町二十七間至津山鐵炮丁限　久米南條西幸村　二十五町五十七間　北庄里方村至誕生寺　三里七町四十三間至上二ヶ村一里四丁五十七間、　福渡村　一里一十七町一十四間至國界西川岸二丁三十四間半　備前國津高郡中田村建部新町○略中

從備前國吉井沿吉備川至津山○略中

美作國久米南條郡大戶下村至大戶下村宿所四町三十九間　三十四度五十九分、　二里三十五町一十五間　西北條郡津山京町　從吉井至津山川岸通計一十四里一十八町一十三間、

〔日本國郡沿革考二山陽道〕美作　和銅六年四月、割備前國六郡置、上國管十二郡延喜式等載、六百二十八村、

東南條十四村　古吉田郡之地、後分爲二郡、延喜式載、其分置、在延喜以前也、其後又分析、吉東郡爲東南條、東北條二郡、和名抄載、吉田郡注東西二條二郡、共分析未詳在何時、拾芥抄、西郡爲西々條西北條也、

勝北五十七村　大庭四十七村　眞島九十六村　英田喜式等作英多六十四村　吉野喜式、和名抄、延載、蓋中世割英多郡所置、所謂英田郡、

用野見拾芥抄、廢置未詳、

西北條三十二村　本吉田　西々條五十一村　久米北條五十村　本久米郡、延喜式等載、未詳在何時、

勝南七十村　勝田分爲南北二郡、延喜式等作、未詳在何時、

東北條三十二村　本吉田　西々條同上　久米南條六十村　延喜式等載、吉東郡爲東南條、東北條二郡、分析吉西郡爲西々條西、

英田喜式等作英多　吉野喜式、和名抄、延載、不載吉西郡、

郡ニ定ム、今西北條郡小原村總社村、其遺址ナリ　鎌府ノ初、土肥實平、梶原景時ヲシテ守護タラシム、足利尊氏ノ反

スルヿ之ヲ赤松則祐ニ與フ、正平十六年、山名時氏、南朝ニ歸順シ、大擧シテ來攻メ、諸城ヲ拔キ、悉ク全州ヲ併ス、既ニシテ足利義詮ニ降リ、因テ守護トナリ、子氏清ニ傳フ、元中八年、氏清誅ニ伏シ、將軍義滿再ビ則祐ノ子義則ヲ以テ守護トナス、義則ノ子滿祐誅セラレ、山名持豐ノ弟熙高、代テ守護トナル、文明ノ初、州内擾亂、赤松政則隙ニ乘ジテ來襲ヒ、遂ニ之ヲ取ル、子義村、其臣浦上村宗ニ弒セラレ、村宗後藤氏美作ト各半州ニ據ル、天正ノ初、浦上ノ家臣宇喜多直家、後藤勝基ヲ誘殺シ、盡ク全州ヲ奪フ、關原ノ役、宇喜多氏亡ビ、德川氏、小早川秀秋ニ加賜ス、秀秋卒シ、森忠政代リ封ゼラレ（拾八萬石）、津山ニ治ス、元祿中、國除シ、松平宣富ヲ津山ニ封ズ（拾萬石）、寶曆中、三浦明次、勝山ニ封ゼラレ、後眞島ト改ム、共ニ二藩、慶應三年、松平武聰、石見ノ濱田ヨリ鶴田（ツノタ）久米北條郡ニ徙リ、三藩トナル、王政革新、皆改テ縣トナシ、又廢シテ北條縣ヲ置、

〔續日本紀（六元明）〕和銅六年四月乙未、割備前國六郡、始置美作國、

〔伊呂波字類抄（見國郡）〕美作國（管八郡、舊記云、和銅六年丗四月、依備前守百濟南曲介堅身等解、割備前國北六々、但風土記、以上毛野堅身便爲國守、又或古記云、百濟南曲、

〔續日本紀（六元明）〕和銅七年十月丁卯、從五位下津守連通爲美作守、

〔吾妻鏡（三）〕壽永三年（元暦元年）二月十八日丁丑、武衞（源頼朝）被發御使於京都、是洛陽警固以下事、所被仰也、又播磨、美作、（略）（中）已上五箇國、景時（梶原）實平（肥土）等、遣專使、可令守護之由云云、

〔倭名類聚抄（五國郡）〕美作國（國府在苫東郡、行程上七日、下四日、）府　苫東（トマヒンカシ）

〔伊呂波字類抄（見國郡）〕美作國（中略）府　苫東（トマヒンカシ）

〔倭名類聚抄（五國郡）〕美作國（略）（註）管七郡　英多（アイタ）　勝田（カツマタ）　苫東（トマヒンカシ）　苫西（トマヒンニシ）　大庭（オホハ）　久米（クメ）　眞島（マシマ）

〔延喜式（二十民部）〕美作國上、管七郡、（略）（中略）

右爲近國、

〔拾芥抄（中末本朝國郡）〕美作（大近）七郡、英多、勝田、苫西、久米、大庭、眞島、苫東、府、用野、苫南、苫北、吉野、加之十一也、

〔寛文印知集（三）〕目錄

美作國一圓　英田郡（略）（中）　吉野郡（略）（中）　勝田郡（略）（中）

苫西郡（略）（中）　久米郡（略）（中）　大庭郡（略）（中）　眞島郡（略）（下）

〔皇國郡名志〕美作國　舊七郡今十郡

英多（アイタ）（土井）　備前播界

勝北（新野）　因界

苫田東（高野）　因界

久米南（弓削）（法然出生誕生寺）　備前界

眞島（マシマ）（鹿田）（ミカモ）（藤森）（新庄）　備中伯ノ三國ニカヽル、今久米勝田各分二南北一テ加二吉野郡一

○按ズルニ、本書及ビ次下ノ郡名異同一覽ノ符號ハ、山城國篇郡條ニ引ク所ノ、二書ノ凡例ヲ參照スベシ、

〔郡名異同一覽〕美作

六國史古書	延喜式倭名抄	拾芥抄諸書	郡名考	天保鄉帳	明治沿革帳	地誌提要	郡區編制
同（安伊多）英多（アイタ）							
吉野	同	同（知國國元）英田（アイタ）（國元）	英田（アイタ）	同	同	同	同
同	同	同	同（ヨシノ）	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同（ヨシノ）	同（アイタ）	同	同（ヨシノ）	同
同	同	同	同	同	同	同	同

勝馬 三
勝田 三

苦東 文
苦東 三
苦西 三

勝田 カツタ
勝田 加茂万多

同 知
勝北 國元
勝南 國元

同
同

同
同

同
同

百六十餘舸、山川峻遠、運輸大難、人馬並疲、損費極多、望請、輸米之重、換綿鐵之輕、

〔三代實錄十四清和〕貞觀九年七月廿二日己未、復美作國大庭、眞島兩郡百姓課役一年、以山谷之間黎庶貧弱也、

〔陰德太平記五十三〕浦上宗景幷宇喜多直家事

宗景ガ家臣ニ、作州大庭郡久世ノ多田山ノ城主、沼本新右衞門景直トテ、智深ク勇勝レタル士アリ、

〔倭名類聚抄八美作國〕英多郡　闕武江見（高山寺本作ニ衣美一）　吉野　大野　讃甘（高山寺本註ニ佐奈保一）　大原　粟井（栗、高山寺本作レ栗）　廣井　檜原　林野　巨勢　川會

勝田郡　勝田（加部多、高山寺本作ニ加豆末一）　飯岡（高山寺本註ニ以保加一）　鹽湯（高山寺本註ニ之保由一）　墉月（墻、高山寺本作レ殖、註ニ宇倍津岐一）　香美（高山寺本作ニ加々美一）　吉野　廣岡　豐國　新野（高山寺本註ニ邇比乃一）　賀茂　廣野　河邊　鷹取　和氣

苫東郡　苫田（土毛多、高山寺本作ニ苫田次有ニ高田一）　高野　綾部（高山寺本註ニ安也倍一）　美和（高山寺本註ニ三禾一）　賀和　賀茂　林國（高山寺本註ニ波以多一）　高倉

苫西郡　田中　田邊　田邑（高山寺本註ニ多乃无眞一）　布原（高山寺本註ニ與之波眞一）　能雞（高山寺本註ニ乃計一）　大野　香美

久米郡　大井　倭文（高山寺本註ニ之止利一）　錦織　長岡　賀美（高山寺本作レ茂）　弓削　久米

大庭郡　大庭　美和　河內　久世　田原　布勢

眞島郡　眞島（萬之異）　垂水　鹿田（高山寺本作レ湯田一）　大井　栗原　美甘（高山寺本註ニ三賀毛一）　健部　月田　井原　高田

〔文德實錄二〕嘉祥三年八月丙辰、公卿抗レ表曰、（略）中伏見、美作國介從五位下藤原朝臣貞道等奏偁、所管英多郡大領外從八位上財田祖麻呂、於ニ郡下川一會レ（略）中

〔吾妻鏡十〕文治六年（建久元年）四月十九日壬寅造大神宮役夫工米、地頭未濟事、頻有ニ職事奉書一、神宮使

又參訴之間、可レ致ニ不日沙汰之旨、下知給於有ニ子細一所々者、今日令ニ注進一京都一給、因州幷盛時、俊兼等奉ニ行之一、其狀云、

內宮役夫大工、作料未濟、成敗所々事、（略）中

美作國（略）中

西高田（○）郷　在ニ下文一

布施（○）郷　下知親能畢

西美和　下知畢（略）中

文治六年四月十九日

〔康正二年造內裏段錢幷國役引付〕合（略）中

三貫文（略）中　伊勢因幡入道殿作州神戶（○）郷北高田庄々　壹貫貳百五十八文（略）中　佐野孫次郎殿美作國月田（○）郷　段錢　段錢（略）中

〔美作鬢鑑〕十二郡庄鄉保

東北條郡　六鄉　賀茂鄉　青柳庄　北高田庄　美和庄　高倉庄　綾部鄉

東南條郡　三鄉　高野鄉　苫田鄉　林田鄉

吉野郡　六鄉　大野鄉　大原保　吉野保　弘山鄉　粟井庄　讃甘庄

英多郡　六鄉　江見庄　林野保　平野別府　檜原鄉　英多保

勝南郡　七鄉　河邊庄　飯岡鄉　鷹取庄　和氣庄　勝田庄　豐國庄　鹽湯鄉

勝北郡　七鄉　廣野庄　弘岡庄　勝賀茂庄　植月鄉　小吉野庄　天野保　新野庄

西北條郡　四鄉　田邊鄉　田ノ邑庄　田中鄉　香々美庄

西々條郡　五鄉　野介庄　吉原庄　神戶四鄉　天野鄉　圓宗寺別府

村里名邑

大庭郡　六郷　田原庄　河内庄　久米保　布施庄　大庭郷　吉野郷
眞島郡　十郷　井原郷　月田郷　闕大井郷　栗原郷　鹿田郷　垂水郷　眞島郷　建部郷
高田庄　美甘郷
久米北條郡　六郷　久米庄　打穴郷　大井庄　倭文庄　錦織郷　塀和庄
久米南條郡　三郷　弓削庄　長岡庄　稻岡庄
〔郡名一覽〕（御料私領）一美作國　作州　東西三日餘　拾貳郡
高貳拾五万九千三百五拾三石七斗壹合　五百九拾貳ケ村
●津山　百七十一里餘　●勝山　百八十四里　〈下町　百七十四里
○按ズルニ、本書ノ符號ハ、山城國篇村里條ニ引ク所ノ、本書ノ凡例ヲ參照スベシ、
〔郡國提要〕美作　十二郡、六百二十八村、
（御料私領）高二十六万二千九十九石九升八合
東南條郡十四村　東北條郡三十二村　西西條郡五十一村　久米北條郡五十村　勝南郡七
十村　勝北郡五十七村　大庭郡四十七村　眞島郡九十六村　英多郡六十四村　吉野郡六
十四村　西北條郡二十三村
〔地勢提要　坤〕郡邑島嶼奇名
美作　西西條郡、神戸（シンコ）村、東南條郡、野介代（ノケダイ）村、久米南條郡、神目（カウメ）中村、久米北條郡、下打六（シモウタノ）中村、眞島郡、
美甘（ミカモ）村、延風（ノベカゼ）村、神代（カウシロ）村、勝北郡、馬桑（マンガリ）村、
〔美作鬢鏡〕國中村數幷御支配分ケ
津山御領分二百十九村（大庄屋二十人、中庄屋四十四人、小庄屋百六十五人、外二分郷四十邑）
鹿田御支配五十二村、庄屋五十四人　古町御支配百十八村、庄屋百卅六人、
土居御支配百廿一村、庄屋百廿六人、倉鋪御支配百三ケ

荘保

村、庄屋百三人　高田御支配二十六村、庄屋二人　都合六百九十一村、分郷トモ、
〔出雲路日記〕十日○三月、中略、くれはてゝ、みまさかの國勝山の里にいたり、川ちかき家にやどる、
〔當宮緣事抄〕左辨官下　石清水八幡宮幷宿院極樂寺
應永停止宮寺幷極樂寺庄園領家預所下司公文等、或號有先祖讓狀、或稱相傳文書、致異論企掠領、兼又有由緒雖令傳領子孫斷絶處々付本所事、
宮寺領○略　美作國　大吉庄○梶並庄○略　中
極樂寺領○略　中　美作國　伊志庄○略　中
保元三年十二月三日
〔賀茂注進雜記　下神領〕同永○壽三年○元曆元年　四月廿四日壬辰、賀茂社領四十二ケ所、任院廳御下文、可止
武家狼藉之由、有其沙汰云々、
下諸國　可早任院廳御下文、停止方々狼藉、備進神事用途、賀茂別雷社御領庄園事○略　中
美作國　倭文庄○河内庄○略　中
壽永三年四月廿四日　大史小槻宿禰在判○下略
正四位下源朝臣御判
〔法然上人行狀畫圖一〕抑上人は、美作國久米の南條稻岡庄の人なり、
〔西大寺文書一〕注進　西大寺所領諸庄薗現在日記事○略　中
一顚倒庄々○略　中　美作國　苫田郡知和庄○略　中
右依宣旨注進如件
建久二年五月十九日○署名略
〔太平記三十八〕諸國宮方蜂起事附備前軍事

山陽道ニハ同年二康安元年六月三日ニ、山名伊豆守時氏五千餘騎ニテ、伯耆ヨリ美作ノ院庄ヘ打越テ、國々ヘ勢ヲ差分ツ、

〔桃華藁葉〕梅津是心院略　寺領者略　美作國打穴庄與相國寺開山塔崇壽院有契約

〔吾妻鏡十七〕文治三年八月八日丙子、梶原平三景時原宗四郎行能押領於最勝、尊勝等寺領之由、有寺家訴之旨、被仰下之間、就被尋兩人、各獻陳狀、以之可被付職事云云、

平景時譴陳申　尊勝寺御領美作國林野英多保事

右下給候之折紙、謹以令拜見候畢、先度被仰下之刻、子細言上畢、御年貢以下雜事、任先例令辨勤候也、於代官改補條者、不可及寺家訴、其故者先例限候、御年貢雜事不致懈怠者、不可爲訴歟、只爲令停止景時沙汰如此候歟、略中

文治三年八月五日

〔吾妻鏡十〕文治六年元年建久四月十九日壬寅、

平景時

美作國　平大納言信國知行分、地頭前隼人佐康清、古岡北保地頭相逢使辨濟畢　藩封　田數石高

〔慶應元年武鑑〕松平三河守慶倫大廊下正四位上中將元治元子五月任　拾万石御在城美作西北條郡江戸ヨリ百七十一里

〔倭名類聚抄五國郡〕美作國略註管七郡田萬千二十一町三段二百五十六歩

〔伊呂波字類抄見國郡〕美作國管八郡略本田一万一千六百十六丁上下四七日

〔海東諸國記〕美作州　郡七、水田一万一千二十二町四段、

〔日本鹿子十二〕美作國七郡、上國東西三日半略中　知行高二十八万六千二百石、

平景時

當國浮田中納言秀家、慶長年中、森美作守忠政、同繩間雁同伯耆守長武、同美作守長成、元祿十二、松平越後守宣富、以後代々領之、朝散大夫三浦備後守弘次　二万三千石　居城美作眞島郡勝山江戸ヨリ百八十四里餘

明和元、三浦志摩守明次依二台命一築之、○節略

〔倭名類聚抄五國郡〕美作國略註管七郡田萬千二十一町三段二百五十六歩

〔伊呂波字類抄見國郡〕美作國管八郡略本田一万一千六百十六丁上下四七日

〔海東諸國記〕美作州　郡七、水田一万一千二十二町四段、

〔日本鹿子十二〕美作國七郡、上國東西三日半略中　知行高二十八万六千二百石、

〔美作鬢鏡〕總高　合貳拾五万九千七百八拾六石七斗八升六合　譯　高二万六千三百卅五石八斗四升四合　津山御領　西西條郡　高壹万四百八拾七石七斗八升四合　同　西北條郡　高壹万五千百二十石八斗三合　同　東北條郡　高壹万六百五十四石一升三合　同　東南條郡　高二万三百五十一石九斗六升五合　同　大庭郡　高二万四千五百四十石四升四合　勝南郡略中　高二万千七百七拾七石五升九合　久米南條郡略中　高二万八千八百五石三斗五升　久米北條郡略中　高三万三千二十七石五斗九升八合　眞島郡略中　高三万四千百拾二石四斗七升一合　勝北郡略中　高一万九千九百四拾五石九升四合　英田郡略中　高一万三千六百二十八石一斗二升四合　吉野郡

〔官中秘策五〕美作國　七郡略中

一石高貳拾五万九千三百五拾三石餘

〔吹塵錄人口及國高〕天保度御國高調略中

美作國御料私領　一高貳拾六万貳千九拾九石九斗六升五合

〔延喜式二十主税六〕諸國出擧正税公廨雜稻略中

美作國正税公廨各卅万束、國分寺料四万束、文殊會料二千束、修理池溝料三万束、道橋料一千束、救急料八万束、俘囚料一万束、施藥料一千束、

〔倭名類聚抄五國郡〕美作國略註管七(中略本額百二十二萬千束)

〔延喜式十五内藏〕諸國年料供進略中　櫚子(中略美作(中略)土佐六箇國各四合、○中略)

〔延喜式二十民部三〕年料春米略中　美作國大炊一千百石、糯十石、○中略

年料租春米略中　美作國一千斛○中略

年料別貢雜物略中　美作國筆六十管、紙麻七十斤、○中略

出擧稻

國産貢獻

人口

諸國貢蘇番次（略）○中　美作國十一壺（三口各大一升、八口各小一升、）○中略　右十四箇國爲第六番（子午年）○中略

交易雜物○略　美作國絹四百七十五疋、油三石、猪脂一斗、櫑子四合、鹿革十張、鹿皮廿張、鹿角十枚、大豆十石、小豆六石、醬大豆廿石、隔二年進醬大豆十五石、

〔延喜式二十四主計〕美作（略）○中　右十二國並上絲（略）○中

美作○略　右廿九國輸絹○略

美作國行程、上七日、下四日、

調、白絹十疋、緋帛廿五疋、緋絲卅絢、綠絲、縹絲、皂絲各五絢、黃絲、橡絲、各廿絢、練絲二百絢、自餘輸絹、鍬、鐵、庸、白木韓櫃九合、自餘輸綿米、中男作物、紙、茜、苦、黑葛、搗栗子、胡麻油、漫椒油、

〔延喜式三十大膳〕諸國貢進菓子（略）○中　美作國（搗栗子七斗、甘葛煎、）

〔延喜式三十典藥〕諸國進年料雜藥（略）○中

美作國卅一種　黃連十斤五兩、前胡、龍膽、人參各三斤、王不留行七斤、獨活九斤、桔梗八斤、香薷、商陸各五斤、藍漆二斤六兩、昌蒲二斤、細辛、芍藥各十斤、大戟二斤四兩、厚朴、紫菀各二斤十兩、升麻十斤、澤寫一斤三兩、黃精三斤十兩、茵芋十一兩、桑茸二斤、槌子一斗三升、署預十五兩、秦椒、蜀椒各七兩、麥門冬二斗四升、桃人七升、車前子三升、吳茱萸一斗、乾棗一斗五升、鹿角一具、白殭蠶二兩、

〔延喜式三十九内膳〕年料○中略　美作國鰒鮎

〔毛吹草三〕美作

鹽硝　木地　高田硯　誕生寺誕生木（數珠ニ用之、法然上人誕生所也、）

〔官中秘策五〕美作國　七郡

一人數拾七万五千百六拾八人　内　男　九万七千七拾九人　女　九万六千八拾九人

〔吹塵錄人口及國高〕諸國人數調○中略　文化元甲子年

御料私領
一人數拾五万三千三百九拾七人　内　男　八万五千百八拾八人　女　八万八千貳百九人　弘化三丙午年

諸國人數調○中略　高貳拾五万九千三百五拾三石餘

御料私領
一人數拾六万五千四百六拾八人　内　男　八万七千六百九拾八人　女　七万七千七百七拾八人　高貳拾六万貳千九拾九石餘

風俗

〔人國記〕美作國

美作國之風俗ハ、百人ガ九十人ハ萬事之作法卑劣ニ而、欲心深ク、譬バ借物ヲ而夫ヲ返納セズ而、手柄之樣ニ覺ル風儀ニ而、片意地强ク、我ハ人ニマサラン事ヲ思ヒ、過チ有テモ夫ニ敎訓ヲ加ルト人アレバ、却而夫ヲ邪智ヲ以テ、過チ無ガ如クニ云ナシ、似タル事ナレバ、我ガ過チヲ人ノ過チノヤウニ仕ナシテ、我ガ意地ヲ可立トスル事、上下皆是風俗也、然ドモ侍十人ノ内三四人ハ心掛如レ形ノ人モ有、奥意ニハ變ジ安キ所モアルナレバ、賴モシカラザル所アリトイヘドモ、石州ニハマサレリ、

名所

〔日本鹿子十二〕同國○美　中名所之部

久米更山（クメノサラヤマ）○中略　宇那提（ウナテノモリ）森　眞島○中略　滲森　鹽垂山　勝間田池　增田池　此外舊記にのする名所ありといへども、在所不分明、

〔古今和歌集二十大歌所御歌〕かへしもの、歌

美作やくめのさら山さら〳〵にわが名はたてじ萬代迄に

これは水の尾の御べの美作國の歌

〔增鏡十九くめのさら山〕やよひ二〇元弘二年のはじめの七日に、宮こをいでさせ給ふ（○後醍醐中略、）くめのさら山といふ所こえさせ給ふとて、

き、おきしくめのさら山こえゆかん道とはかねて思ひやはせし

雜載

〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒○中略　美作國五十人○中略

諸國器仗○中略　美作國甲三領、横刀十口、弓廿張、征箭廿具、胡籙廿具、

古事類苑

地部二十六

備前國

名稱

吉備國

備前國ハ、ビゼンノクニト云ヒ、舊クハ、キビノミチノクチト云フ、山陽道ニ在リ、東ハ播磨、西ハ備中、北ハ美作ニ接シ、南ハ海ニ至ル、東西凡ソ十二里、南北凡ソ十一里、初メ備前、備中、備後美作ノ地ヲ汎ク吉備國ト稱ス、後之ヲ備前ノ六郡ヲ割テ美作國ヲ置クリ、此國ハ、古ヘ國府ヲ御野郡ニ置キ、和氣磐梨、邑久、赤坂、上道、御野、津高、兒島ノ八郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、明治維新ノ後、磐梨、赤坂二郡ヲ合セテ、赤磐郡ト爲シ、御野、津高二郡ヲ合セテ、御津郡ト爲シ、新ニ岡山市ヲ設ケ、岡山縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五國郡〕備前岐比乃美知乃久知

〔運歩色葉集比〕備前　備州

〔日本風土記一寄語島名〕備前避然

〔倭訓栞前編七〕きび　吉備の國も、黍のよき國なるよしふるくいへり、今、前、中、後の三國に分てり、

〔古事記傳五〕吉備兒島、吉備は後に三國に分る、○中略　吉備中國書紀仁德卷に見ゆ、此はそのかみ既に三ツに分れてありしにや、但シ此ノ後も多く吉備國とのみあり、天武上卷に、吉備國ノ守なる人見えたるは、三國を統たる守にや、又同卷に吉備太宰と云職も見ゆ、又和銅六年に、備前國の六郡を分て、美作國とせられたり、名は黍より出たるなるべし、和名抄に、黍は木美とあれども、美と備は古ヘ常に通はしいへり、